

第3章 青少年調査基礎集計結果

1. 子どもの頃の体験の変化

【青少年調査(中2・高2結果)】

- ◇ 「自然体験」、「動植物とのかかわり」、「友だちとの遊び」は、中学2年生の方が、高校2年生よりも幼少期から小学生期までに体験している割合が減っている。
- ◇ 「家族行事」は中学2年生の方が、高校2年生よりも幼少期から小学生期までに体験している割合が増えている。

青少年調査のうち中学2年生と高校2年生に対する調査結果を用い、子どもの頃の体験のカテゴリごとに合計得点の平均値を算出した。それを学年で比較したのが下図である。

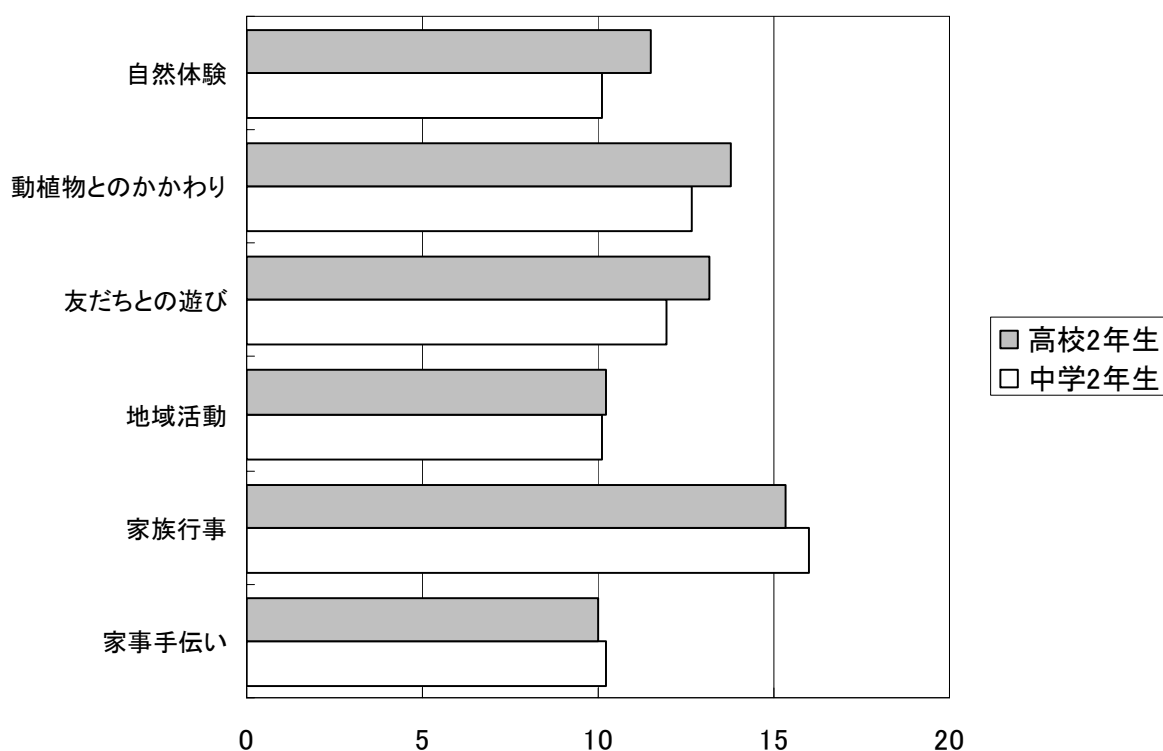


図 4-1 幼少期から小学生期までの体験の各カテゴリ別合計得点の平均[0-40点]

次頁以降では、同じく中学2年生と高校2年生に対する調査結果を用い、子どもの頃の体験のカテゴリごとに、各年齢期における体験を得点化^{*1}し、中学2年生と高校2年生とで比較^{*2}した。また、体験のカテゴリを構成する各項目においても中学2年生と高校2年生の体験の多寡の割合を比較した。

※1 子どもの頃の体験の得点化及び多寡の分類方法

- 1) 各項目の回答を「何度もある」2点, 「少しある」1点, 「ほとんどない」0点と得点化
- 2) 各カテゴリを構成する5設問の得点(1設問0~2点×5設問=0~10点)を年齢期(小学校に通う前~中学校)ごとに合算した後, 各年齢期の合計得点を合算し, カテゴリの得点を算出
- 3) カテゴリごとに, カテゴリの得点の平均(M)及び標準偏差(SD)を算出し, 「平均+標準偏差の2分の1」以上を「多」, 「平均-標準偏差の2分の1」以下を「少」, 「多」と「少」の中間の三群に分類

※2 平均値の比較方法

平均値の比較については, 得点に有意な差がみられるかどうかt検定を用いて検定を行った。それを「各年齢期における平均値の比較」として表にまとめた。

① 自然体験

【青少年調査(中2・高2結果)】

◇ 幼少期から小学生期までの「自然体験」は中学2年生の方が、高校2年生より減っている。

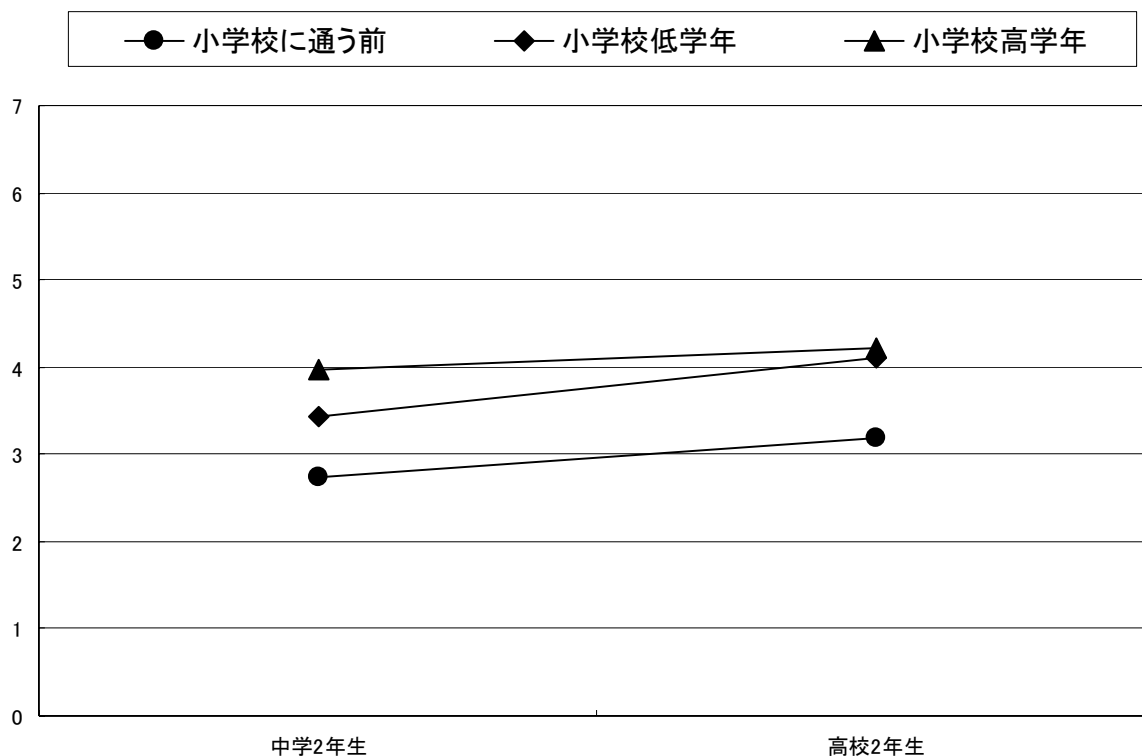


図 4-1-① 「自然体験」の各年齢期別合計得点の平均[0-10点]

表 4-1-① 各年齢期における平均値の比較(t検定結果)

	t	p
小学校に通う前	-6.461	***
小学校低学年	-10.168	***
小学校高学年	-3.937	***

***p<.001 **p<.01 *p<.05

n.s.(有意ではない)

t値(平均値に差があるかどうかを確かめるための検定によって得られた数値)

【「自然体験」に関する5項目】

- ・海や川で貝を採ったり魚を釣ったりしたこと
- ・海や川で泳いだこと
- ・太陽が昇るところや沈むところを見たこと
- ・夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと
- ・湧き水や川の水を飲んだこと

青少年調査のうち中学2年生と高校2年生に対する調査結果を用い、「自然体験」に関する5項目を得点化し、年齢期ごとに中学2年生と高校2年生を比較したところ、すべての年齢期において中学2年生の値の方が低くなっている。

【青少年調査(中2・高2結果)】

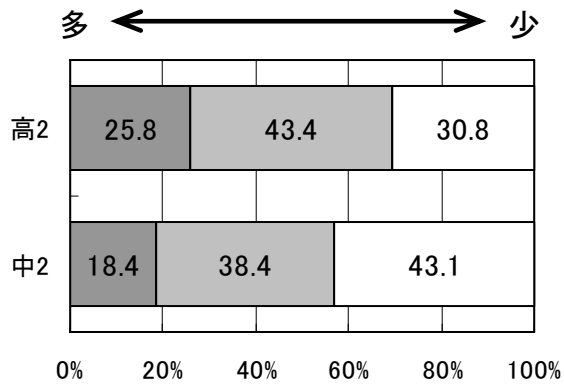


図 4-1-①-1「海や川で貝を採ったり魚を釣ったりしたこと(子どもの頃)の推移」

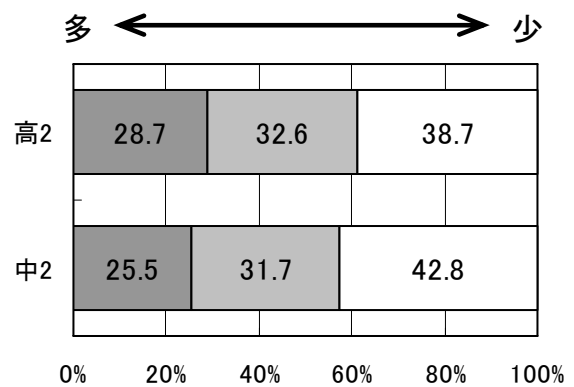


図 4-1-①-2「海や川で泳いだこと(子どもの頃)の推移」

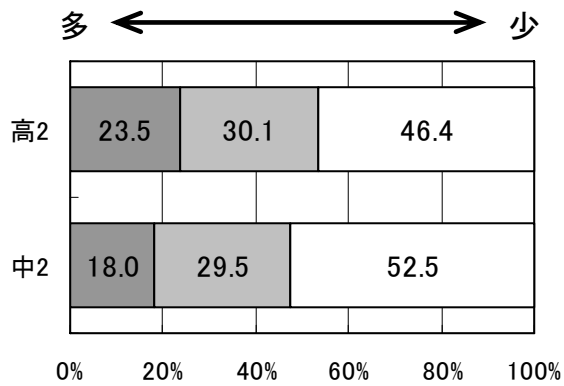


図 4-1-①-3「太陽が昇るところや沈むところを見たこと(子どもの頃)の推移」

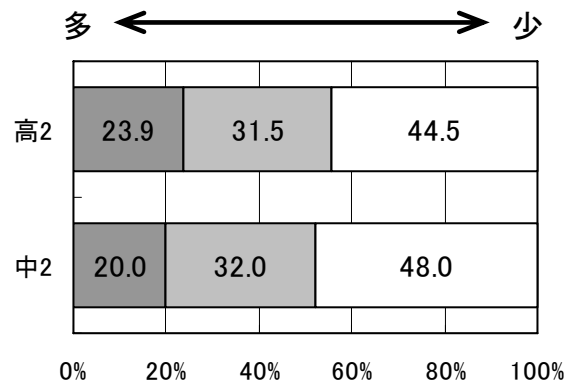


図 4-1-①-4「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと(子どもの頃)の推移」

■ 多 □ 中 □ 少

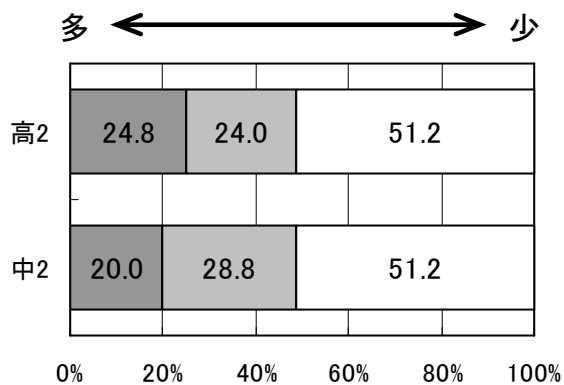


図 4-1-①-5「湧き水や川の水を飲んだこと(子どもの頃)の推移」

「自然体験」に関する 5 項目でみると、すべての項目において高校 2 年生の方が中学 2 年生より、「自然体験」が多い群の割合が高い傾向がみられる。そのうち「海や川で貝を採ったり魚を釣ったりしたこと」については一番差が大きく、体験の多い群の高校 2 年生は 25.8%であるのに対し、中学 2 年生では 18.4%である。

② 動植物とのかかわり

【青少年調査(中2・高2結果)】

◇ 幼少期から小学生期までの「動植物とのかかわり」は中学2年生の方が、高校2年生より減っている。

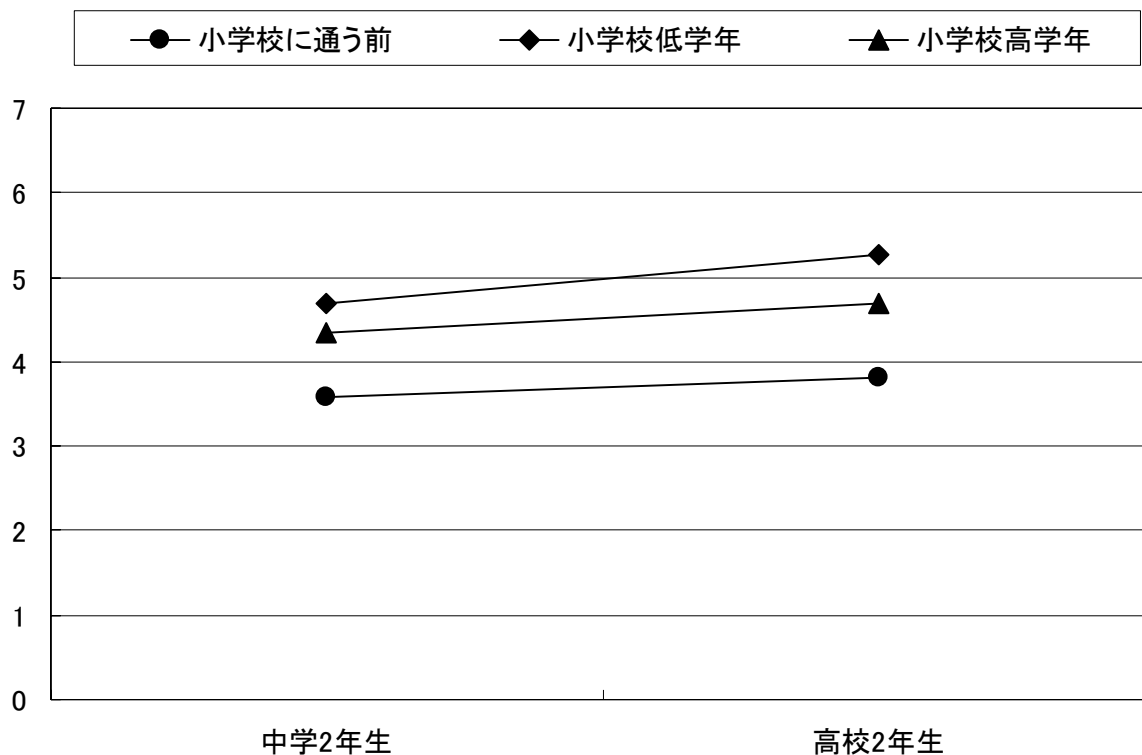


図 4-1-② 「動植物とのかかわり」の各年齢期別合計得点の平均[0-10点]

表 4-1-② 各年齢期における平均値の比較(t検定結果)

	t	p
小学校に通う前	-3.209	***
小学校低学年	-8.428	***
小学校高学年	-5.052	***

***p<.001 **p<.01 *p<.05

n.s.(有意ではない)

t値(平均値に差があるかどうかを確かめるための検定によって得られた数値)

【「動植物とのかかわり」に関する5項目】

- ・米や野菜などを栽培したこと
- ・花を育てたこと
- ・ペットなどの生き物を世話したこと
- ・チョウやトンボ、バッタなどの昆虫を捕まえたこと
- ・野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと

青少年調査のうち中学2年生と高校2年生に対する調査結果を用い、「動植物とのかかわり」に関する5項目を得点化し、年齢期ごとに中学2年生と高校2年生を比較したところ、すべての年齢期において中学2年生の値の方が低くなっている。

【青少年調査(中2・高2 結果)】

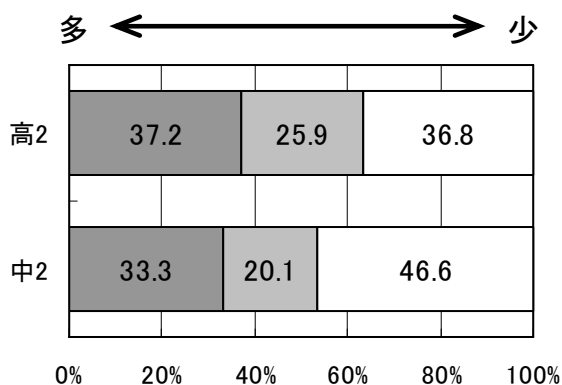


図 4-1-②-1「米や野菜などを栽培したこと(子どもの頃)の推移」

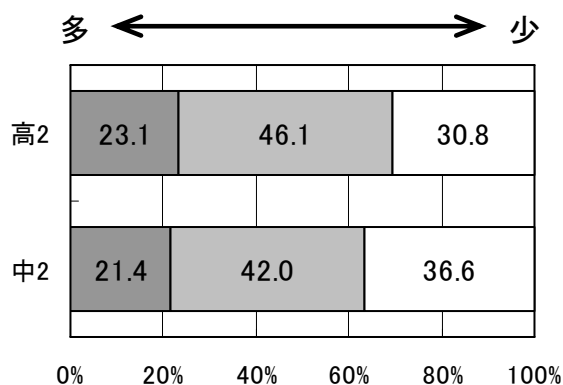


図 4-1-②-2「花を育てたこと(子どもの頃)の推移」

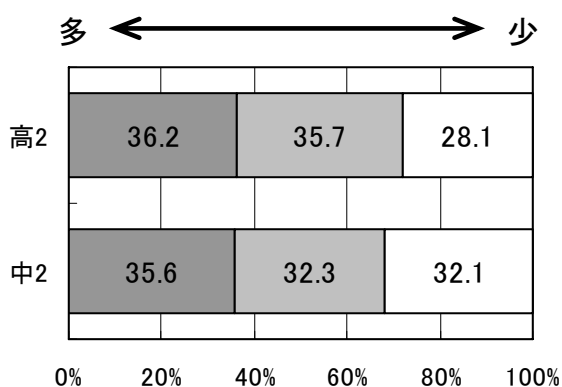


図 4-1-②-3「ペットなどの生き物を世話したこと(子どもの頃)の推移」

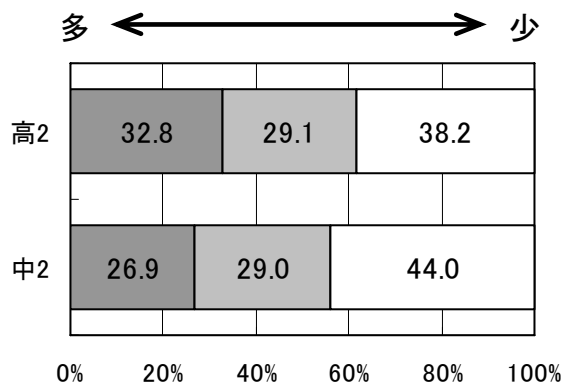


図 4-1-②-4「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫を捕まえたこと(子どもの頃)の推移」

■ 多 □ 中 □ 少

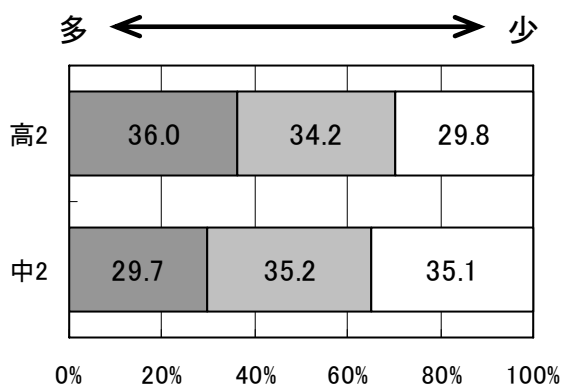


図 4-1-②-5「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと(子どもの頃)の推移」

「動植物とのかかわり」に関する 5 項目でみると、すべての項目において高校 2 年生の方が中学 2 年生より、「動植物とのかかわり」が多い群の割合が高い傾向がみられる。そのうち「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと」については一番差が大きく、体験の多い群の高校 2 年生は 36.0%であるのに対し、中学 2 年生では 29.7%である。

③ 友だちとの遊び

【青少年調査(中2・高2結果)】

◇幼少期から小学生期までの「友だちとの遊び」は中学2年生の方が、高校2年生より少ない傾向がみられる。

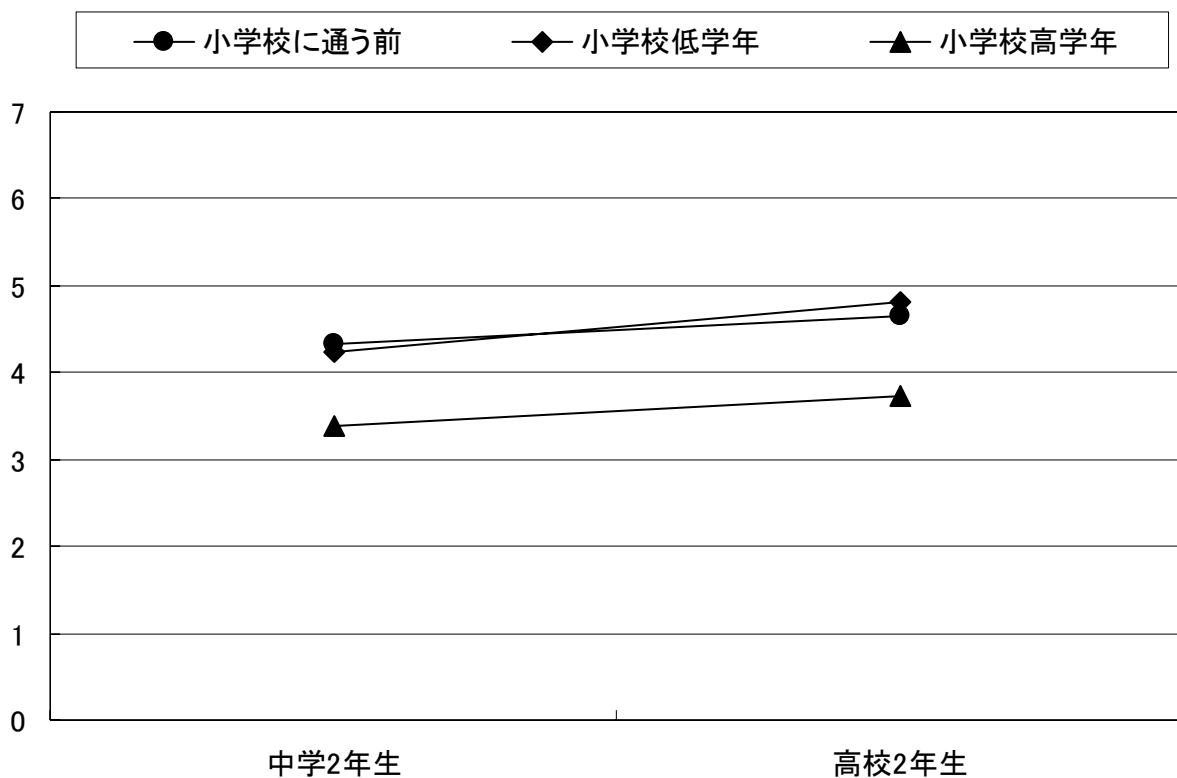


図 4-1-③ 「友だちとの遊び」の各年齢期別合計得点の平均[0-10 点]

表 4-1-③ 各年齢期における平均値の比較(t 検定結果)

	t	p
小学校に通う前	-4.478	***
小学校低学年	-9.577	***
小学校高学年	-6.185	***

***p<.001 **p<.01 *p<.05

n.s.(有意ではない)

t値(平均値に差があるかどうかを確かめるための検定によって得られた数値)

【「友だちとの遊び」に関する5項目】

- ・かくれんぼや缶けりをしたこと
- ・ままごとやヒーローごっこをしたこと
- ・すもうやおしくらまんじゅうをしたこと
- ・友人とケンカしたこと
- ・弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと

青少年調査のうち中学2年生と高校2年生に対する調査結果を用い、「友だちとの遊び」に関する5項目を得点化し、年齢期ごとに中学2年生と高校2年生を比較したところ、すべての年齢期において中学2年生の値の方が低くなっている。

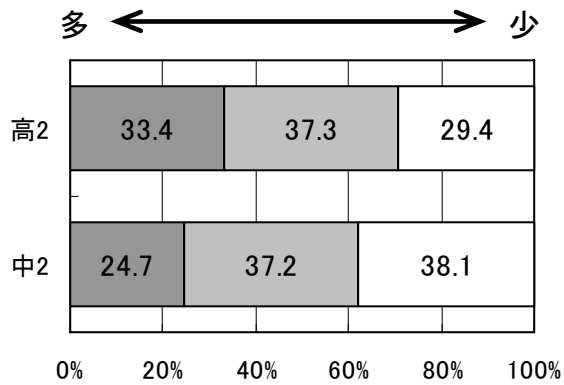


図 4-1-③-1 「かくれんぼや缶けりをしたこと(子どもの頃)の推移」

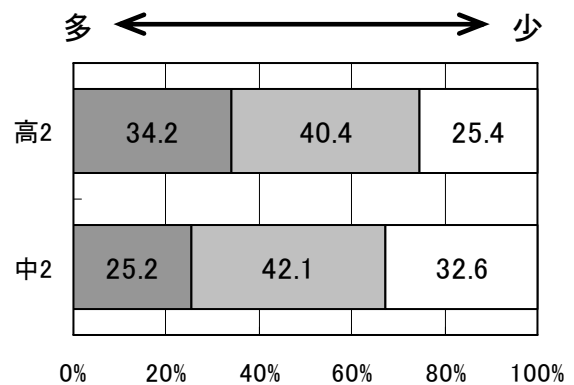


図 4-1-③-2 「ままごとやヒーローごっこをしたこと(子どもの頃)の推移」

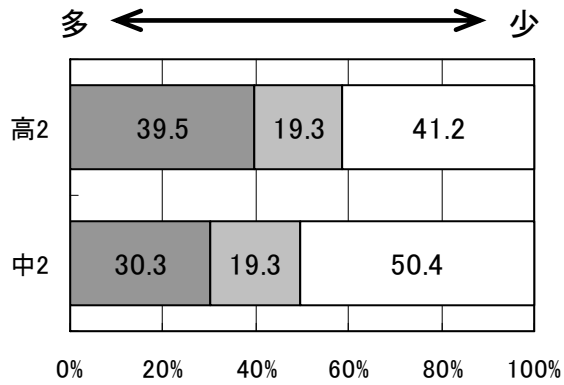


図 4-1-③-3 「すもうやおしくらまんじゅうをしたこと(子どもの頃)の推移」

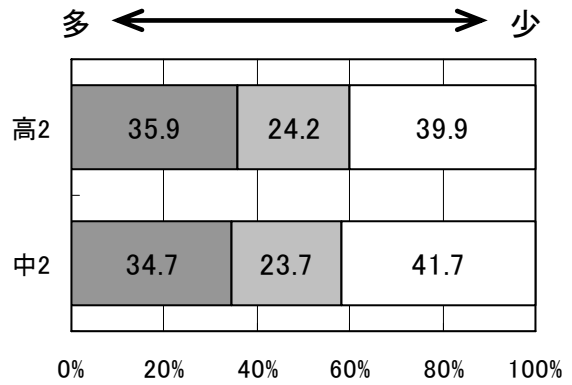


図 4-1-③-4 「友人とケンカしたこと(子どもの頃)の推移」

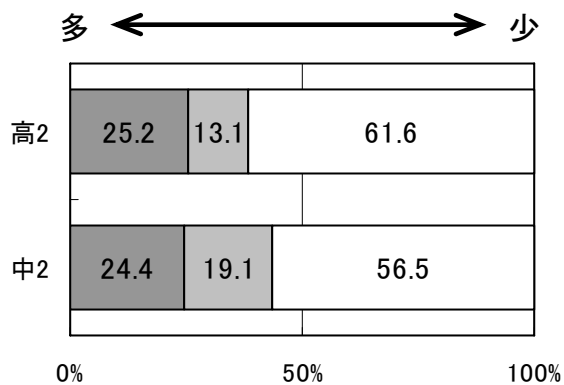


図 4-1-③-5 「弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと(子どもの頃)の推移」

■ 多 ■ 中 □ 少

「友だちとの遊び」に関する 5 項目で見ると、「かくれんぼや缶けりをしたこと」、「ままごとやヒーローごっこをしたこと」、「すもうやおしくらまんじゅうをしたこと」の 3 項目において高校 2 年生の方が中学 2 年生より体験している割合が高い。

「友人とケンカしたこと」については、差がみられず、「弱いものいじめやケンカを注意したり、やめさせたこと」については中学 2 年生の方が高校 2 年生より体験している割合が高い。

④ 地域活動

【青少年調査(中2・高2結果)】

◇「地域活動」は中学2年生と高校2年生の年代では、年齢期や活動内容によって違いがあり、全体では差がみられない。

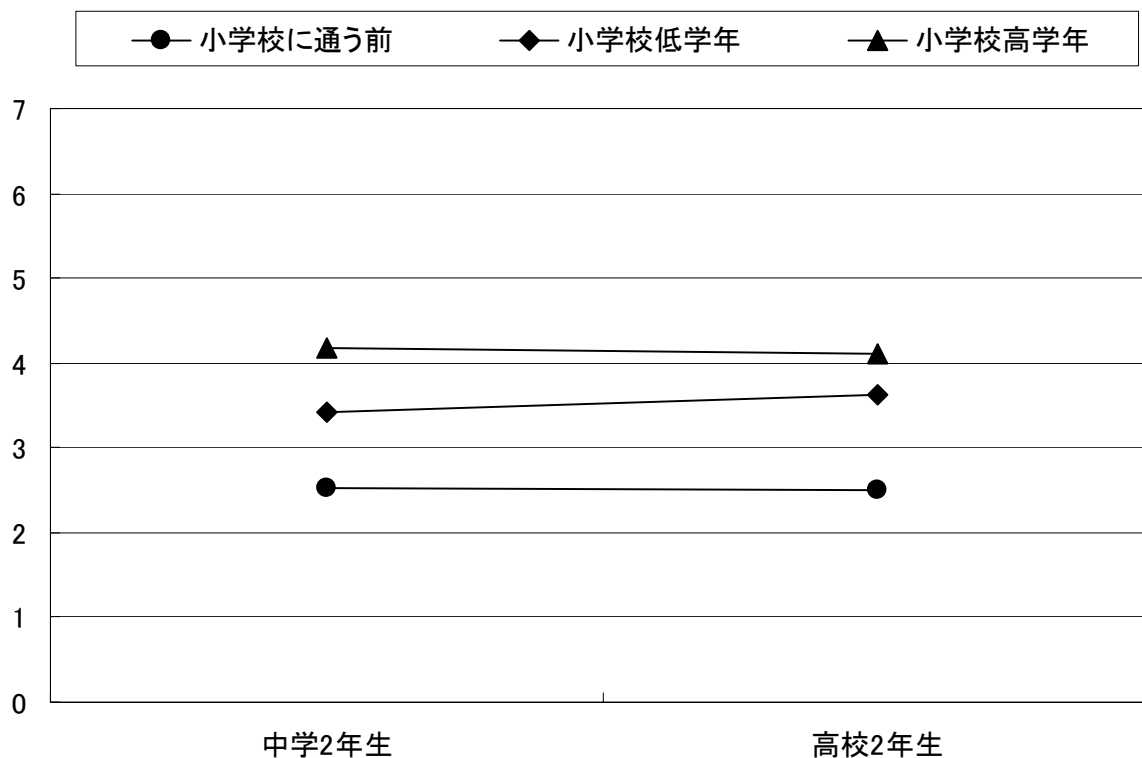


図 4-1-④ 「地域活動」の各年齢期別合計得点の平均 [0-10 点]

表 4-1-④ 各年齢期における平均値の比較(t 検定結果)

	t	p
小学校に通う前	0.379	n.s.
小学校低学年	-3.671	***
小学校高学年	1.000	n.s.

***p<.001 **p<.01 *p<.05

n.s.(有意ではない)

t値(平均値に差があるかどうかを確かめるための検定によって得られた数値)

【「地域活動」に関する5項目】

- ・近所の小さい子どもと遊んであげたこと
- ・近所の人に叱られたこと
- ・バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと
- ・祭りに参加したこと
- ・地域清掃に参加したこと

青少年調査のうち中学2年生と高校2年生に対する調査結果を用い、「地域活動」に関する5項目を得点化し、年齢期ごとに中学2年生と高校2年生を比較したところ、小学校に通う前と小学校高学年期では平均値に差がみられないが、小学校低学年期において中学2年生の値の方が低くなっている。

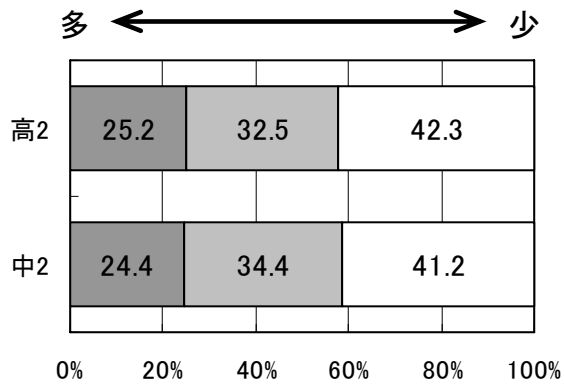


図 4-1-④-1 「近所の小さい子どもと遊んであげたこと(子どもの頃)の推移」

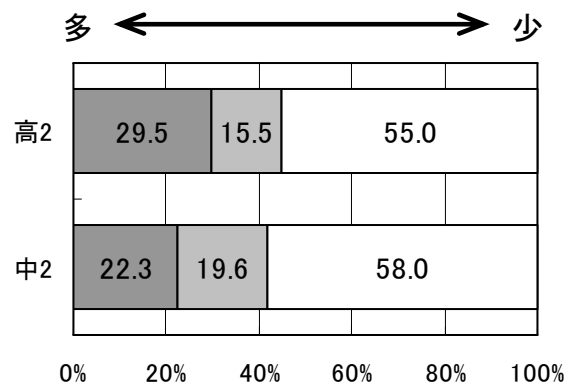


図 4-1-④-2 「近所の人に叱られたこと(子どもの頃)の推移」

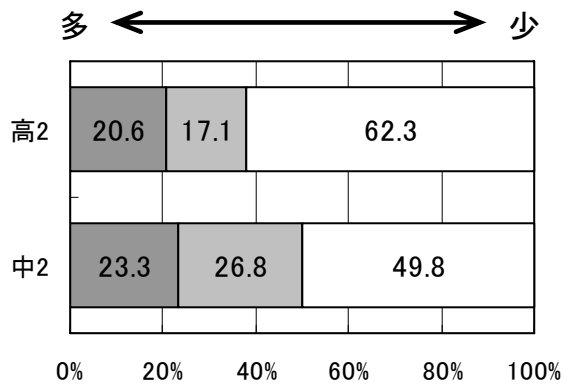


図 4-1-④-3 「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと(子どもの頃)の推移」

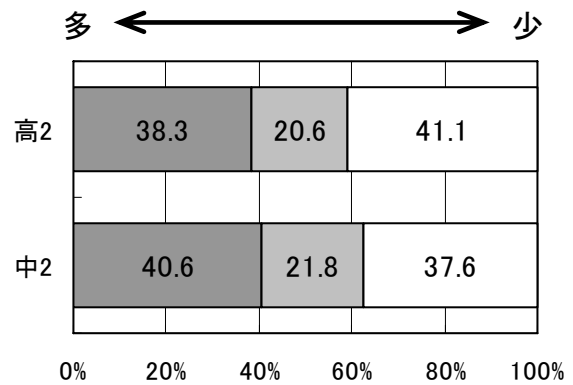


図 4-1-④-4 「祭りに参加したこと(子どもの頃)の推移」

■ 多 □ 中 □ 少

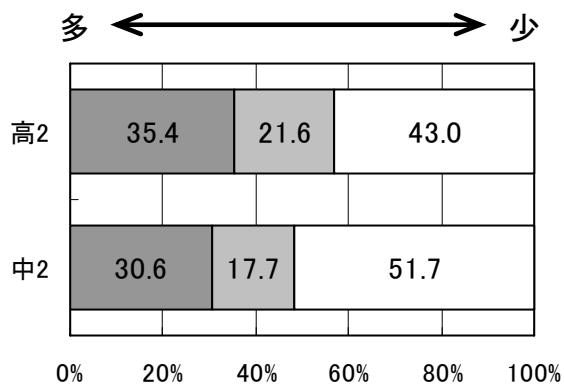


図 4-1-④-5 「地域清掃に参加したこと(子どもの頃)の推移」

「地域活動」に関する5項目でみると、「近所の人に叱られたこと」、「地域清掃に参加したこと」については、高校2年生が中学2年生より体験している割合が高い。一方、「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと」、「祭りに参加したこと」については中学2年生が高校2年生より体験の多い群の割合が高い。「近所の小さい子どもと遊んであげたこと」については差がみられない。

⑤ 家族行事

【青少年調査(中2・高2結果)】

◇ 幼少期から小学生期までの「家族行事」は中学2年生の方が、高校2年生より多い傾向がみられる。

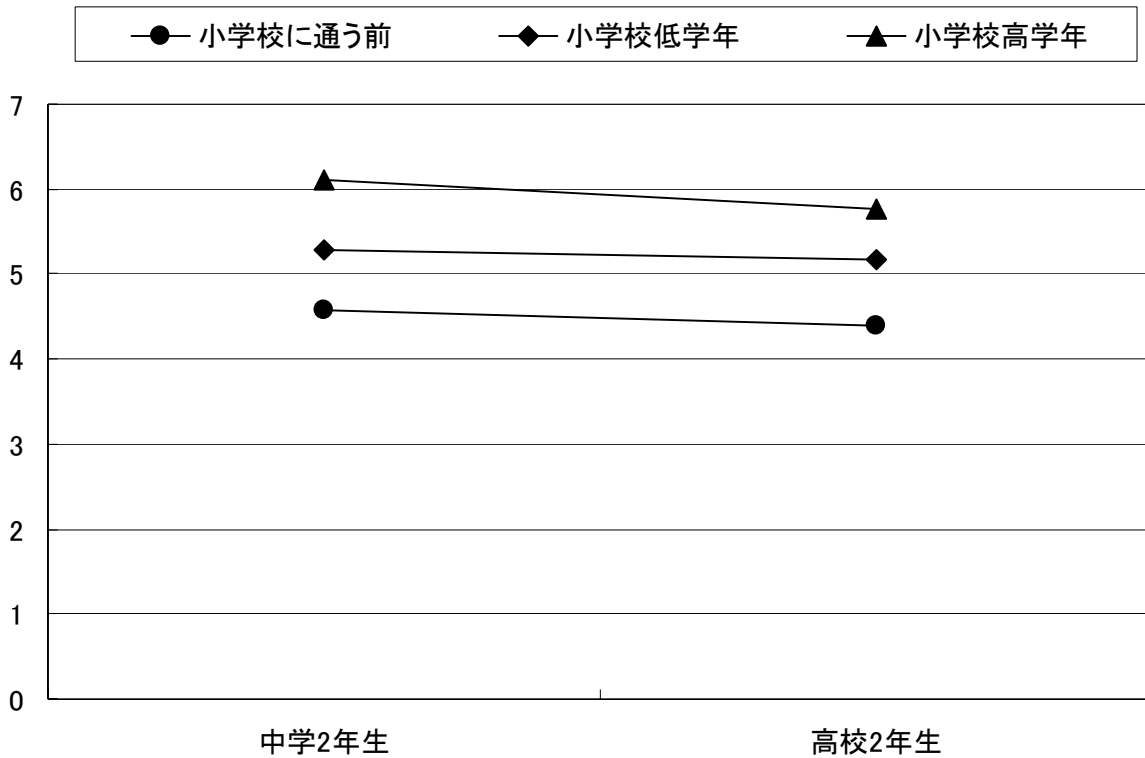


図 4-1-⑤ 「家族行事」の各年齢期別合計得点の平均 [0-10 点]

表 4-1-⑤ 各年齢期における平均値の比較 (t 検定結果)

	t	p
小学校に通う前	2.813	**
小学校低学年	2.185	*
小学校高学年	5.854	***

***p<.001 **p<.01 *p<.05

n.s.(有意ではない)

t値(平均値に差があるかどうかを確かめるための検定によって得られた数値)

【「家族行事」に関する項目】

- ・家族の誕生日を祝ったこと
- ・お墓参りしたこと
- ・家族の病気の看病をしたこと
- ・親戚、友人の家にひとりで宿泊したこと
- ・家族で家の大掃除をしたこと

青少年調査のうち中学2年生と高校2年生に対する調査結果を用い、「家族行事」に関する5項目を得点化し、年齢期ごとに中学2年生と高校2年生を比較したところ、すべての年齢期において高校2年生の値の方が低くなっている。

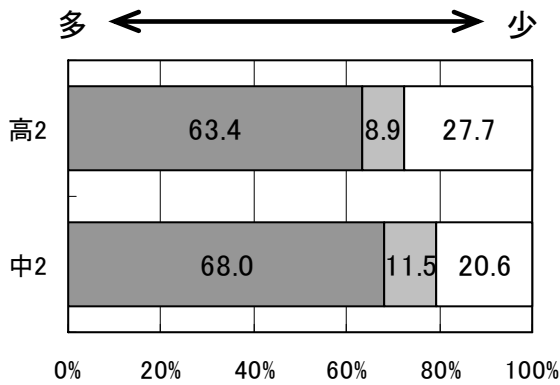


図 4-1-⑤-1 「家族の誕生日を祝ったこと(子どもの頃)の推移」

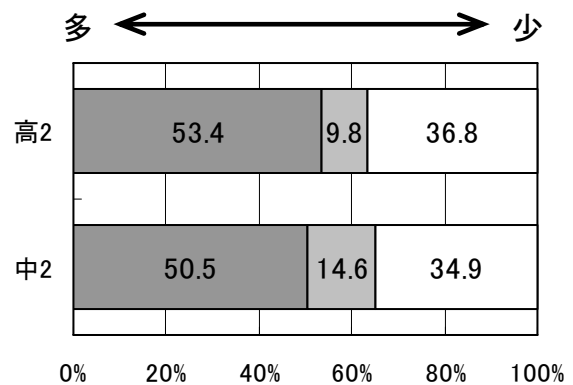


図 4-1-⑤-2 「お墓参りしたこと(子どもの頃)の推移」

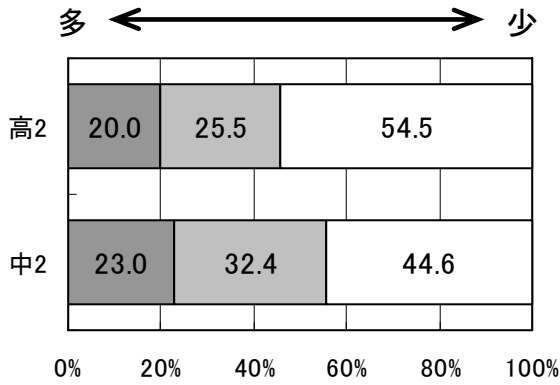


図 4-1-⑤-3 「家族の病気の看病をしたこと(子どもの頃)の推移」

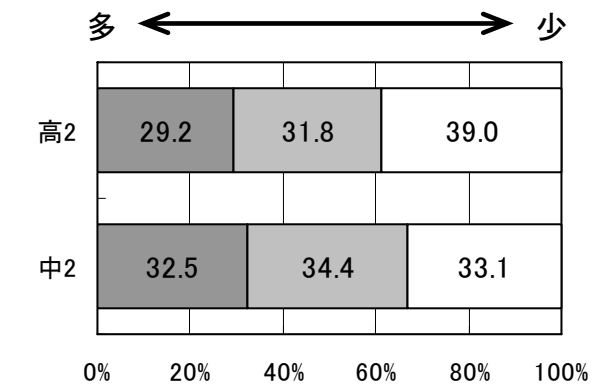


図 4-1-⑤-4 「親戚、友人の家にひとりで宿泊したこと(子どもの頃)の推移」

■ 多 ■ 中 □ 少

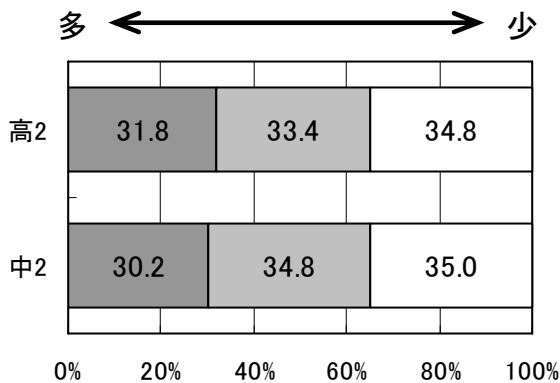


図 4-1-⑤-5 「実家で家の大掃除をしたこと(子どもの頃)の推移」

「家族行事」に関する 5 項目でみると、「家族の誕生日を祝ったこと」「家族の病気の看病をしたこと」「親戚、友人の家にひとりで宿泊したこと」の 3 項目については、中学 2 年生が高校 2 年生より体験している割合が高い。

「お墓参りしたこと」、「実家で家の大掃除をしたこと」については、差がみられない。

⑥ 家事手伝い

【青少年調査(中2・高2結果)】

◇幼少期から小学生期までの「家事手伝い」では、中学2年生と高校2年生で大きな違いはみられない。

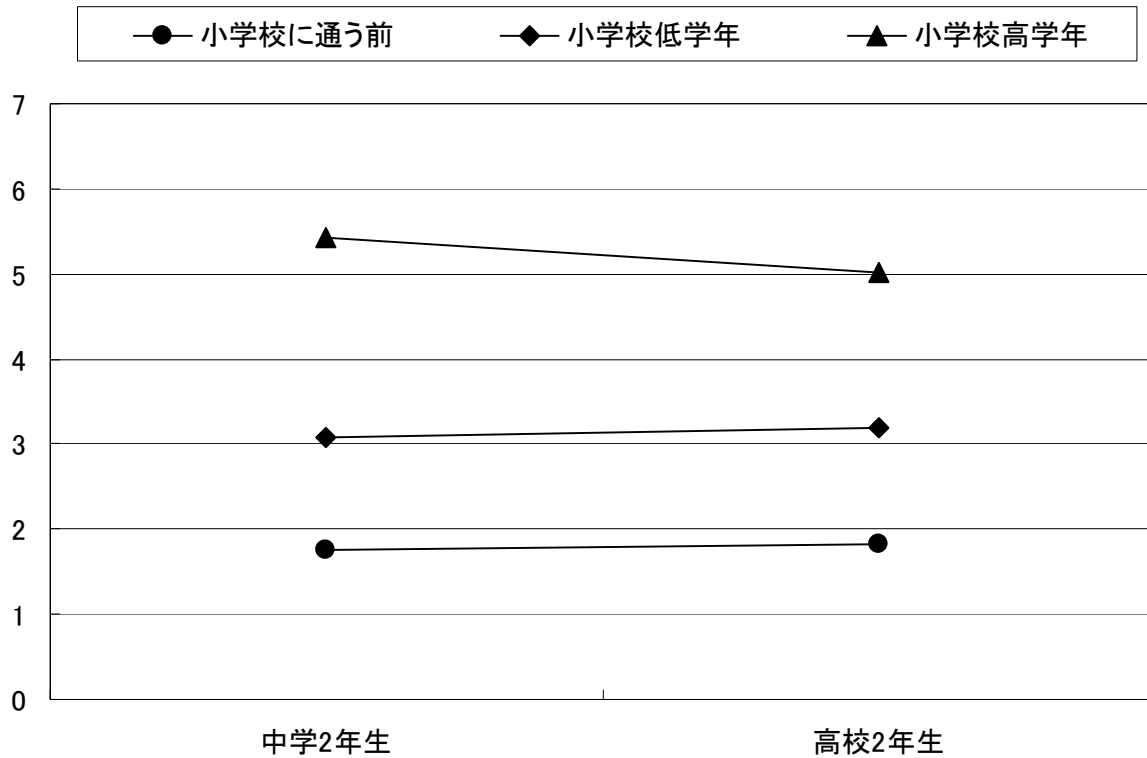


図 4-1-⑥ 「家事手伝い」の各年齢期別合計得点の平均[0-10点]

表 4-1-⑥ 各年齢期における平均値の比較(t検定結果)

	t	p
小学校に通う前	-1.172	n.s.
小学校低学年	-1.666	n.s.
小学校高学年	5.634	***

***p<.001 **p<.01 *p<.05

n.s.(有意ではない)

t値(平均値に差があるかどうかを確かめるための検定によって得られた数値)

【「家事手伝い」に関する5項目】

- ・ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと
- ・家の中の掃除や整頓を手伝ったこと
- ・ゴミ袋を出したり、捨てたこと
- ・洗濯をしたり干したりしたこと
- ・食器をそろえたり、片付けたりしたこと

青少年調査のうち中学2年生と高校2年生に対する調査結果を用い、「家事手伝い」に関する5項目を得点化し、年齢期ごとに中学2年生と高校2年生を比較したところ、小学校高学年において高校2年生の値の方が低くなっている。その他の年齢期では平均値に差がみられない。

【青少年調査(中2・高2結果)】

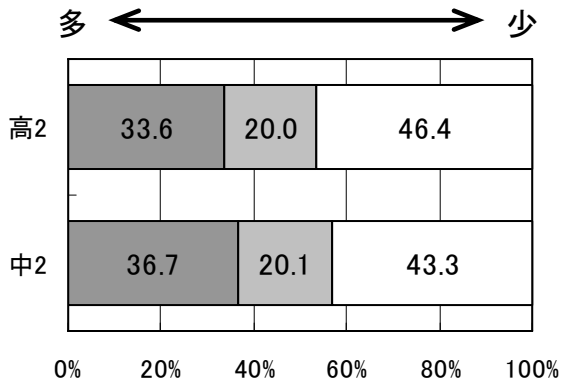


図 4-1-⑥-1 「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと(子どもの頃)の推移」

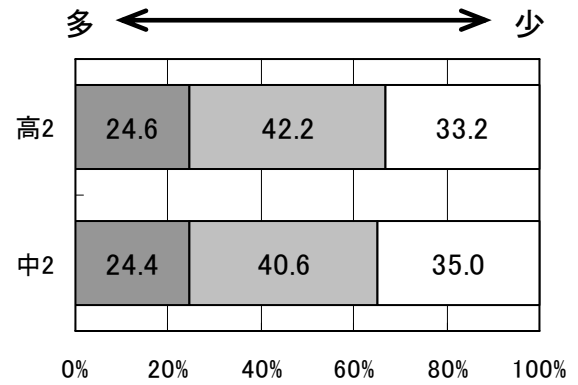


図 4-1-⑥-2 「家の中の掃除や整頓を手伝ったこと(子どもの頃)の推移」

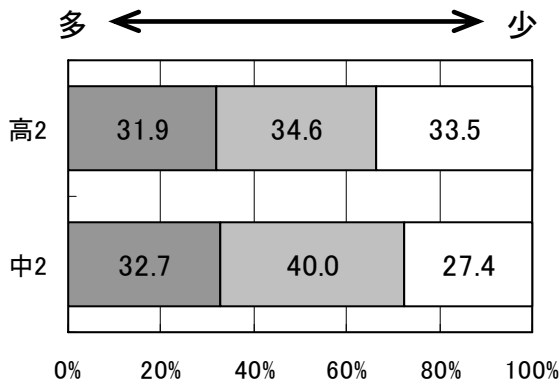


図 4-1-⑥-3 「ゴミ袋を出したり、捨てたこと(子どもの頃)の推移」

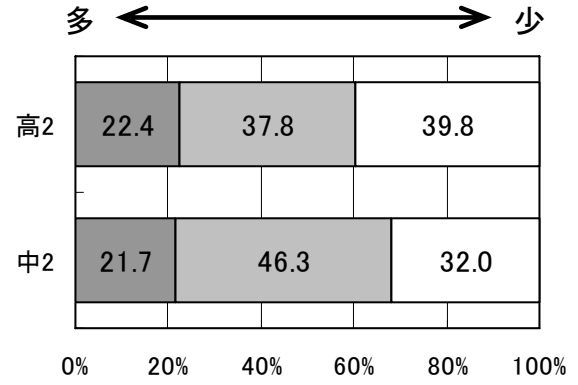


図 4-1-⑥-4 「洗濯をしたり干したりしたこと(子どもの頃)の推移」

■ 多 □ 中 □ 少

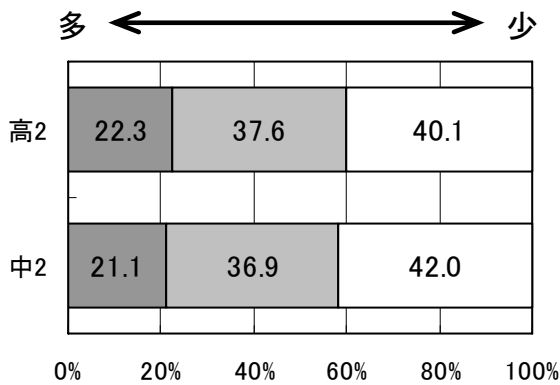


図 4-1-⑥-5 「食器をそろえたり、片付けたりしたこと(子どもの頃)の推移」

「家事手伝い」に関する 5 項目でみると、「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」については差がみられ、中学 2 年生が高校 2 年生より「家事手伝い」が多い。

その他の 4 項目については、特に差がみられない。

2. 「体験の力」の実態

【青少年調査】

◇ 「体験の力」については、「共生感」以外の各カテゴリ（「自尊感情」、「意欲・関心」、「規範意識」、「人間関係能力」、「職業意識」、「文化的作法・教養」）において、学年が上がるほど低い得点を示す傾向がみられる。

青少年調査の結果を用い、「体験の力」のカテゴリごとに合計得点の平均値を算出した。それを学年で比較したのが下図である。

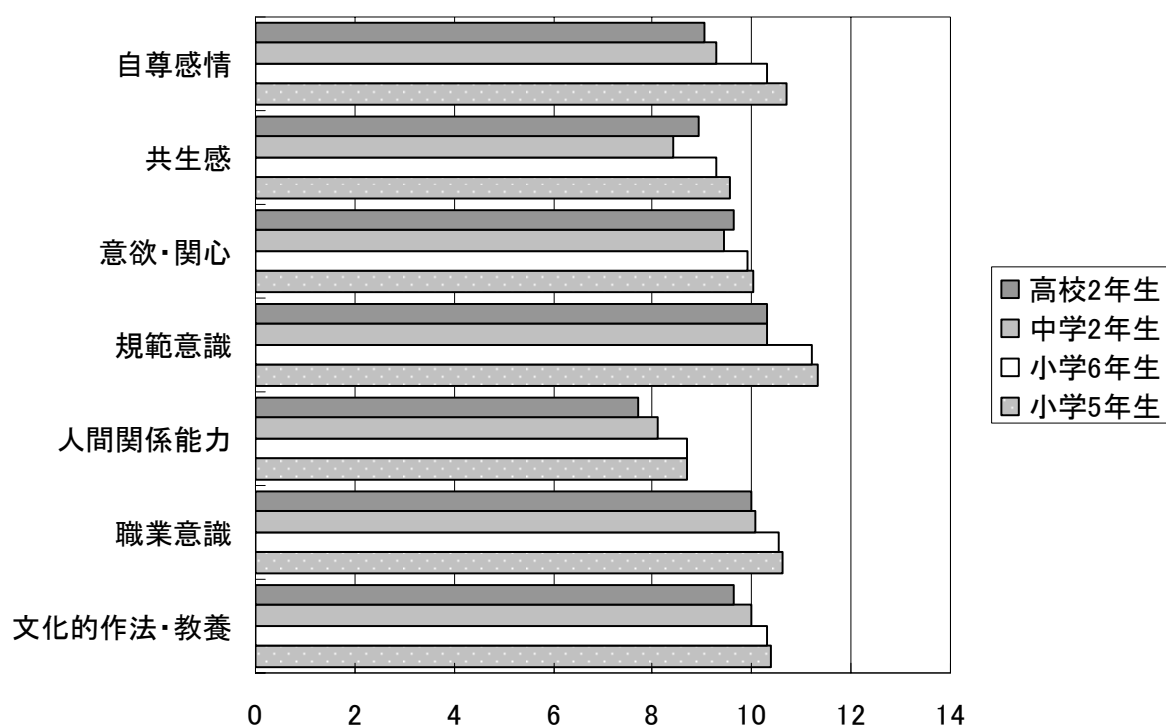


図 4-2 「体験の力」の各カテゴリ別合計得点の平均[0-15 点]

次頁以降では、同じく青少年調査の結果を用い、「体験の力」の各項目を得点化^{※1}し、学年ごとに合計得点の平均値^{※2}を比較した。

※1 「体験の力」の得点化方法

- 1) 各項目の回答を「とてもあてはまる」を3点、「ややあてはまる」を2点、「あまりあてはまらない」を1点、「まったくあてはまらない」を0点と得点化
- 2) 各カテゴリを構成する5設問の得点（1設問0～3点×5設問＝0～15点）を算出
「体験の力」カテゴリ：「自尊感情」、「共生感」、「意欲・関心」、「規範意識」、「人間関係能力」、「職業意識」、「文化的作法・教養」

※2 平均値の比較方法

平均値の比較については、得点に有意な差がみられるかどうか分散分析を用いて検定を行った。有意な差がみられた年代間をまとめ、各グラフと並べて示した。

【青少年調査】

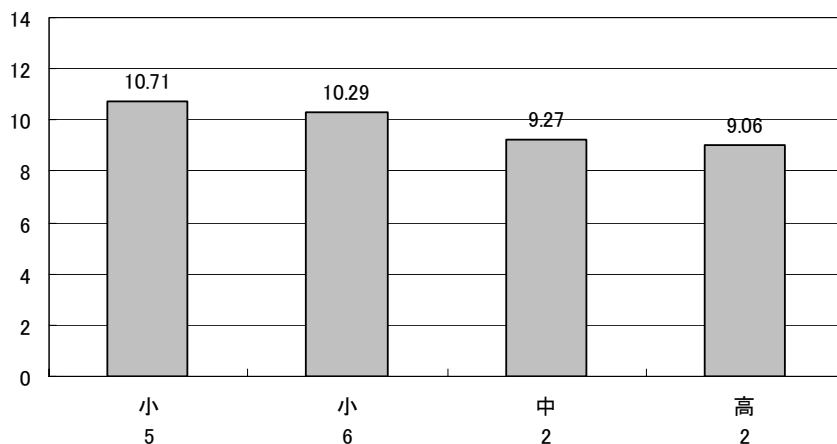


図 4-2-1 「自尊感情」の各年齢期別合計得点の平均[0-15 点]

- [自尊感情]
- ・自分のことが好きである
 - ・家族を大切にできる人間だと思う
 - ・学校が好きである
 - ・今、住んでいる町が好きである
 - ・日本が好きである

平均値に有意差があった学年間
(分散分析結果)

- 小5-小6
- 小5-中2
- 小5-高2
- 小6-中2
- 小6-高2
- 中2-高2

「自尊感情」については「自分のことが好きである」、「家族を大切にできる人間だと思う」等 5 項目で質問している。その 5 項目の合計得点の平均値を比較したところ、最小値が高校 2 年生の 9.06 で、最大値が小学 5 年生の 10.71 である。「自尊感情」において、すべての学年間に有意な差がみられ、学年が上がるほど平均値が下がっている。

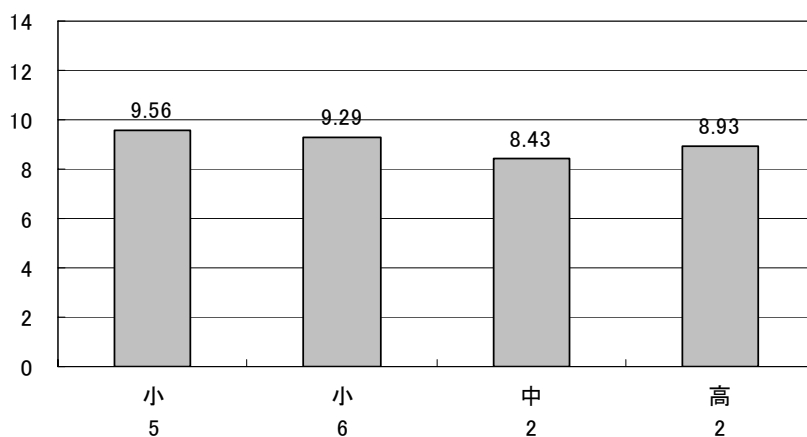


図 4-2-2 「共生感」の各年齢期別合計得点の平均[0-15 点]

- [共生感]
- ・休みの日は自然の中で過ごすことが好きである
 - ・動物園や水族館などに行くのが好きである
 - ・悲しい体験をした人の話を聞くとつらくなる
 - ・友だちがとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる
 - ・人から無視されている人のことが心配になる

平均値に有意差があった学年間
(分散分析結果)

- 小5-小6
- 小5-中2
- 小5-高2
- 小6-中2
- 小6-高2
- 中2-高2

「共生感」については「休みの日は自然の中で過ごすことが好きである」、「動物園や水族館に行くのが好きである」等 5 項目で質問している。その 5 項目の合計得点の平均値を比較したところ、最小値が中学 2 年生の 8.43 で、最大値が小学 5 年生の 9.56 である。「共生感」において、すべての学年間に有意な差がみられ、特に小学校 5 年生から中学校 2 年生にかけては平均値が下がっており、中学 2 年生から高校 2 年生にかけては上がっている。

【青少年調査】

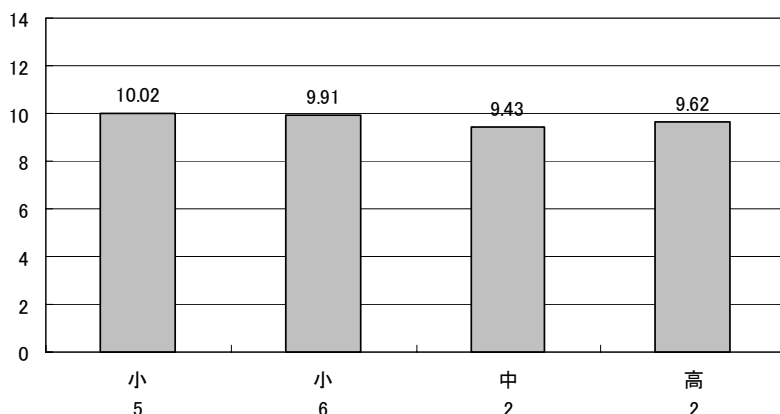


図 4-2-3 「意欲・関心」の各年齢期別合計得点の平均[0-15 点]

- [意欲・関心]
- ・もっと深く学んでみたいことがある
 - ・なんでも最後までやり遂げたい
 - ・経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい
 - ・分からないことはそのままにしないで調べたい
 - ・いろいろな国に行ってみたい

平均値に有意差があった学年間
(分散分析結果)

- 小5-中2
- 小5-高2
- 小6-中2
- 小6-高2

「意欲・関心」については「もっと深く学んでみたいことがある」、「何でも最後までやり遂げたい」等 5 項目で質問している。その 5 項目の合計得点の平均値を比較したところ、最小値が中学 2 年生の 9.43 で、最大値が小学 5 年生の 10.02 である。「意欲・関心」において、小学 5 年生・小学 6 年生と中学 2 年生・高校 2 年生との間に有意な差がみられ、特に小学校 5 年生から中学校 2 年生にかけては平均値が下がっている。

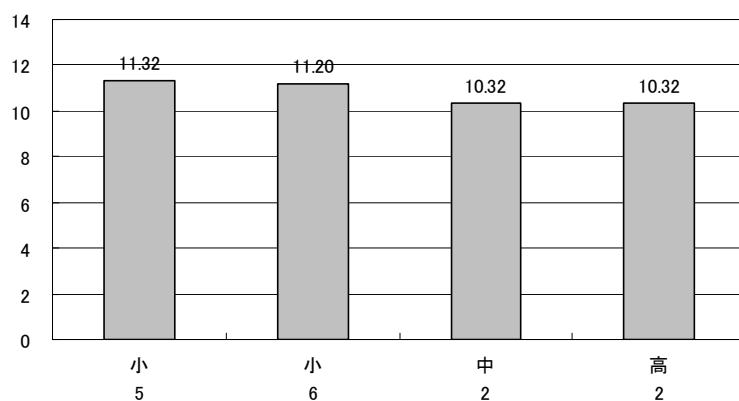


図 4-2-4 「規範意識」の各年齢期別合計得点の平均[0-15 点]

- [規範意識]
- ・叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う
 - ・交通規則など社会のルールは守るべきだと思う
 - ・電車やバスの中で化粧や整髪をしても良いと思う
 - ・電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う
 - ・他人をいじめている人がいると、腹が立つ

平均値に有意差があった学年間
(分散分析結果)

- 小5-中2
- 小5-高2
- 小6-中2
- 小6-高2

「規範意識」については「叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う」、「交通規則など社会のルールは守るべきだと思う」等 5 項目で質問している。その 5 項目の合計得点の平均値を比較したところ、最小値が中学 2 年生と高校 2 年生の 10.32 で、最大値が小学 5 年生の 11.32 である。「規範意識」において、小学 5 年生・小学 6 年生と中学 2 年生・高校 2 年生との間に有意な差がみられ、特に小学校 5 年生から中学校 2 年生にかけては平均値が下がっている。

【青少年調査】

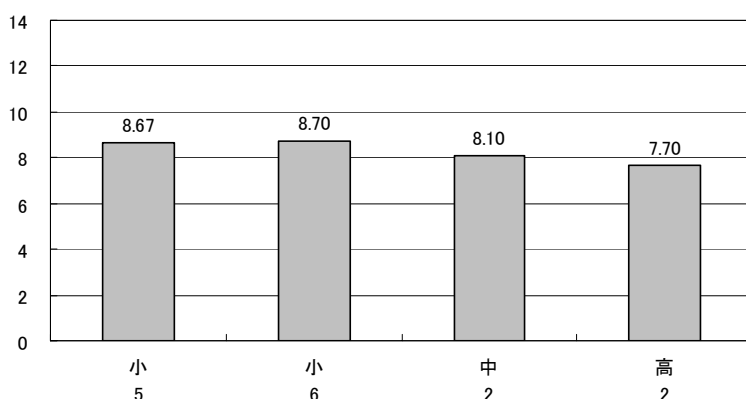


図 4-2-5 「人間関係能力」の各年齢期別合計得点の平均[0-15 点]

【人間関係能力】

- ・人前でも緊張せずに自己紹介ができる
- ・けんかをした友達を仲直りさせることができる
- ・近所の人に挨拶ができる
- ・初めて会った人とでもすぐに話ができる
- ・友だちに相談されることがよくある

平均値に有意差があった学年間
(分散分析結果)

- 小5-中2
- 小5-高2
- 小6-中2
- 小6-高2
- 中2-高2

「人間関係能力」については「人前でも緊張せずに自己紹介ができる」、「けんかをした友達を仲直りさせることができる」等 5 項目で質問している。その 5 項目の合計得点の平均値を比較したところ、最小値が高校 2 年生の 7.70 で、最大値が小学 6 年生の 8.70 である。「人間関係能力」において、小学 5 年生・小学 6 年生と中学 2 年生、小学 5 年生・小学 6 年生と高校 2 年生との間に有意な差がみられ、特に小学校 6 年生から高校 2 年生にかけては平均値が下がっている。

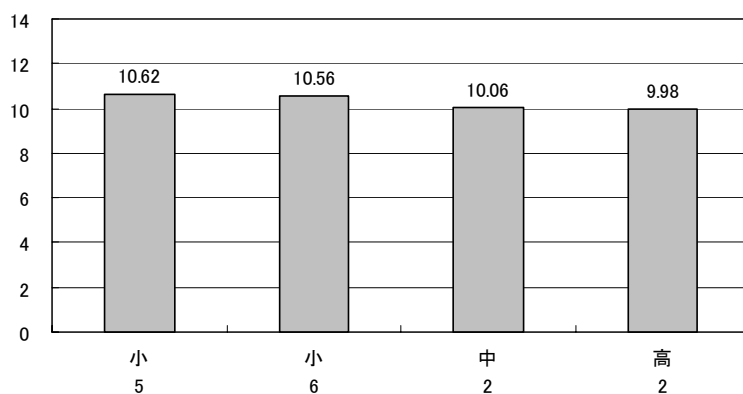


図 4-2-6 「職業意識」の各年齢期別合計得点の平均[0-15 点]

【職業意識】

- ・自分にはなりたい職業や、やってみたい仕事がある
- ・大人になったら仕事をするべきだと思う
- ・できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う
- ・お金が十分にあれば、できれば仕事はやりたくないと思う
- ・今が楽しければ、それでいいと思う

平均値に有意差があった学年間
(分散分析結果)

- 小5-中2
- 小5-高2
- 小6-中2
- 小6-高2

「職業意識」については「自分にはなりたい職業や、やってみたい仕事がある」、「大人になったら仕事をするべきだと思う」等 5 項目で質問している。その 5 項目の合計得点の平均値を比較したところ、最小値が高校 2 年生の 9.98 で、最大値が小学 5 年生の 10.62 である。「職業意識」において、小学 5 年生・小学 6 年生と中学 2 年生・高校 2 年生との間に有意な差がみられ、小学校 5 年生から高校 2 年生にかけて平均値が下がっている。

【青少年調査】

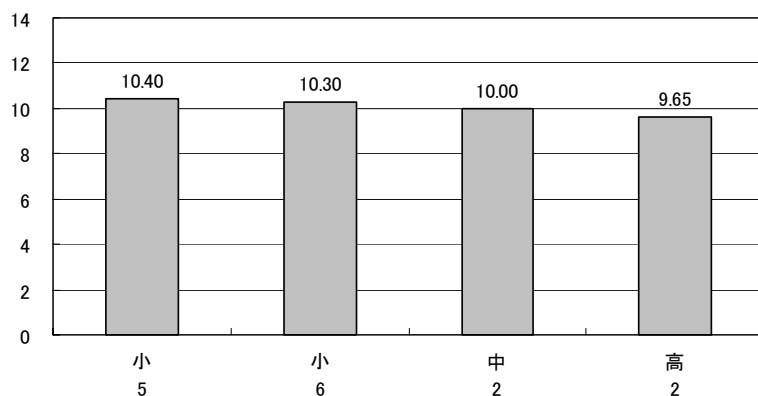


図 4-2-7 「文化的作法・教養」の各年齢期別合計得点の平均[0-15 点]

〔文化的作法・教養〕

- ・お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべきだと思う
- ・目上や年下の人と話すときは丁寧な言葉を使うことができる
- ・ひな祭りや子どもの日、七夕、お月見などの年中行事が楽しみだ
- ・はしを上手く使うことができる
- ・日本の昔話を話すことができる

平均値に有意差があった学年間
(分散分析結果)

小 5-中 2

小 5-高 2

小 6-中 2

小 6-高 2

中 2-高 2

「文化的作法・教養」については「お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべきだと思う」、「目上や年下の人と話すときは丁寧な言葉を使うことができる」等 5 項目で質問している。その 5 項目の合計得点の平均値を比較したところ、最小値が高校 2 年生の 9.65 で、最大値が小学 5 年生の 10.40 である。「文化的作法・教養」において、すべての学年間に有意な差がみられ、学年が上がるほど平均値が下がっている。

3. 子どもの頃の体験と「体験の力」の関係

①子どもの頃の体験と「体験の力」の関係

【青少年調査(高2結果)】

「自然体験」、「動植物とのかかわり」、「友だちとの遊び」、「地域活動」、「家族行事」、「家事手伝い」といった中学校期までの体験が多いほど、現在の「自尊感情」、「共生感」、「意欲・関心」、「規範意識」、「人間関係能力」、「職業意識」、「文化的作法・教養」(体験の力)が高い。

青少年調査の結果のうち高校2年生の結果を用いて、子どもの頃の体験と「体験の力」の関係をみるため、それぞれの項目同士の相関係数を算出した(上位200組を別冊資料集に提示)。また、それらの項目のカテゴリごとの合計得点を用いて、子どもの頃の体験のカテゴリの多寡と「体験の力」のカテゴリ同士の相関係数を算出したところ、42組すべてにおいて正の相関がみられる。ここでは、項目1050組の相関係数を踏まえ、代表的な49組の結果を示す。

表4-3-①.結果を提示する子どもの頃の体験と「体験の力」のカテゴリの組み合わせ

子どもの頃の体験	「体験の力」
自然体験	文化的作法・教養
動植物とのかかわり	共生感
友だちとの遊び	自尊感情
地域活動	意欲・関心
家族行事	職業意識
家事手伝い	規範意識
家事手伝い	人間関係能力

〔子どもの頃の体験の得点化及び多寡の分類方法〕

- 1) 各項目の回答を「何度もある」2点、「少しある」1点、「ほとんどない」0点と得点化
 - 2) 各カテゴリを構成する5設問の得点(1設問0~2点×5設問=0~10点)を年齢期(小学校に通う前~中学校)ごとに合算した後、各年齢期の合計得点を合算し、カテゴリの得点を算出
 - 3) カテゴリごとに、カテゴリの得点の平均(M)及び標準偏差(SD)を算出し、「平均+標準偏差の2分の1」以上を「多」、「平均-標準偏差の2分の1」以下を「少」、「多」と「少」の中間の三群に分類
- 子どもの頃の体験カテゴリ:「自然体験」、「動植物とのかかわり」、「友だちとの遊び」、「地域活動」、「家族行事」、「家事手伝い」

〔「体験の力」の得点化及び高低の分類方法〕

- 1) 各項目の回答を「とてもあてはまる」3点、「ややあてはまる」2点、「あまりあてはまらない」1点、「まったくあてはまらない」0点と得点化
 - 2) 各カテゴリを構成する5設問の合計得点(1設問0~3点×5設問=0~15点)を算出
 - 3) カテゴリごとに合計得点の平均(M)及び標準偏差(SD)を算出し、「平均+標準偏差の2分の1」以上を「高」、「平均-標準偏差の2分の1」以下を「低」、「高」と「低」の中間の三群に分類
- 「体験の力」カテゴリ:「自尊感情」、「共生感」、「意欲・関心」、「規範意識」、「人間関係能力」、「職業意識」、「文化的作法・教養」

「自然体験」と「文化的作法・教養」の各項目における関係(項目が偏らないように提示)

【青少年調査(高2結果)】

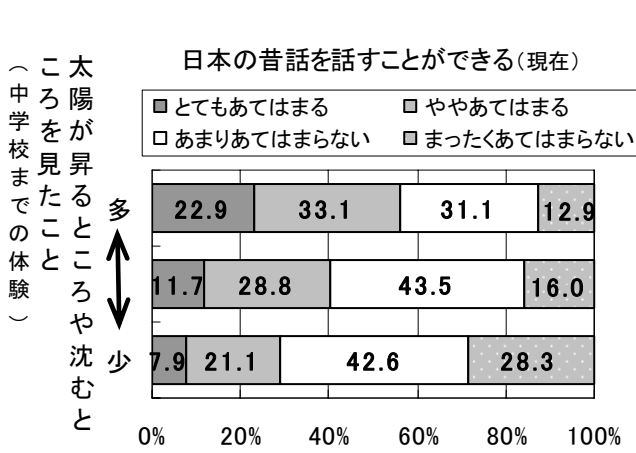


図 4-3-①-1

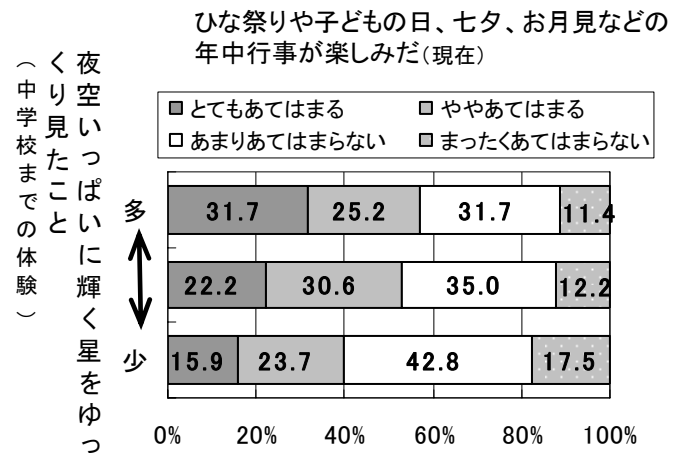


図 4-3-①-2

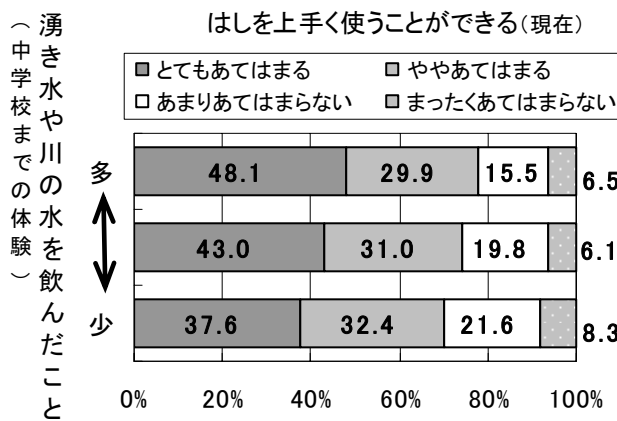


図 4-3-①-3

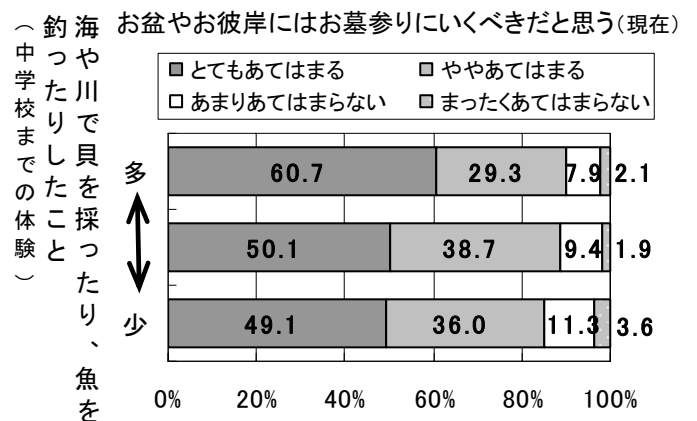


図 4-3-①-4

〔「自然体験」と「文化的作法・教養」カテゴリ間の関係〕

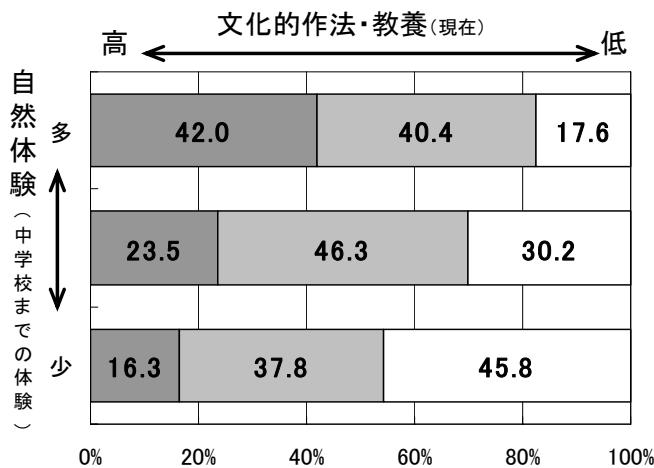


図 4-3-①-5

〔自然体験〕

- ・海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと
- ・海や川で泳いだこと
- ・太陽が昇るところや沈むところを見たこと
- ・夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たりしたこと
- ・湧き水や川の水を飲んだこと

〔文化的作法・教養〕

- ・お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべきだと思う
- ・目上や年下の人と話すときは丁寧な言葉を使うことができる
- ・ひな祭りや子どもの日、七夕、お月見などの年中行事が楽しみだ
- ・はしを上手く使うことができる
- ・日本の昔話を話することができる

「動植物とのかかわり」と「共生感」の各項目における関係(項目が偏らないように提示)

【青少年調査(高2 結果)】

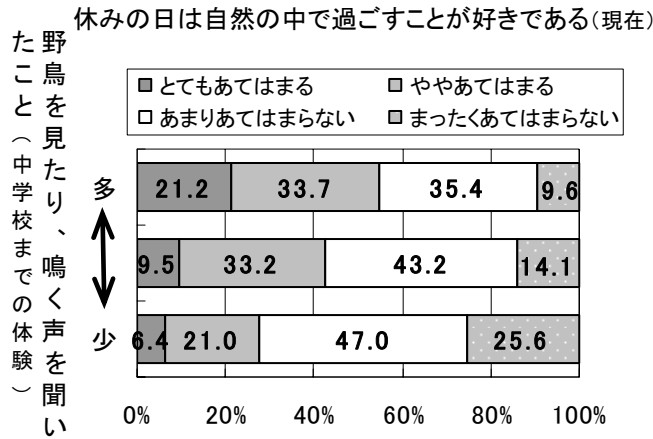


図 4-3-①-6

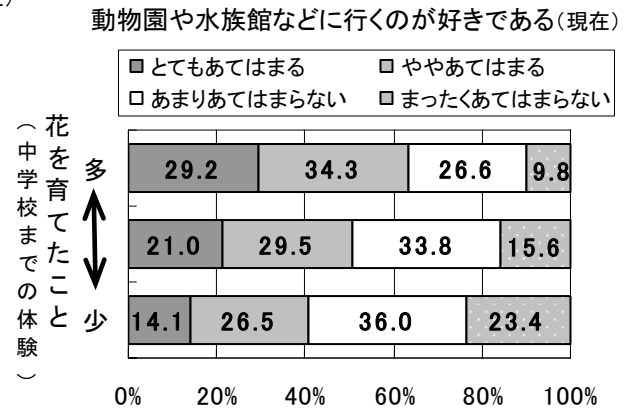


図 4-3-①-7

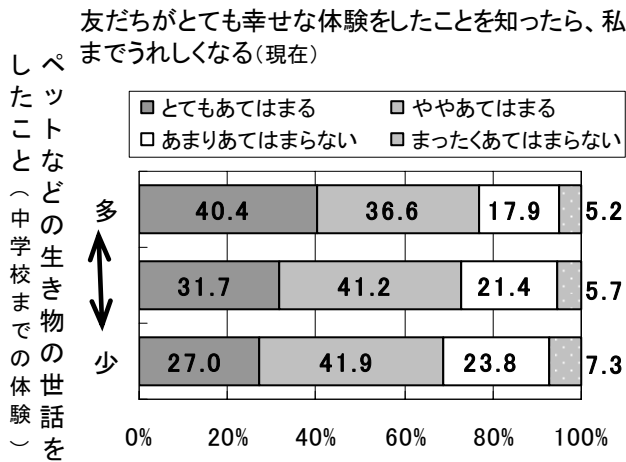


図 4-3-①-8

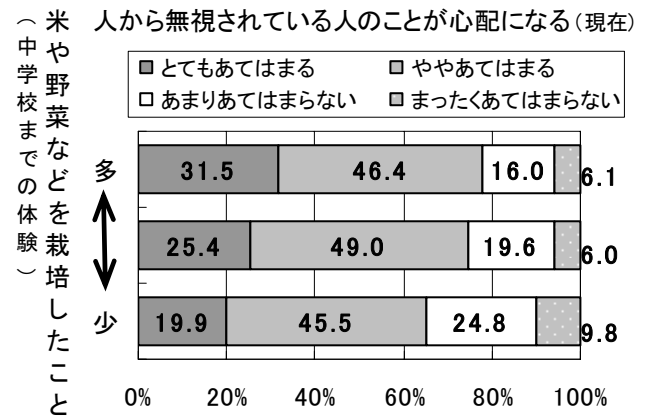


図 4-3-①-9

「動植物とのかかわり」と「共生感」カテゴリ間の関係

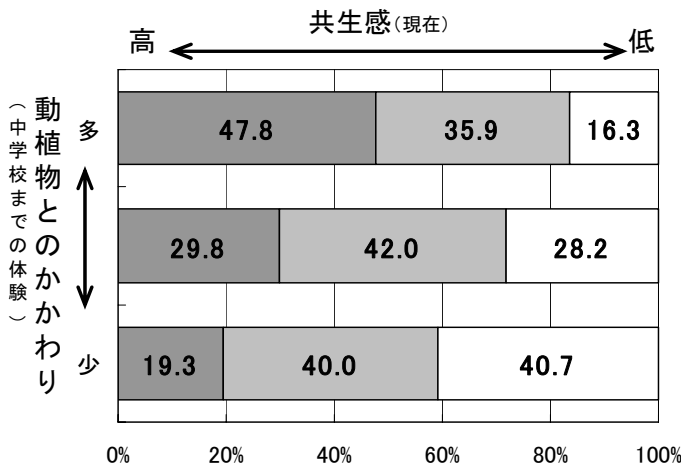


図 4-3-①-10

「動植物とのかかわり」

- ・米や野菜などを栽培したこと
- ・花を育てたこと
- ・ペットなどの生き物の世話をしたこと
- ・チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと
- ・野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと

「共生感」

- ・休みの日は自然の中で過ごすことが好きである
- ・動物園や水族館などに行くのが好きである
- ・悲しい体験をした人の話を聞くとつらくなる
- ・友だちがとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる
- ・人から無視されている人のことが心配になる

「友だちの遊び」と「自尊感情」の各項目における関係(項目が偏らないように提示)

【青少年調査(高2結果)】

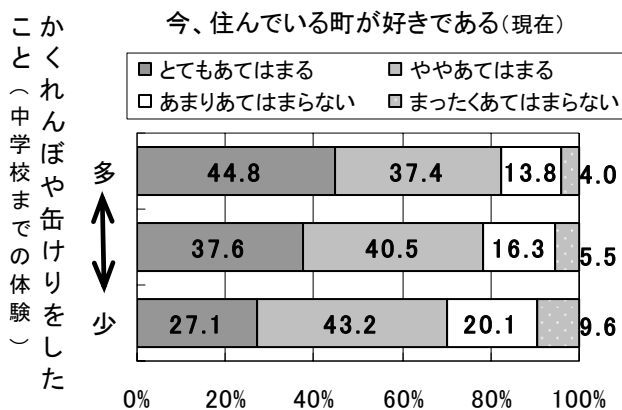


図 4-3-①-11

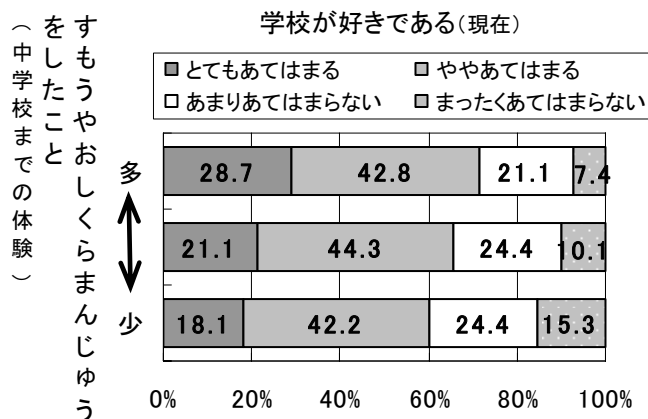


図 4-3-①-12

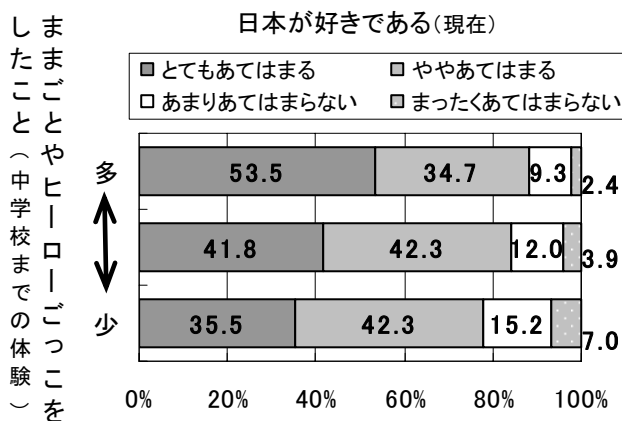


図 4-3-①-13

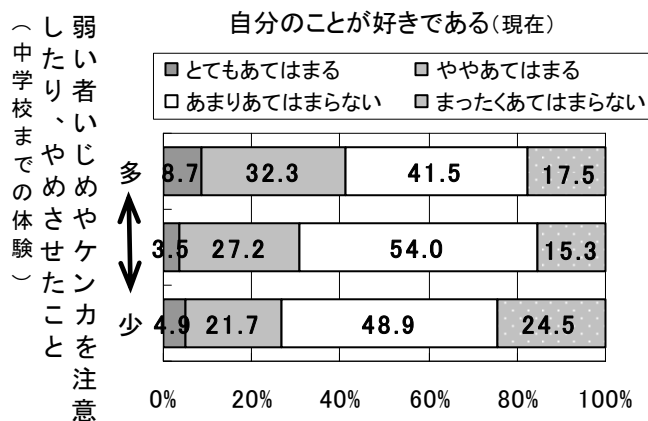


図 4-3-①-14

「友だちの遊び」と「自尊感情」カテゴリ間の関係

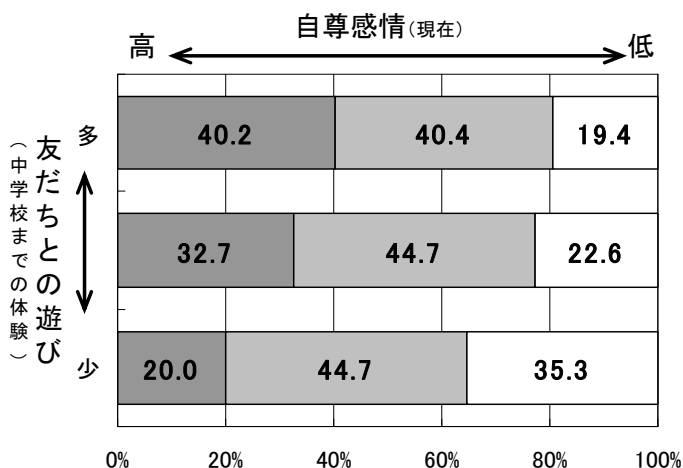


図 4-3-①-15

- [友だちとの遊び]
- ・かくれんぼや缶けりをしたこと
 - ・ままごとやヒーローごっこをしたこと
 - ・すもうやおしくらまんじゅうをしたこと
 - ・友人とケンカしたこと
 - ・弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと
- [自尊感情]
- ・自分のことが好きである
 - ・家族を大切にできる人間だと思う
 - ・学校が好きである
 - ・今、住んでいる町が好きである
 - ・日本が好きである

「地域活動」と「意欲・関心」の各項目における関係(項目が偏らないように提示)

【青少年調査(高2結果)】

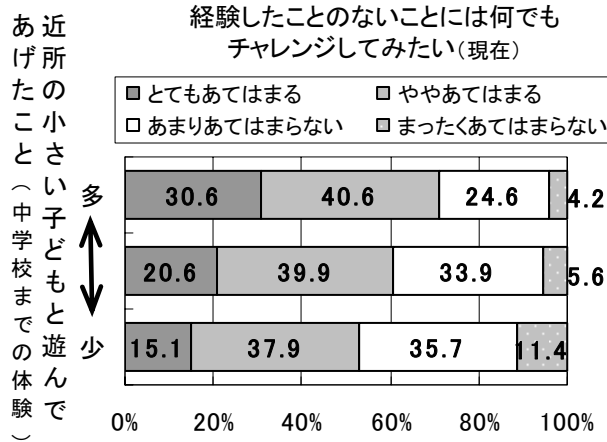


図 4-3-①-16

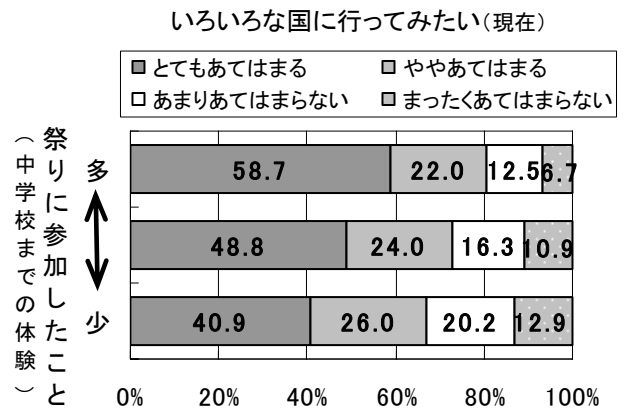


図 4-3-①-17

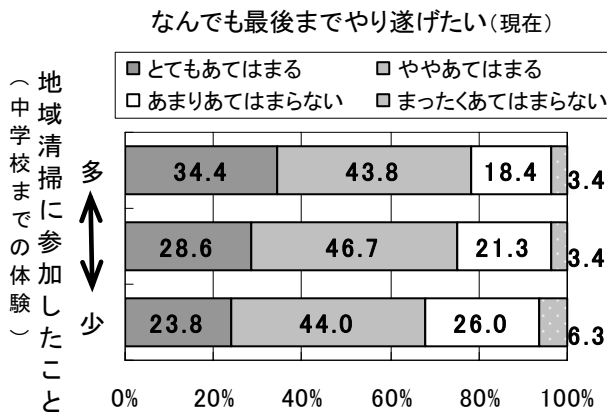


図 4-3-①-18

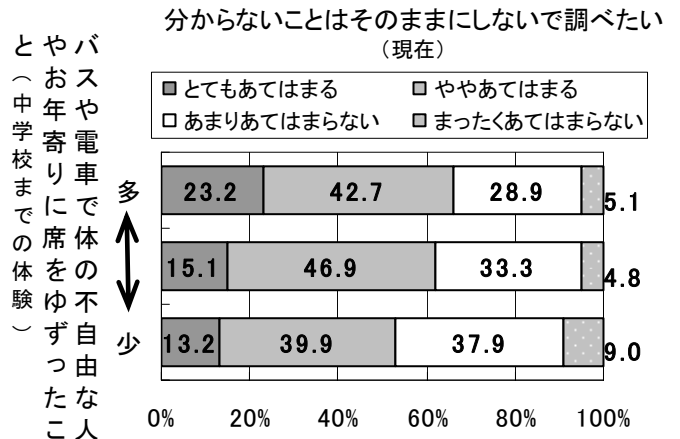


図 4-3-①-19

【「地域活動」と「意欲・関心」カテゴリ間の関係】

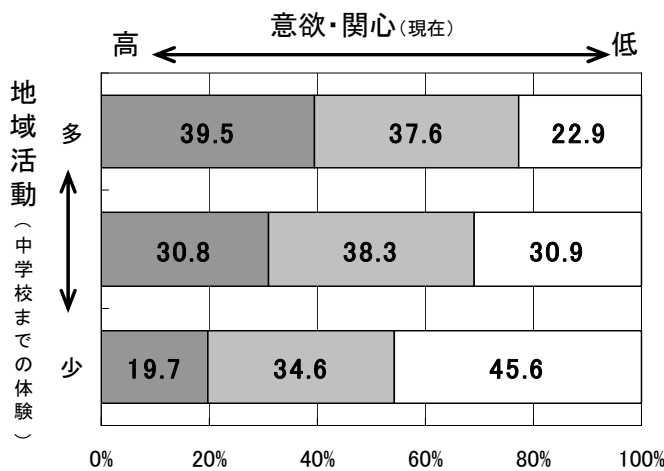


図 4-3-①-20

- [地域活動]
- ・近所の小さい子どもと遊んであげたこと
 - ・近所の人に叱られたこと
 - ・バスや電車での体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと
 - ・祭りに参加したこと
 - ・地域清掃に参加したこと

- [意欲・関心]
- ・もっと深く学んでみたいことがある
 - ・なんでも最後までやり遂げたい
 - ・経験したことの無いことには何でもチャレンジしてみたい
 - ・分からないことはそのままにしないで調べたい
 - ・いろいろな国に行ってみたい

「家族行事」と「職業意識」の各項目における関係(項目が偏らないように提示)

【青少年調査(高2結果)】

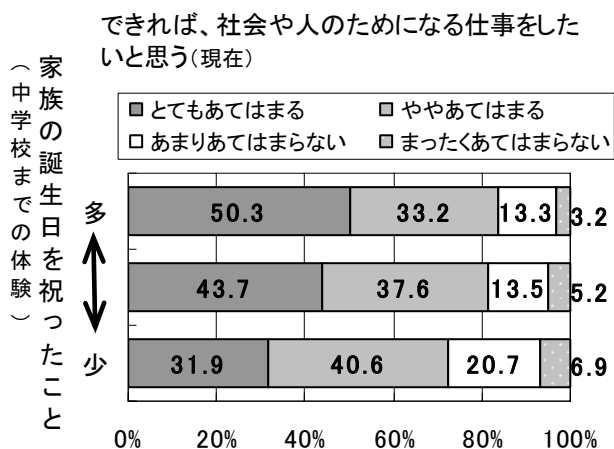


図 4-3-①-21

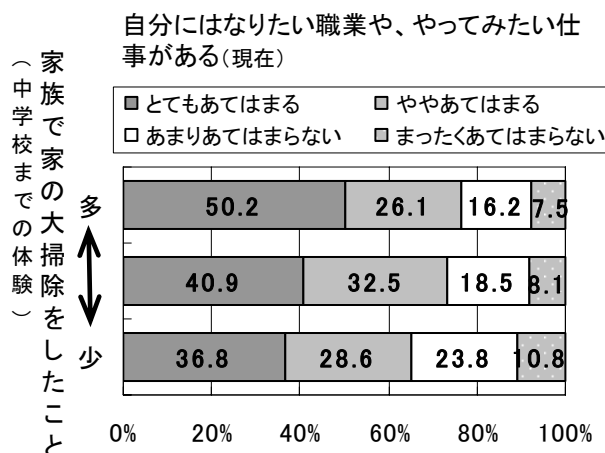


図 4-3-①-22

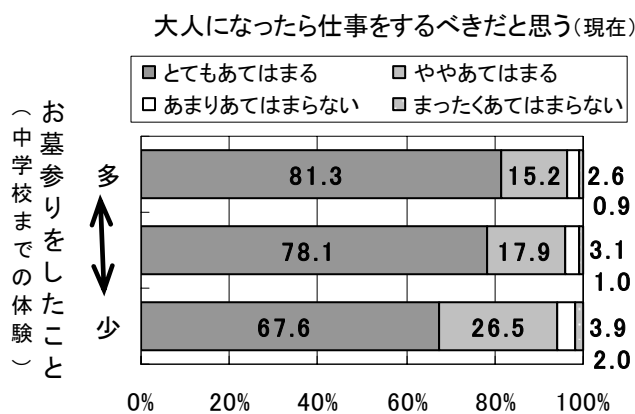


図 4-3-①-23

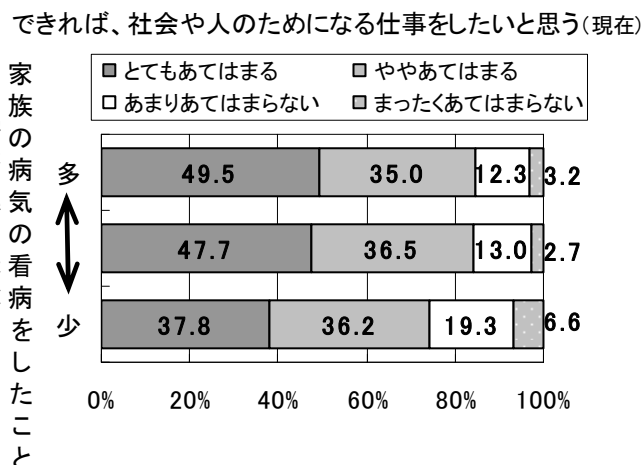


図 4-3-①-24

「家族行事」と「職業意識」の関係

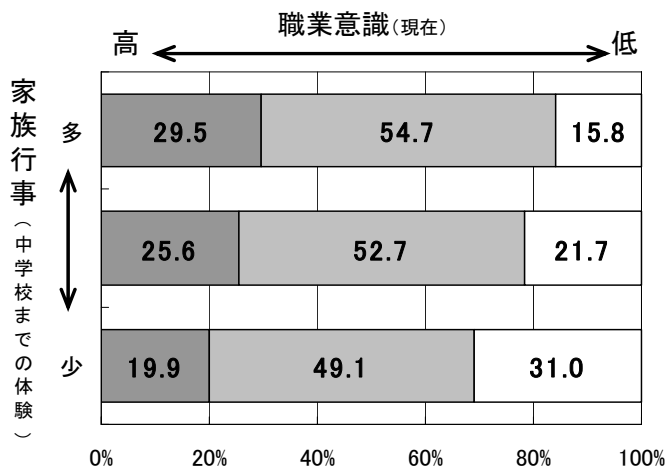


図 4-3-①-25

[家族行事]

- ・ 家族の誕生日を祝ったこと
- ・ お墓参りをしたこと
- ・ 家族の病気の看病をしたこと
- ・ 親戚、友人の家にひとりで宿泊したこと
- ・ 家族で家の大掃除をしたこと

[職業意識]

- ・ 自分にはなりた職業や、やってみたい仕事がある
- ・ 大人になったら仕事をするべきだと思う
- ・ できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う
- ・ お金が十分にあれば、できれば仕事はやりたくないと思う
- ・ 今が楽しければ、それでいいと思う

「家事手伝い」と「規範意識」の各項目における関係(項目が偏らないように提示)

【青少年調査(高2結果)】

電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う(現在)

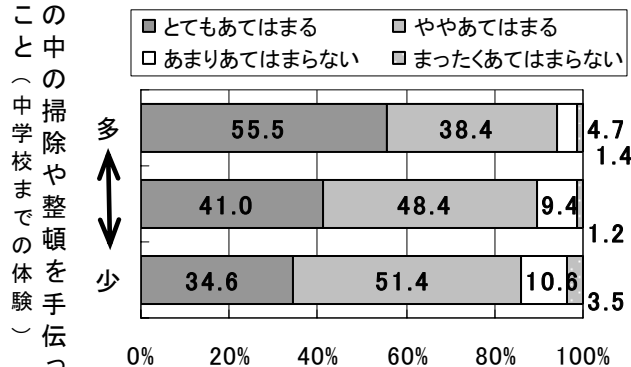


図 4-3-①-26

食器をそろえたり、片付けたこと
(中学校までの体験)

叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う(現在)

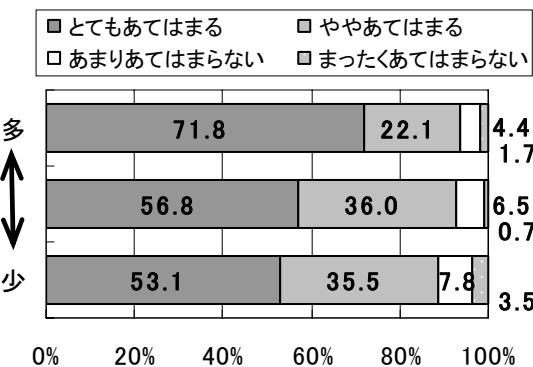


図 4-3-①-27

他人をいじめている人がいると、腹が立つ(現在)

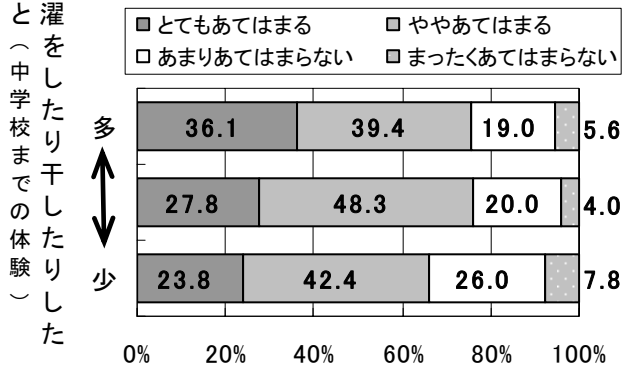


図 4-3-①-28

ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと
(中学校までの体験)

交通規則など社会のルールは守るべきだと思う(現在)

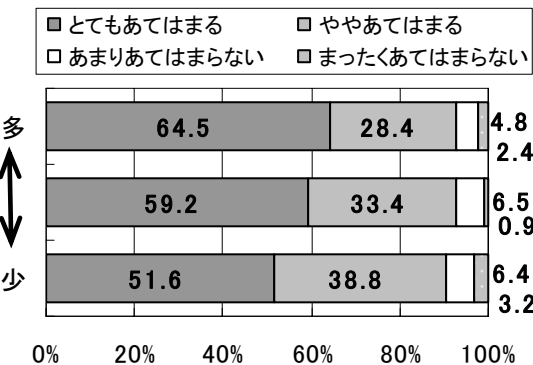


図 4-3-①-29

「家事手伝い」と「規範意識」カテゴリ間の関係

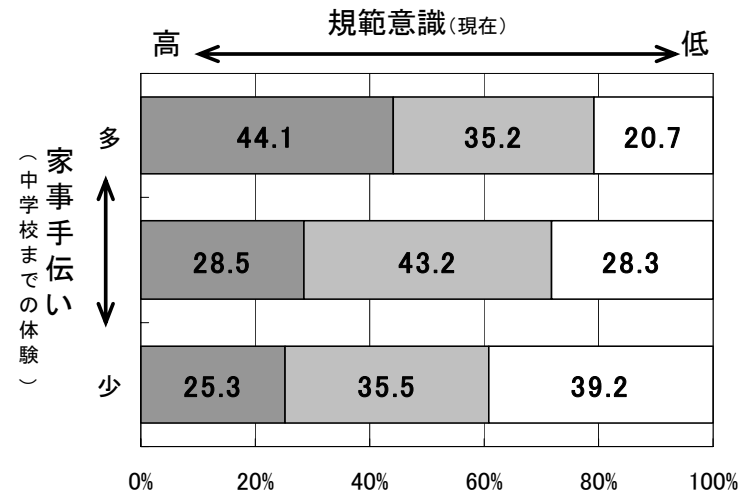


図 4-3-①-30

[家事手伝い]

- ・ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと
- ・家の中の掃除や整頓を手伝ったこと
- ・ゴミ袋を出したり、捨てたこと
- ・洗濯をしたり干したりしたこと
- ・食器をそろえたり、片付けたりしたこと

[規範意識]

- ・叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う
- ・交通規則など社会のルールは守るべきだと思う
- ・電車やバスの中で化粧や整髪をしても良いと思う
- ・電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う
- ・他人をいじめている人がいると、腹が立つ

「家事手伝い」と「人間関係能力」の各項目における関係(項目が偏らないように提示)

【青少年調査(高2結果)】

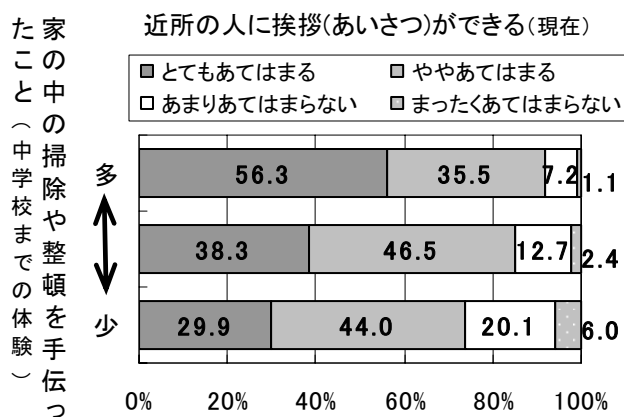


図 4-3-①-31

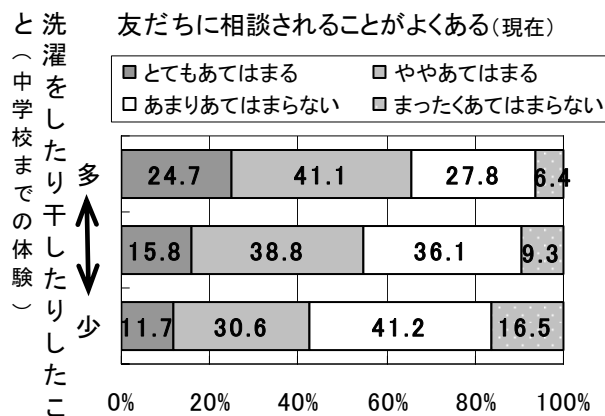


図 4-3-①-32

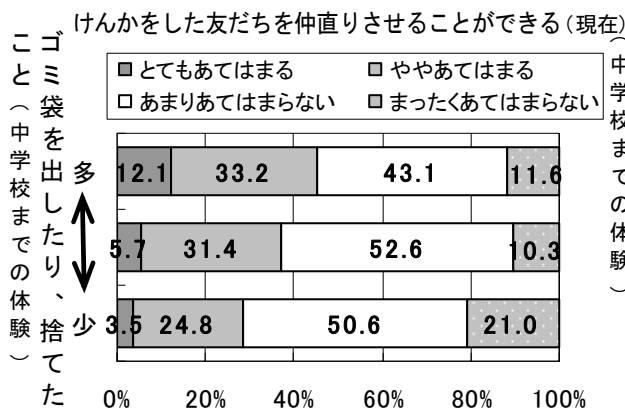


図 4-3-①-33

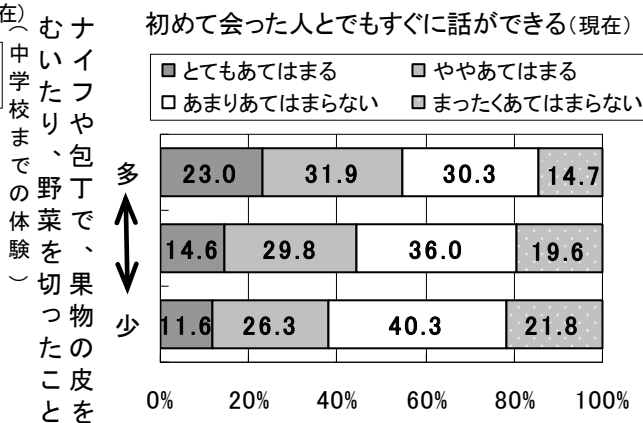


図 4-3-①-34

「家事手伝い」と「人間関係能力」カテゴリ間の関係

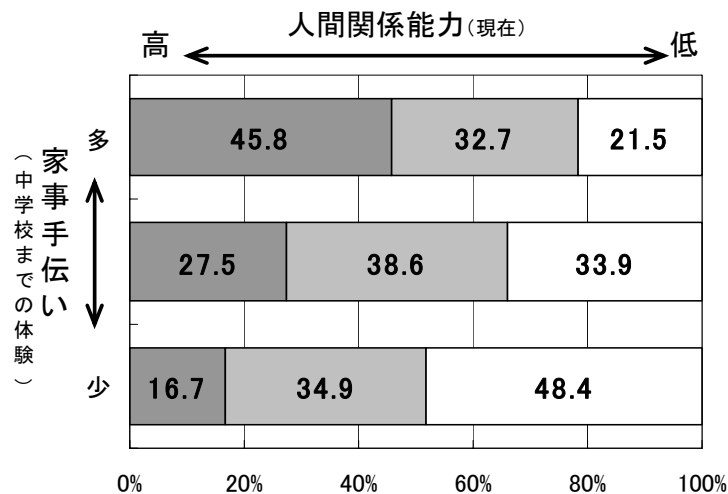


図 4-3-①-35

「家事手伝い」

- ・ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと
- ・家の中の掃除や整頓を手伝ったこと
- ・ゴミ袋を出したり、捨てたこと
- ・洗濯をしたり干したりしたこと
- ・食器をそろえたり、片付けたりしたこと

「人間関係能力」

- ・人前でも緊張せずに自己紹介ができる
- ・けんかをした友だちを仲直りさせることができる
- ・近所の人に挨拶ができる
- ・初めて会った人とでもすぐに話ができる
- ・友だちに相談されることがよくある

② 中学校までの各年齢期の体験と「体験の力」の関係

【青少年調査(高2結果)】

◇小学校低学年までは「友だちとの遊び」「動植物とのかかわり」「家族行事」等の体験が、「体験の力」と多く関連している。

◇小学校高学年から中学生までは「地域活動」「家族行事」「家事手伝い」等の体験が「体験の力」と多く関連している。

青少年調査の結果のうち高校2年生の結果を用いて、子どもの頃の体験と「体験の力」の関係进行分析(重回帰分析※)し、子どもの頃の体験が多いほど「体験の力」が高くなる傾向がみられる体験を年齢期ごとに表示した。例えば表4-3-②の1行目(自尊感情)をみると、小学校低学年での「友だちとの遊び」と小学校高学年での「家事手伝い」、中学校での「地域活動」と「家族行事」が、「自尊感情」と関連がみられる体験といえる。次ページ以降にすべての組み合わせについてクロス集計結果を示す。

※重回帰分析とは、ある変数(従属変数)の値が他の変数(独立変数)を使ってどの程度予測できるかなどの問題を数量的に解析する統計的手法。独立変数が複数の場合を重回帰分析という。

表4-3-②. 年齢期別・「体験の力」との関連がみられる体験

体験の力	年 齢 期			
	小学校に通う前	小学校低学年	小学校高学年	中学校
自尊感情		友だちとの遊び	家事手伝い	地域活動 家族行事
共生感		友だちとの遊び 動植物とのかかわり 地域活動		自然体験 地域活動 家族行事 家事手伝い
意欲・関心		友だちとの遊び 動植物とのかかわり		地域活動 家事手伝い
規範意識	友だちとの遊び 家族行事	友だちとの遊び 動植物とのかかわり	家事手伝い	自然体験 地域活動 家族行事
職業意識			動植物とのかかわり	自然体験 地域活動 家族行事
人間関係能力		友だちとの遊び		自然体験 友だちとの遊び 地域活動 家族行事
文化的作法・教養		家族行事	動植物とのかかわり	地域活動 家族行事 家事手伝い

◇関連がみられる各年齢期における体験と「体験の力」の関係についてのクロス集計結果

【青少年調査(高2結果)】

〔小学校に通う前〕

小学校に通う前においては、以下の傾向がみられる。

- ・小学校に通う前の「友だちとの遊び」が多い群ほど、大人になってからの「規範意識」が高い。
- ・小学校に通う前の「家族行事」の多い群ほど、大人になってからの「規範意識」が高い。

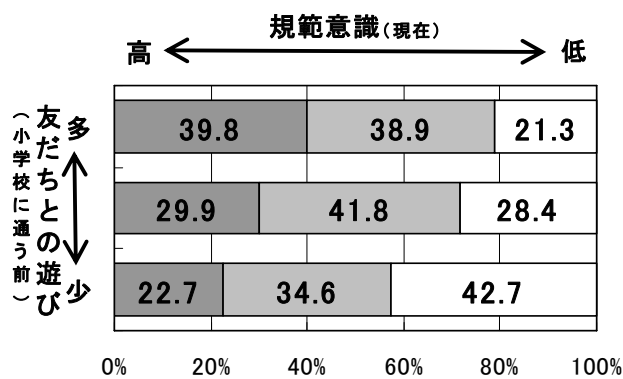


図 4-3-②-1 小学校に通う前の「友だちの遊び」と「自尊感情」の関係

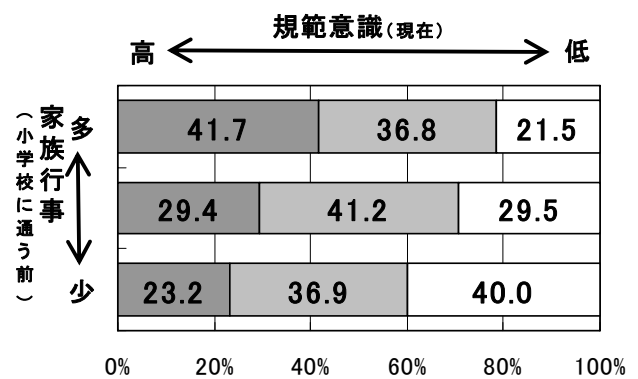


図 4-3-②-2 小学校に通う前の「家族行事」と「規範意識」の関係

小学校低学年においては以下の傾向がみられる。

- ・小学校低学年期の「友だちとの遊び」が多い群ほど、大人になってからの「自尊感情」, 「共生感」, 「意欲・関心」, 「規範意識」, 「人間関係能力」が高い。
- ・小学校低学年期の「動植物とのかかわり」が多い群ほど、大人になってからの「共生感」, 「意欲・関心」, 「規範意識」が高い。
- ・小学校低学年期の「地域活動」の多い群ほど、大人になってからの「共生感」が高い。
- ・小学校低学年期の「家族行事」が多い群ほど、大人になってからの「文化的作法・教養」が高い。

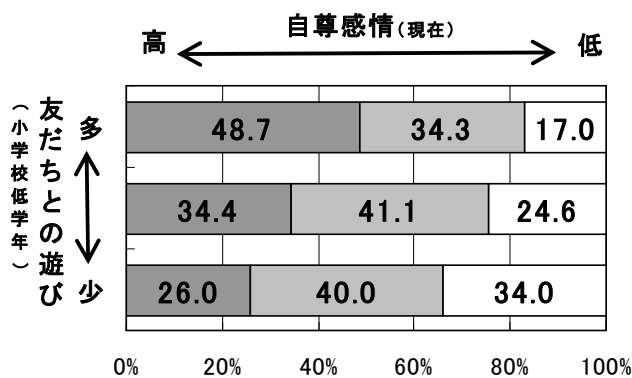


図 4-3-②-3 小学校低学年の「友だちとの遊び」と「自尊感情」の関係

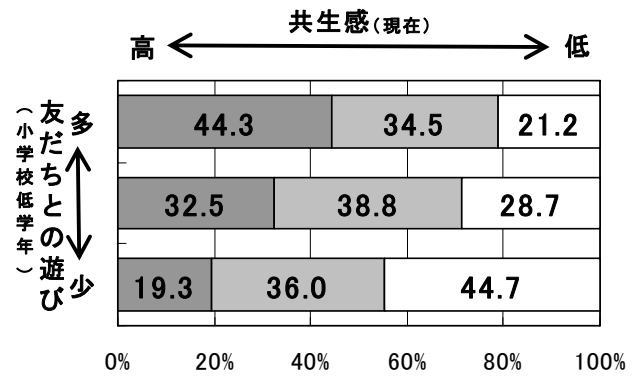


図 4-3-②-4 小学校低学年の「友だちとの遊び」と「共生感」の関係

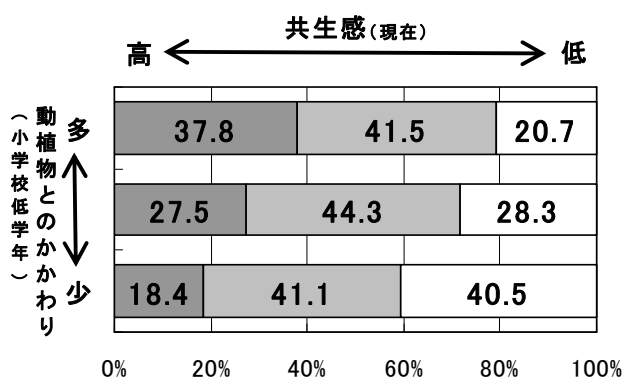


図 4-3-②-5 小学校低学年の「動植物とのかかわり」と「共生感」の関係

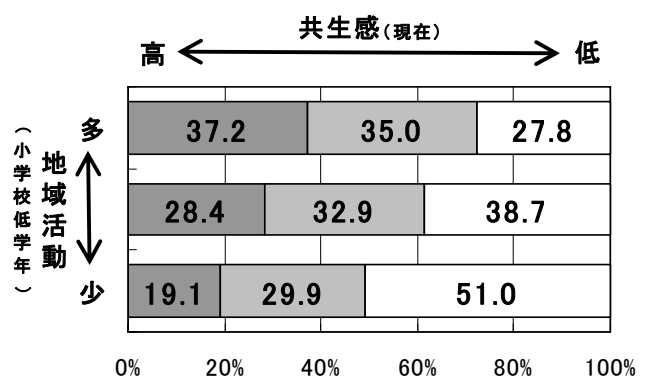


図 4-3-②-6 小学校低学年の「地域活動」と「共生感」の関係

【青少年調査(高2結果)】

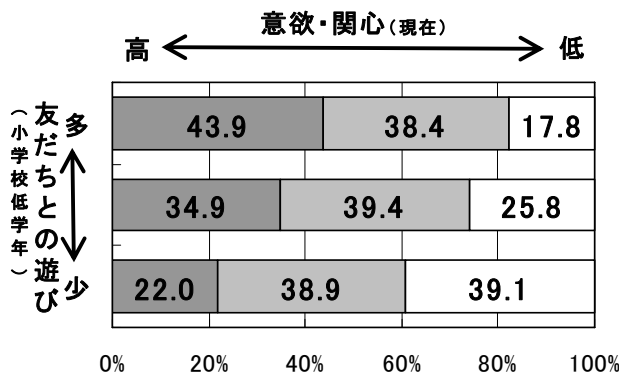


図 4-3-②-7 小学校低学年の「友だちとの遊び」と「意欲・関心」の関係

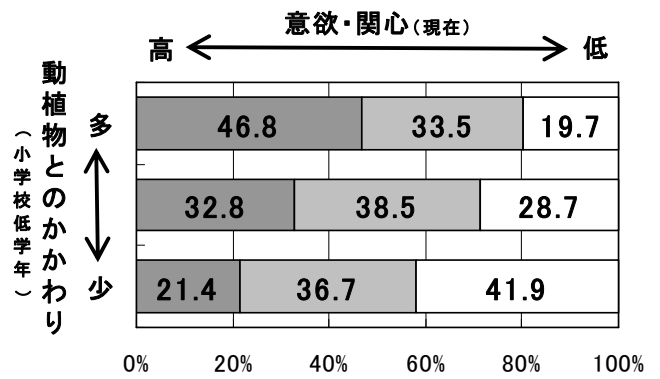


図 4-3-②-8 小学校低学年の「動植物とのかかわり」と「意欲・関心」の関係

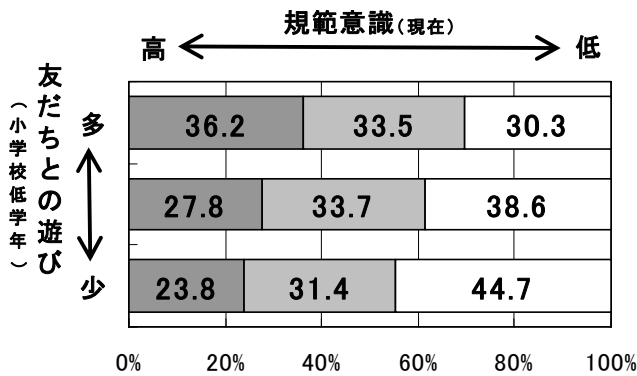


図 4-3-②-9 小学校低学年の「友だちとの遊び」と「規範意識」の関係

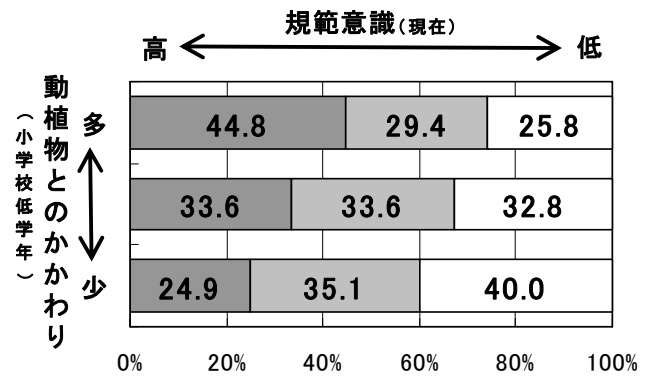


図 4-3-②-10 小学校低学年の「動植物とのかかわり」と「規範意識」の関係

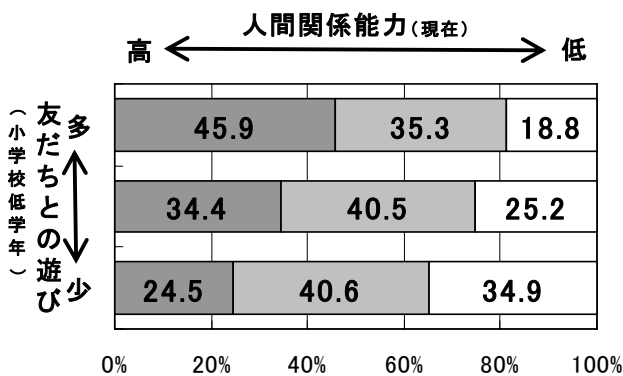


図 4-3-②-11 小学校低学年の「友だちとの遊び」と「人間関係能力」の関係

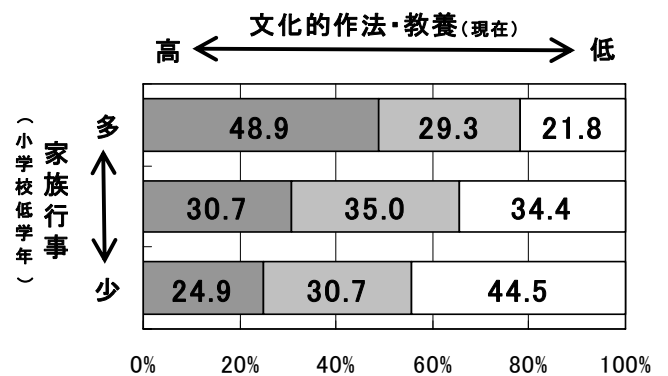


図 4-3-②-12 小学校低学年の「家族行事」と「文化的作法・教養」の関係

〔小学校高学年〕

【青少年調査(高2結果)】

小学校高学年期においては以下の傾向がみられる。

- ・小学校高学年期の「家事手伝い」が多い群ほど、大人になってからの「自尊心」、「規範意識」が高い。
- ・小学校高学年期の「動植物とのかかわり」が多い群ほど、大人になってからの「職業意識」、「文化的作法・教養」が高い。

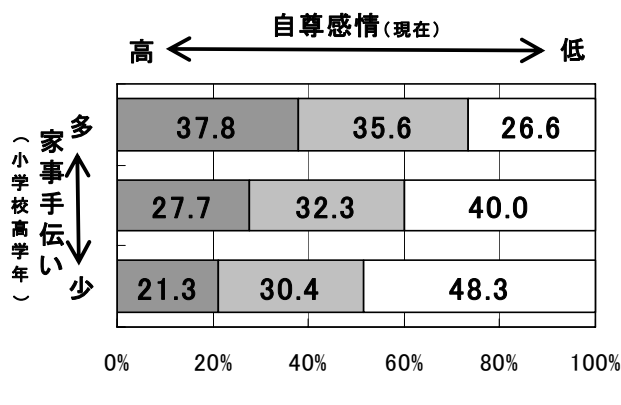


図 4-3-②-13 小学校高学年の「家事手伝い」と「自尊心」の関係

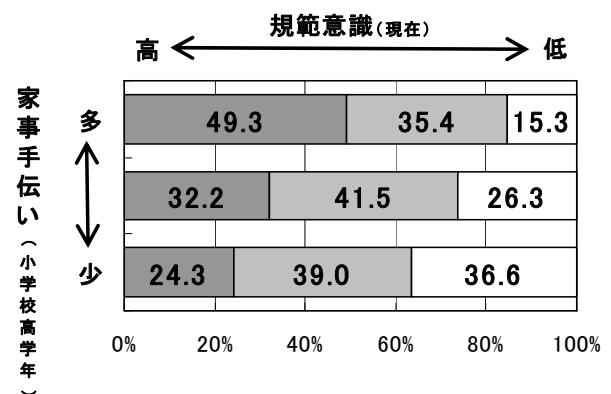


図 4-3-②-14 小学校高学年の「家事手伝い」と「規範意識」の関係

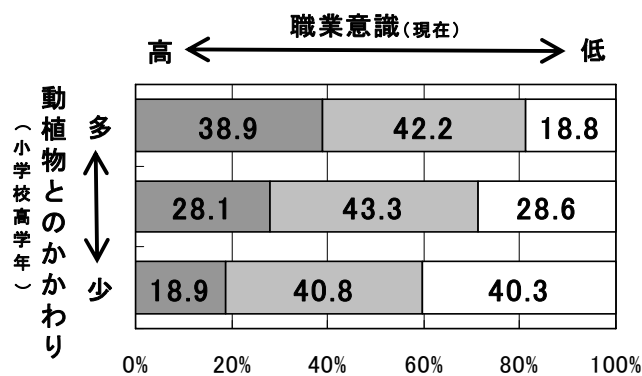


図 4-3-②-15 小学校高学年の「動植物とのかかわり」と「職業意識」の関係

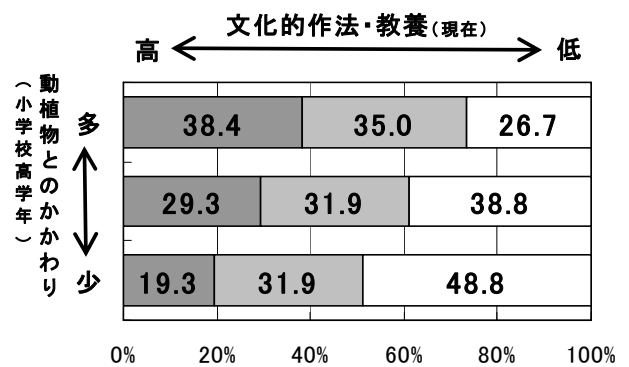


図 4-3-②-16 小学校高学年の「動植物とのかかわり」と「文化的作法・教養」の関係

中学校期においては以下の傾向がみられる。

- ・中学校期の「地域活動」が多い群ほど、大人になってからの「自尊感情」、「共生感」、「意欲・関心」、「規範意識」、「職業意識」、「人間関係能力」、「文化的作法・教養」が高い。
- ・中学校期の「家族行事」が多い群ほど、大人になってからの「自尊感情」、「共生感」、「規範意識」、「職業意識」、「人間関係能力」、「文化的作法・教養」が高い。
- ・中学校期の「自然体験」が多い群ほど、大人になってからの「共生感」、「規範意識」、「職業意識」、「人間関係能力」が高い。
- ・中学校期の「家族行事」が多い群ほど、大人になってからの「自尊感情」、「共生感」、「規範意識」、「職業意識」、「人間関係能力」、「文化的作法・教養」が高い。
- ・中学校期の「家事手伝い」が多い群ほど、大人になってからの「共生感」、「意欲・関心」、「文化的作法・教養」が高い。

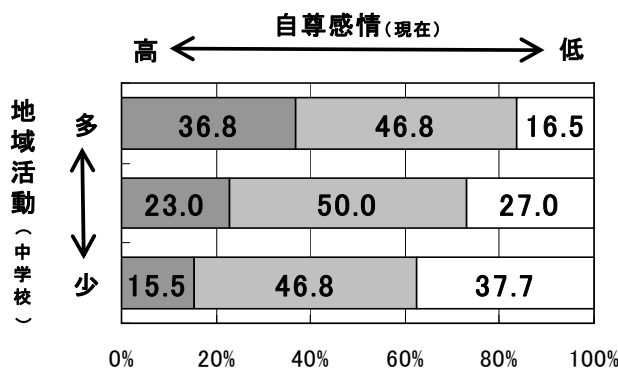


図 4-3-②-17 中学校の「地域活動」と「自尊感情」の関係

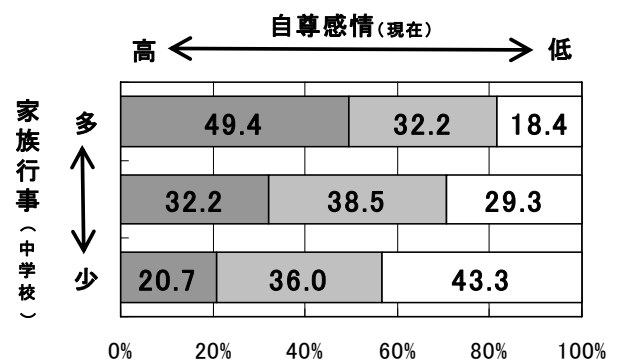


図 4-3-②-18 中学校の「家族行事」と「自尊感情」の関係

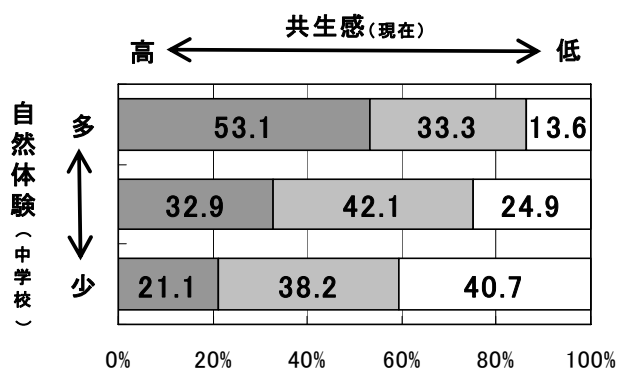


図 4-3-②-19 中学校の「自然体験」と「共生感」の関係

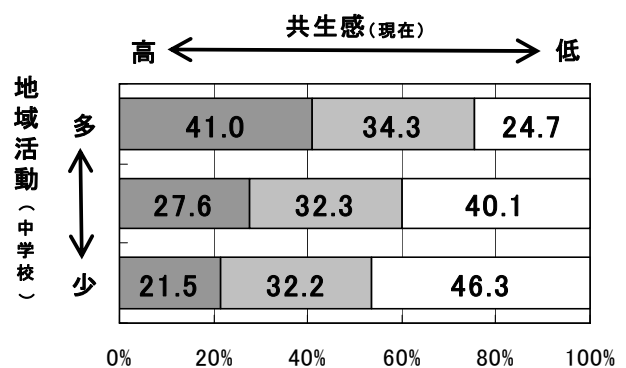


図 4-3-②-20 中学校の「地域活動」と「共生感」の関係

【青少年調査(高2結果)】

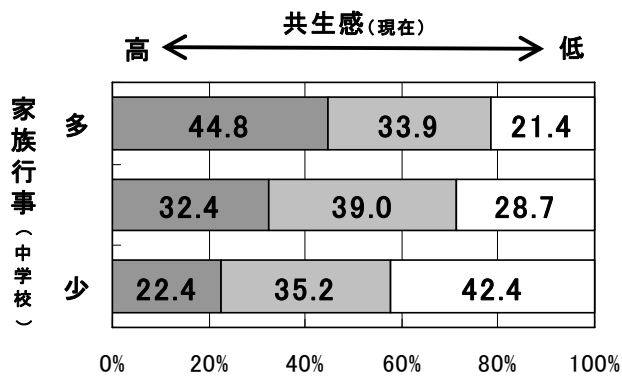


図 4-3-②-21 中学校の「家族行事」と「共生感」の関係

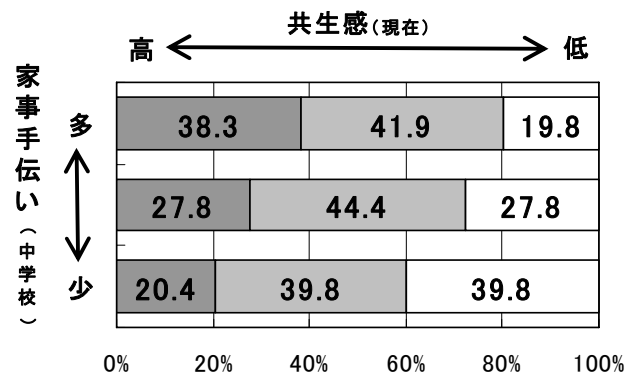


図 4-3-②-22 中学校の「家事手伝い」と「共生感」の関係

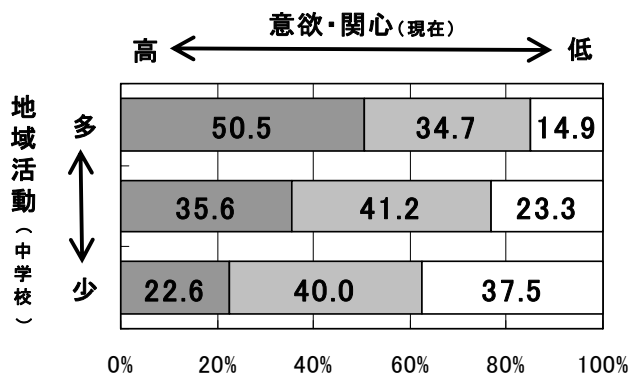


図 4-3-②-23 中学校の「地域活動」と「意欲・関心」の関係

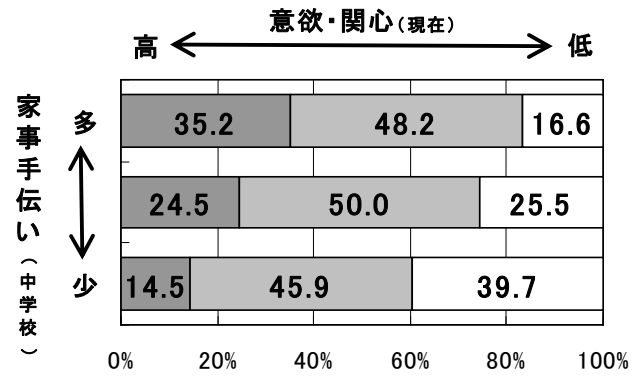


図 4-3-②-24 中学校の「家事手伝い」と「意欲・関心」の関係

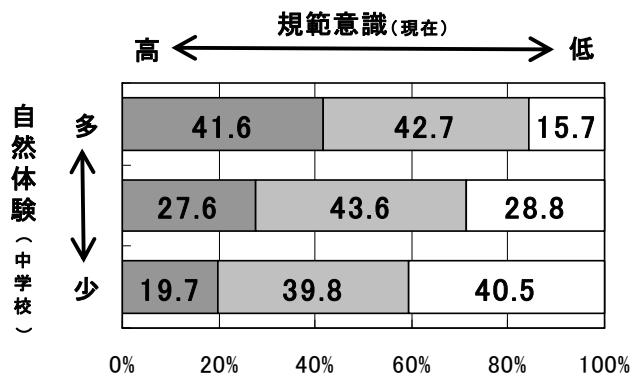


図 4-3-②-25 中学校の「自然体験」と「規範意識」の関係

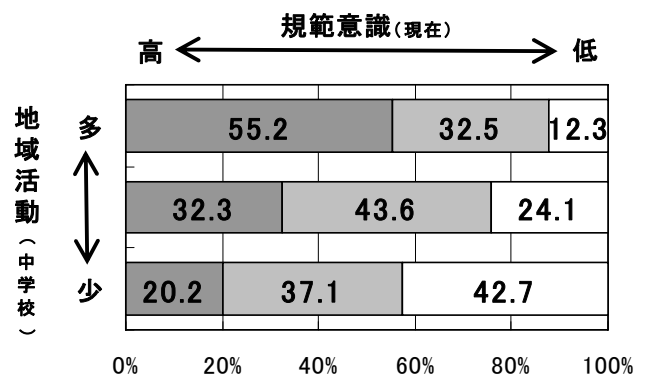


図 4-3-②-26 中学校の「地域活動」と「規範意識」の関係

【青少年調査(高2結果)】

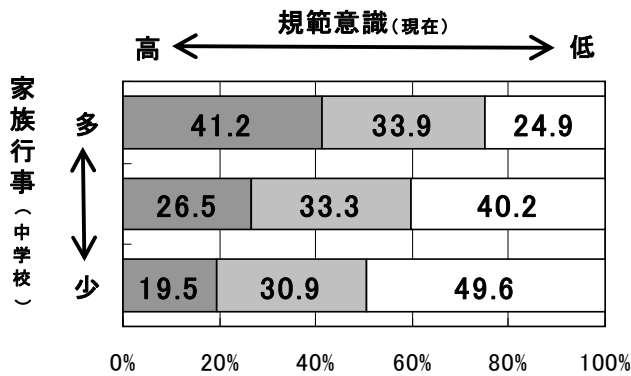


図 4-3-②-27 中学校の「家族行事」と「規範意識」の関係

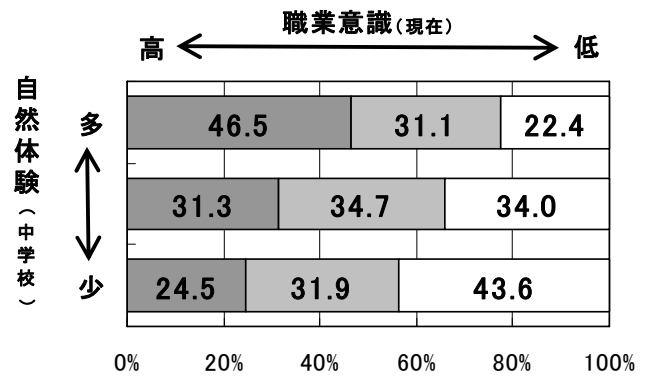


図 4-3-②-28 中学校の「自然体験」と「職業意識」の関係

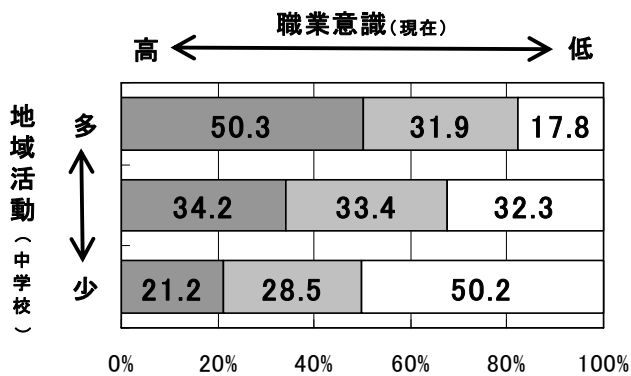


図 4-3-②-29 中学校の「地域活動」と「職業意識」の関係

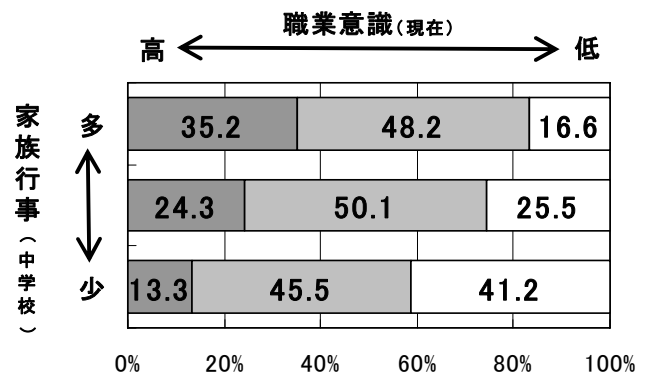


図 4-3-②-30 中学校の「家族行事」と「職業意識」の関係

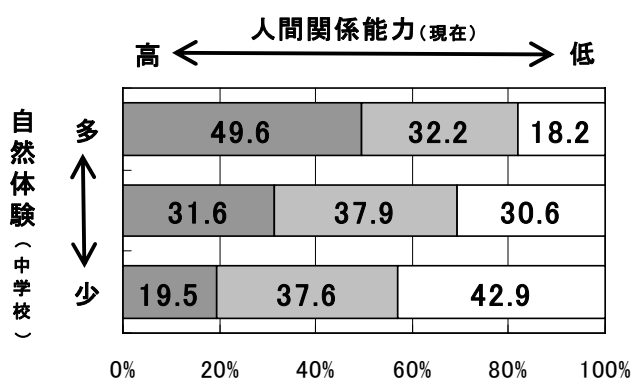


図 4-3-②-31 中学校の「自然体験」と「人間関係能力」の関係

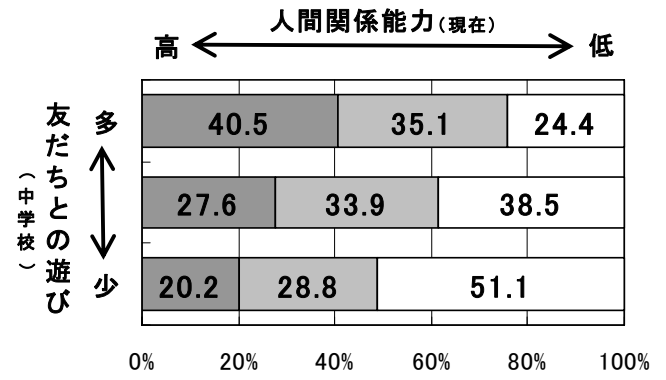


図 4-3-②-32 中学校の「友だちとの遊び」と「人間関係能力」の関係

【青少年調査(高2結果)】

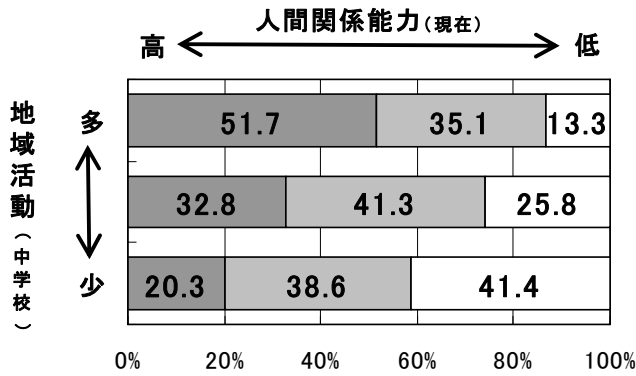


図 4-3-②-33 中学校の「地域活動」と「人間関係能力」の関係

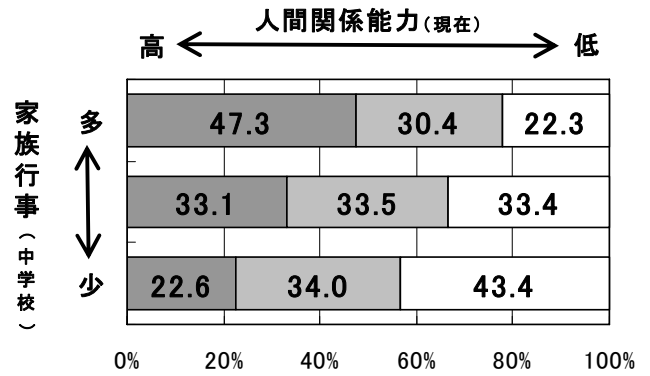


図 4-3-②-34 中学校の「家族行事」と「人間関係能力」の関係

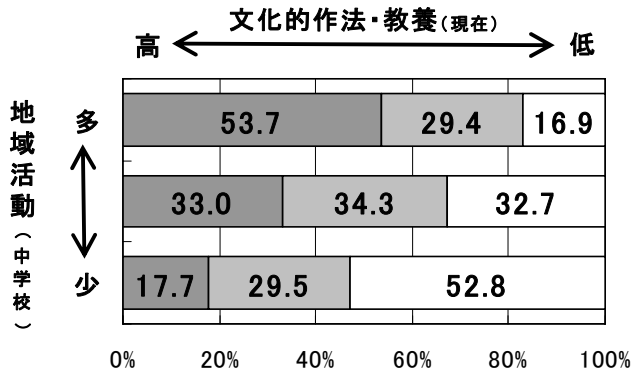


図 4-3-②-35 中学校の「地域活動」と「文化的作法・教養」の関係

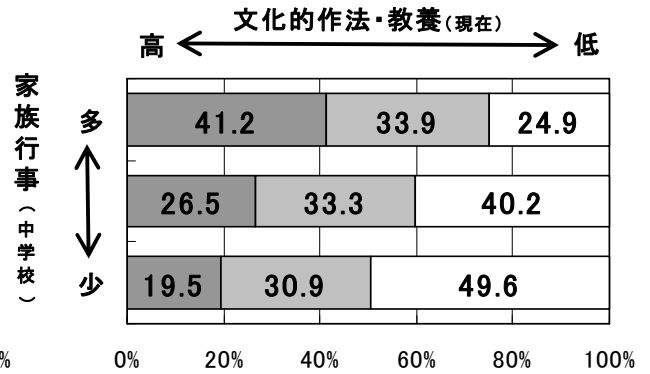


図 4-3-②-36 中学校の「家族行事」と「文化的作法・教養」の関係

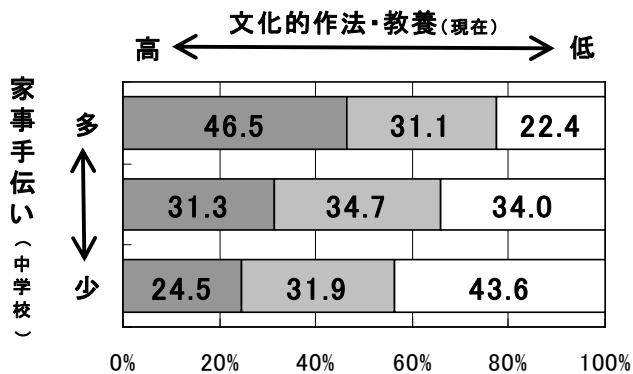


図 4-3-②-37 中学校の「家事手伝い」と「文化的作法・教養」の関係

4. 現在までの体験の多寡と葛藤的な場面の意識の関係

青少年調査の結果を用いて、葛藤的な場面として設けた設問に対し、小学5年生、小学6年生、中学2年生、高校2年生が二者択一での回答とした結果と現在までの体験の多寡をクロス集計した結果を示す。

【青少年調査】

現在までの体験が豊富であるほど、

- ・ 「仲の良い友だちには、自分の弱いところを見せてもかまわない」という意識の青少年が多い
- ・ 「人間の都合で自然を破壊するのはやめるべきだ」という意識の青少年が多い
- ・ 「どんなことも、あきらめずにがんばればうまくいく」という意識の青少年が多い
- ・ 「友だちが間違っていると思えば、相手が傷つくとしても言ってあげたほうがよい」という意識の青少年が多い
- ・ 「仕事のために、家族と一緒に過ごす時間を減らすべきではない」という意識の青少年が多い

という傾向がみられる。

体験の割合を考慮して学年間で比較すると、

- ・ 学年が上がるほど、「どんなことも、あきらめずにがんばればうまくいく」という意識が低い
- ・ 現在までの体験が豊富であるほど「トラブルを抱えたとき、他に頼れる人がいるなら、頼ったほうがよい」という意識の中学生と高校生が多いが、小学生では差がない

という傾向がみられる。

①現在までの体験の多寡と「自分の弱いところを見せることに対する意識」との関係

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

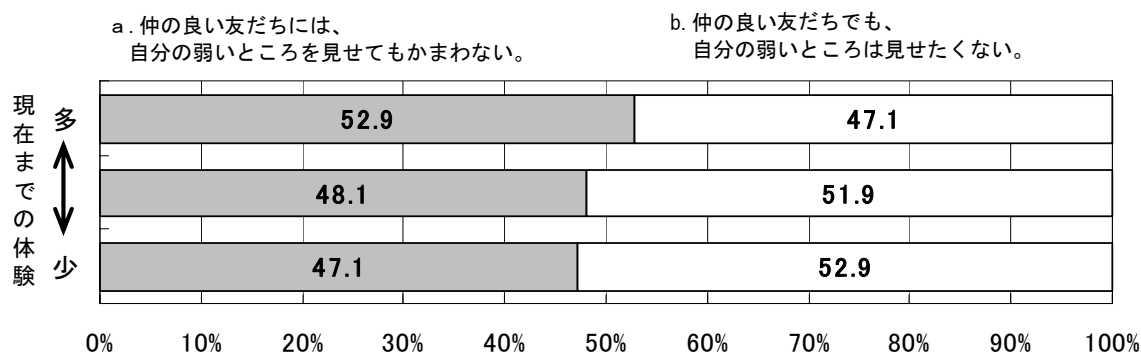


図 4-4-①-1

〔小学校 6 年生〕

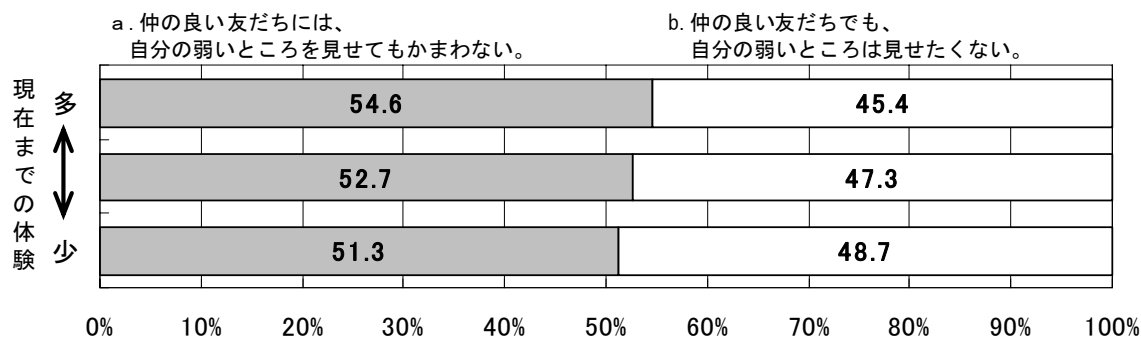


図 4-4-①-2

〔中学 2 年生〕

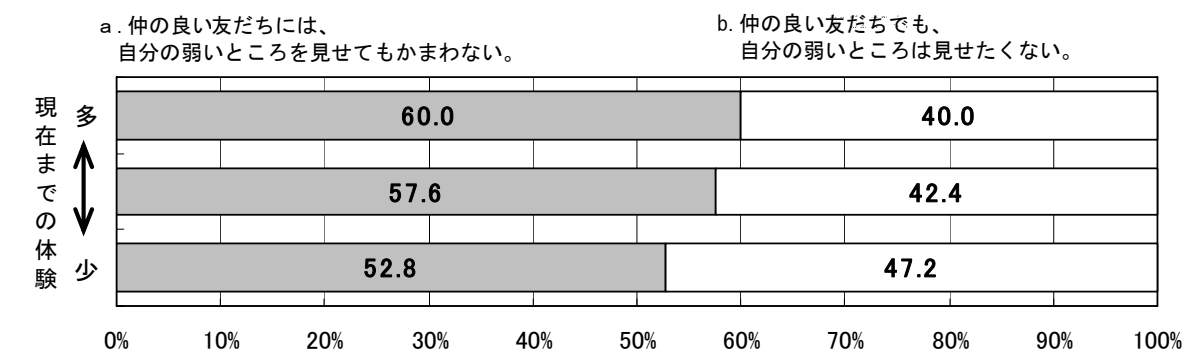


図 4-4-①-3

〔高校 2 年生〕

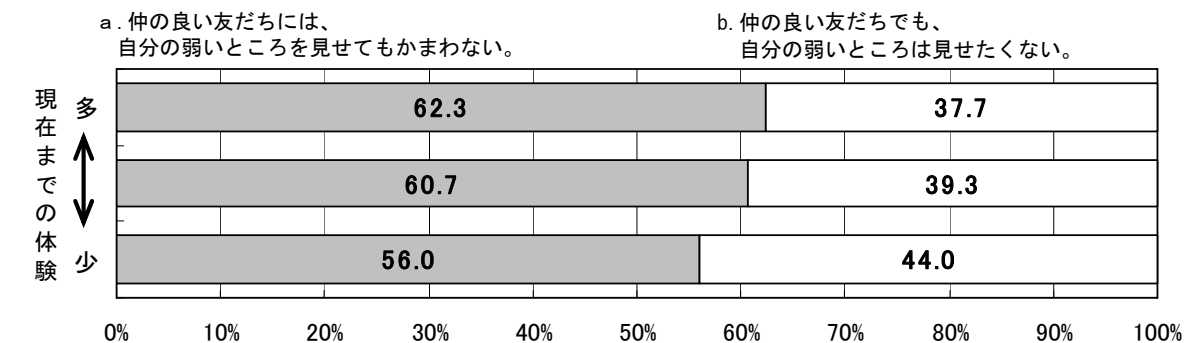


図 4-4-①-4

②現在までの体験の多寡と「自然を破壊することに対する意識」との関係

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

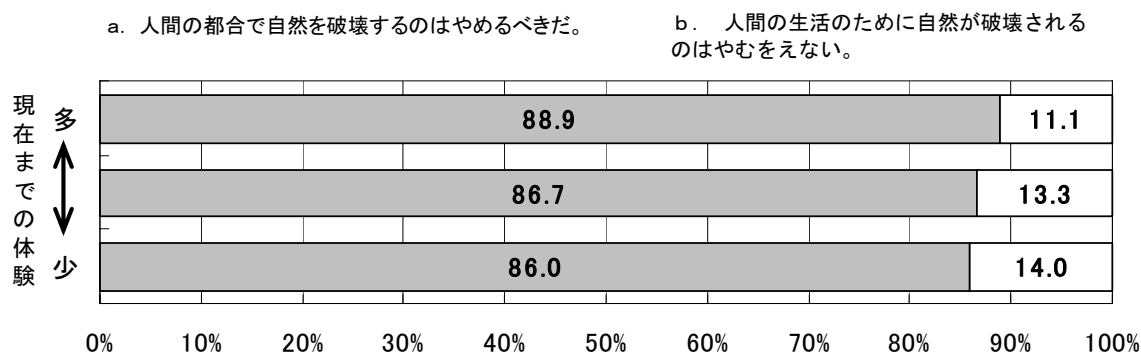


図 4-4-②-1

〔小学校 6 年生〕

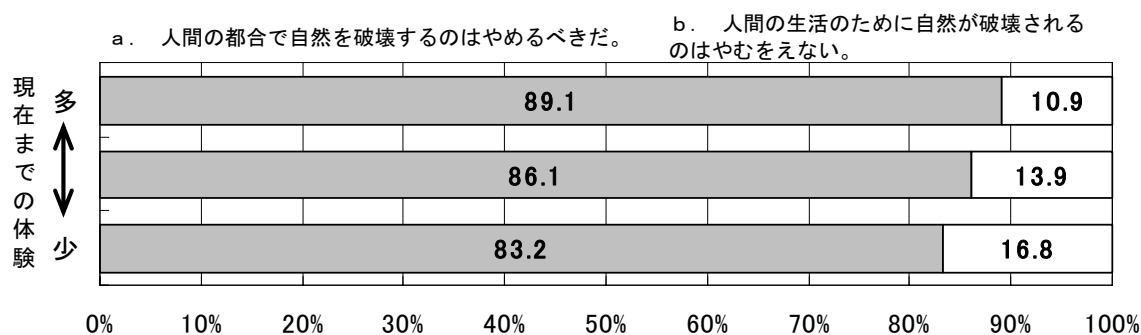


図 4-4-②-2

〔中学 2 年生〕

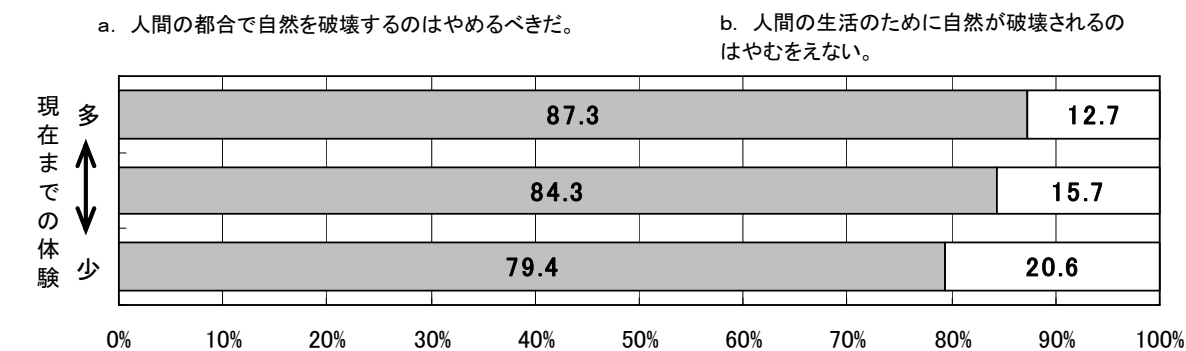


図 4-4-②-3

〔高校 2 年生〕

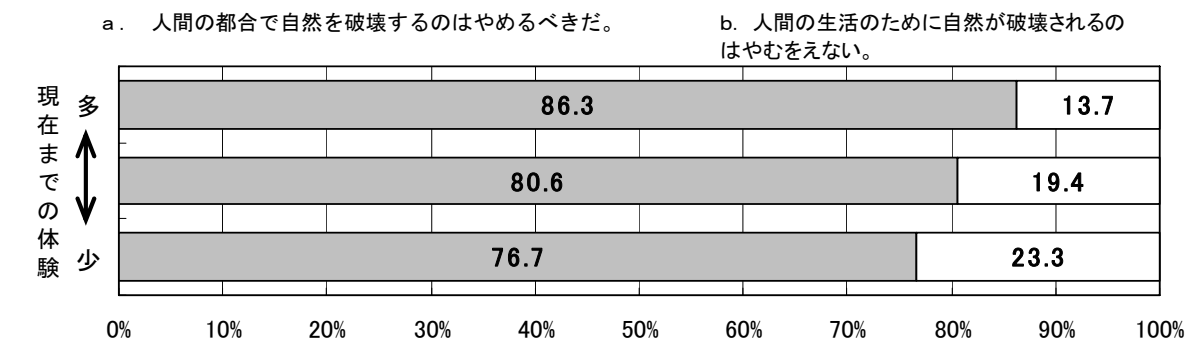


図 4-4-②-4

③現在までの体験の多寡と「物事をやり遂げることに對する意識」との関係

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

- a. がんばってもうまくいかないこともある。 b. どんなことも、あきらめずにがんばればうまくいく。

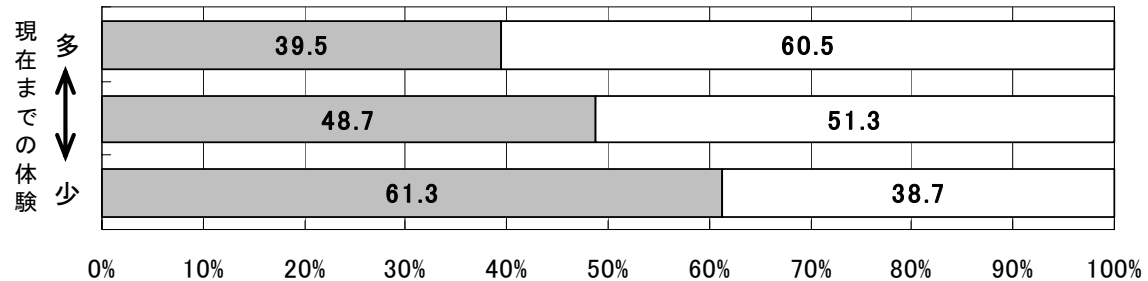


図 4-4-③-1

〔小学校 6 年生〕

- a. がんばってもうまくいかないこともある。 b. どんなことも、あきらめずにがんばればうまくいく。

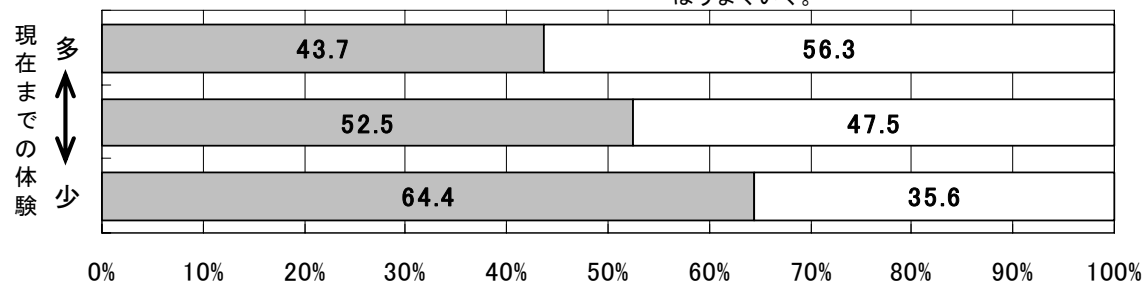


図 4-4-③-2

〔中学 2 年生〕

- a. がんばってもうまくいかないこともある。 b. どんなことも、あきらめずにがんばればうまくいく。

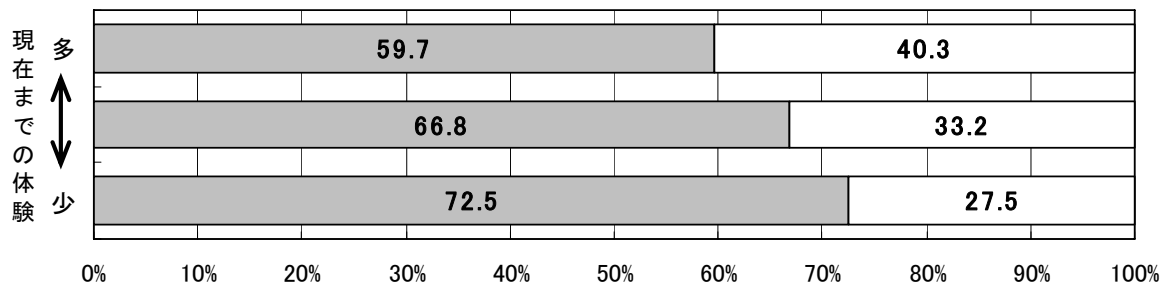


図 4-4-③-3

〔高校 2 年生〕

- a. がんばってもうまくいかないこともある。 b. どんなことも、あきらめずにがんばればうまくいく。

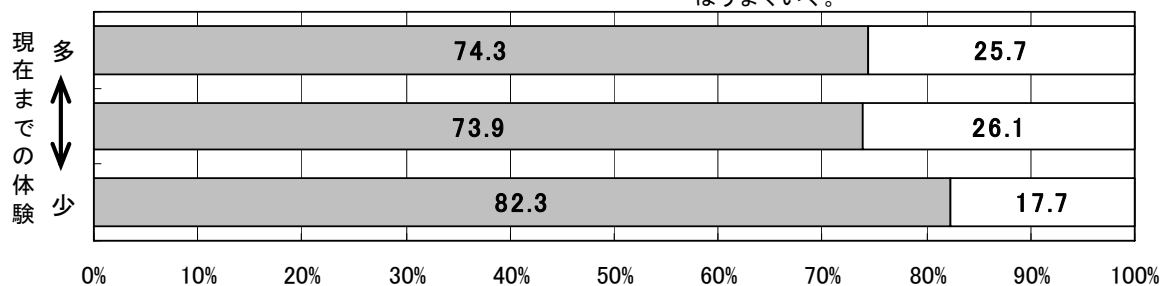


図 4-4-③-4

④現在までの体験の多寡と「学校の成績が幸せに関係するかどうかの意識」との関係

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

a. 学校の成績がよいと、将来幸せになれる。

b. 学校の成績がよいことと、将来の幸せは関係ない。

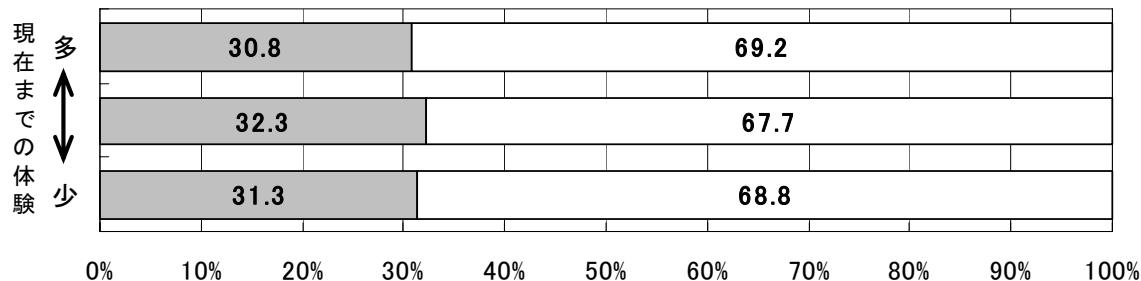


図 4-4-④-1

〔小学校 6 年生〕

a. 学校の成績がよいと、将来幸せになれる。

b. 学校の成績がよいことと、将来の幸せは関係ない。

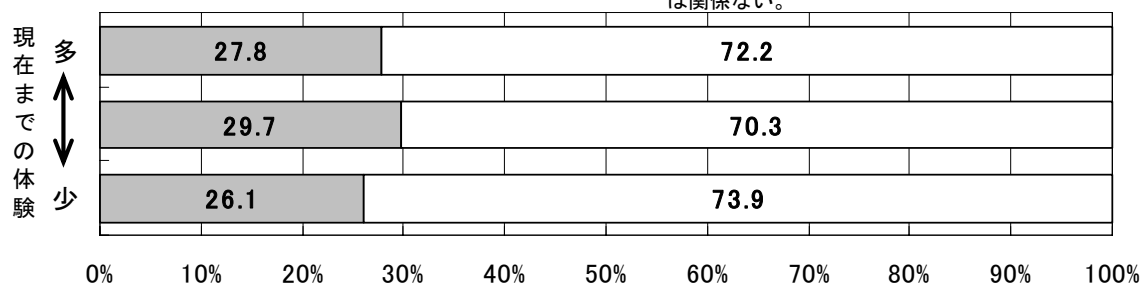


図 4-4-④-2

〔中学 2 年生〕

a. 学校の成績がよいと、将来幸せになれる。

b. 学校の成績がよいことと、将来の幸せは関係ない。

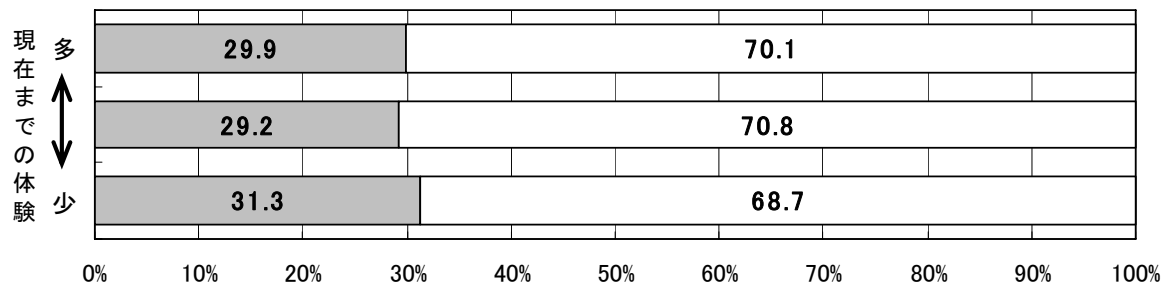


図 4-4-④-3

〔高校 2 年生〕

a. 学校の成績がよいと、将来幸せになれる。

b. 学校の成績がよいことと、将来の幸せは関係ない。

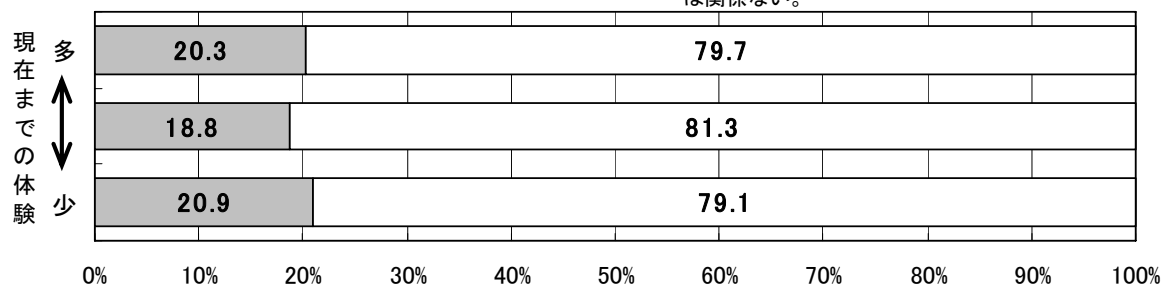


図 4-4-④-4

⑤人との付き合い方に対する意識

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

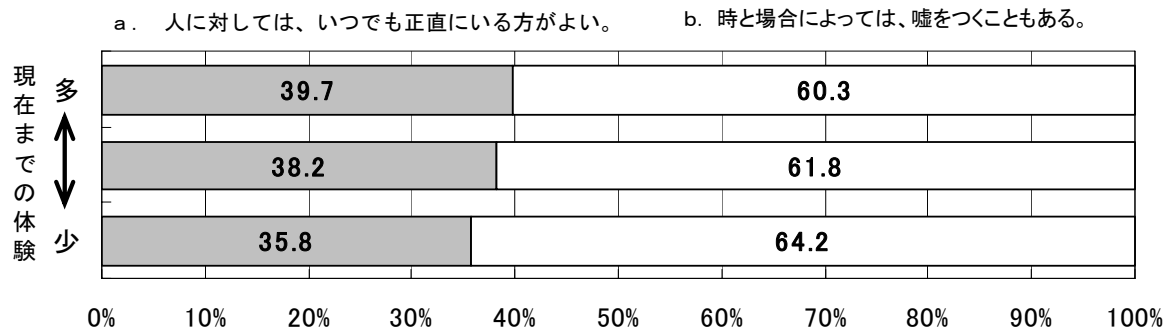


図 4-4-⑤-1

〔小学校 6 年生〕

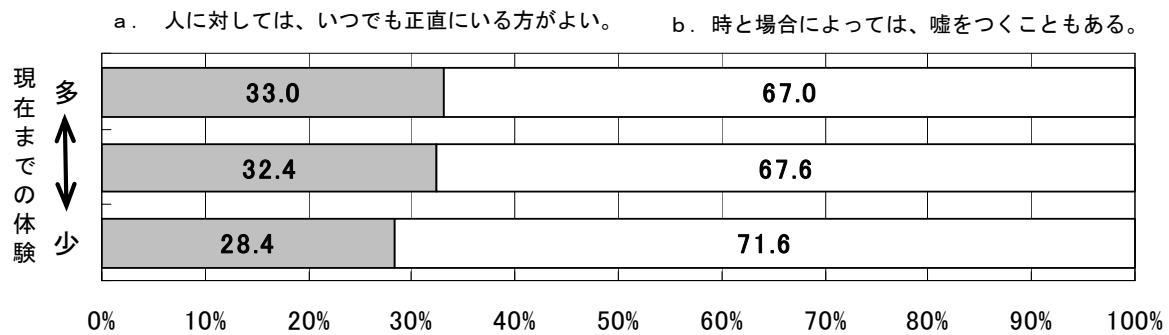


図 4-4-⑤-2

〔中学 2 年生〕

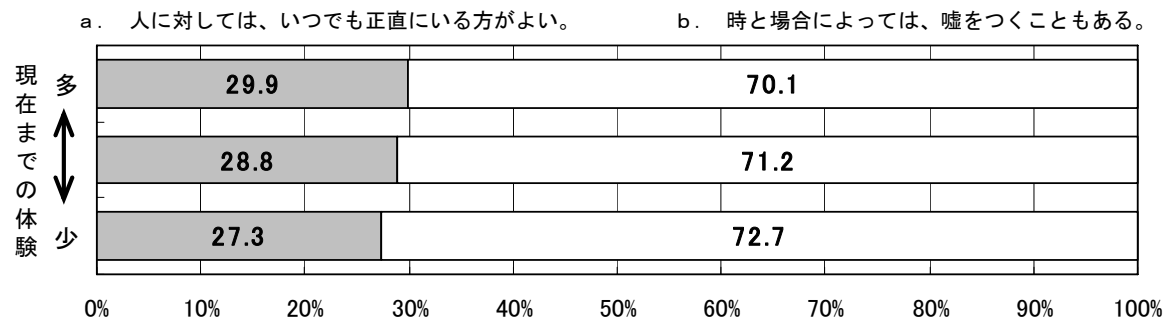


図 4-4-⑤-3

〔高校 2 年生〕

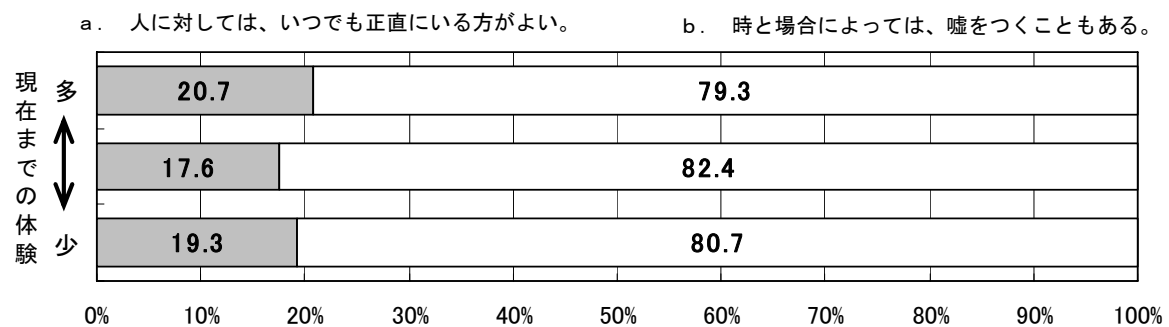


図 4-4-⑤-4

⑥現在までの体験の多寡と「トラブルを抱えたときの他者への依存意識」との関係

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

- a. トラブルを抱えたときは、できるだけ自分ひとりで解決すべきだ。 b. トラブルを抱えたとき、他に頼れる人がいるなら、頼ったほうがよい。

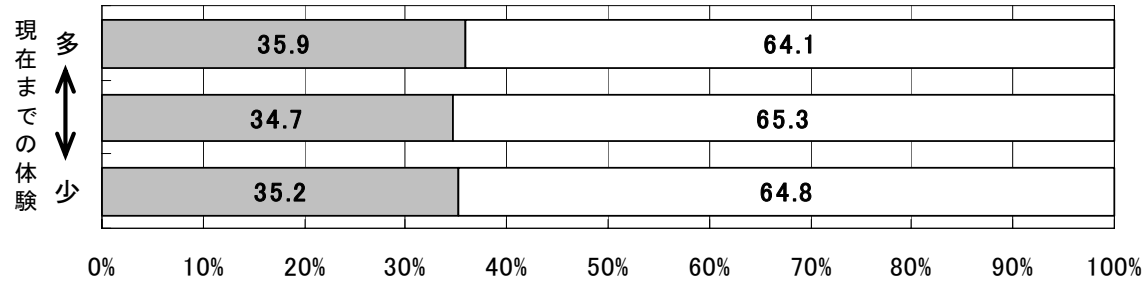


図 4-4-⑥-1

〔小学校 6 年生〕

- a. トラブルを抱えたときは、できるだけ自分ひとりで解決すべきだ。 b. トラブルを抱えたとき、他に頼れる人がいるなら、頼ったほうがよい。

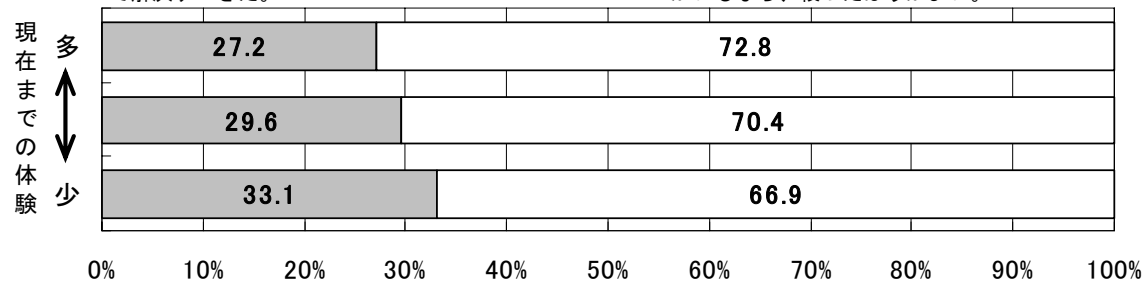


図 4-4-⑥-2

〔中学 2 年生〕

- a. トラブルを抱えたときは、できるだけ自分ひとりで解決すべきだ。 b. トラブルを抱えたとき、他に頼れる人がいるなら、頼ったほうがよい。

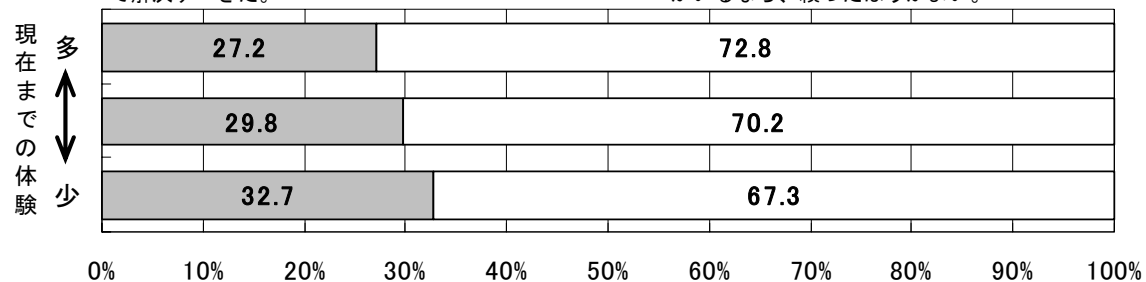


図 4-4-⑥-3

〔高校 2 年生〕

- a. トラブルを抱えたときは、できるだけ自分ひとりで解決すべきだ。 b. トラブルを抱えたとき、他に頼れる人がいるなら、頼ったほうがよい。

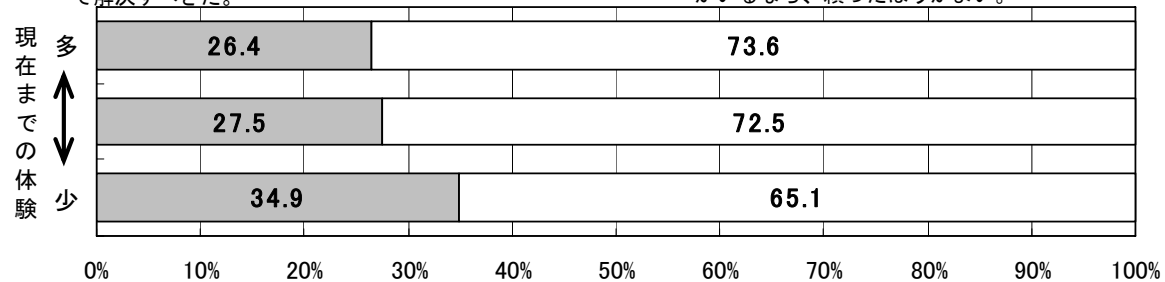


図 4-4-⑥-4

⑦現在までの体験の多寡と「友だちの間違いに気づいたときの対応」との関係

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

a. 友だちが間違っていると思えば、相手が傷つくとしても言ってあげたほうがよい。

b. 友だちが間違っていると思っても、相手が傷つくことは言わないほうがよい。

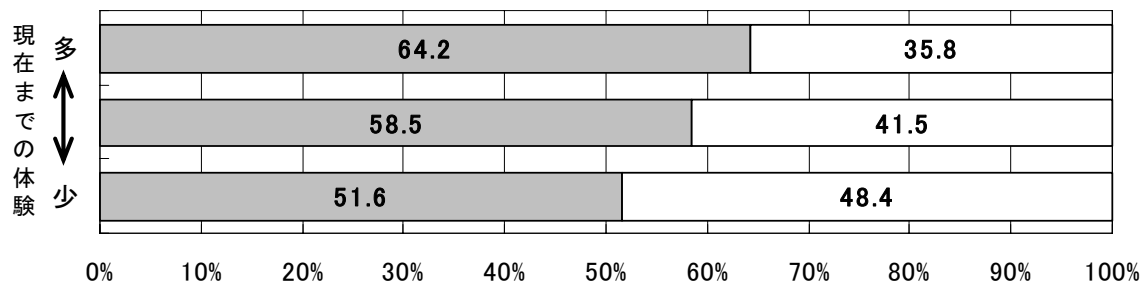


図 4-4-(7)-1

〔小学校 6 年生〕

a. 友だちが間違っていると思えば、相手が傷つくとしても言ってあげたほうがよい。

b. 友だちが間違っていると思っても、相手が傷つくことは言わないほうがよい。

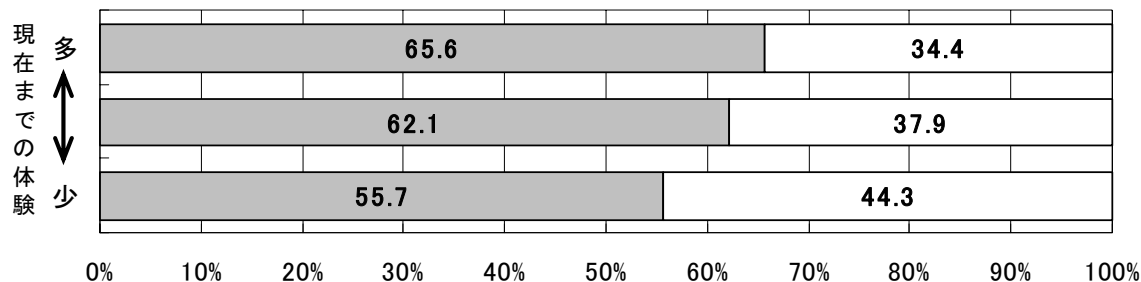


図 4-4-(7)-2

〔中学 2 年生〕

a. 友だちが間違っていると思えば、相手が傷つくとしても言ってあげたほうがよい。

b. 友だちが間違っていると思っても、相手が傷つくことは言わないほうがよい。

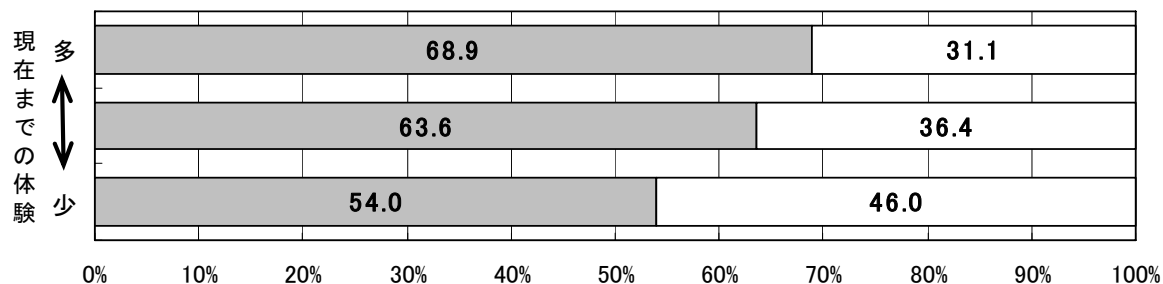


図 4-4-(7)-3

〔高校 2 年生〕

a. 友だちが間違っていると思えば、相手が傷つくとしても言ってあげたほうがよい。

b. 友だちが間違っていると思っても、相手が傷つくことは言わないほうがよい。

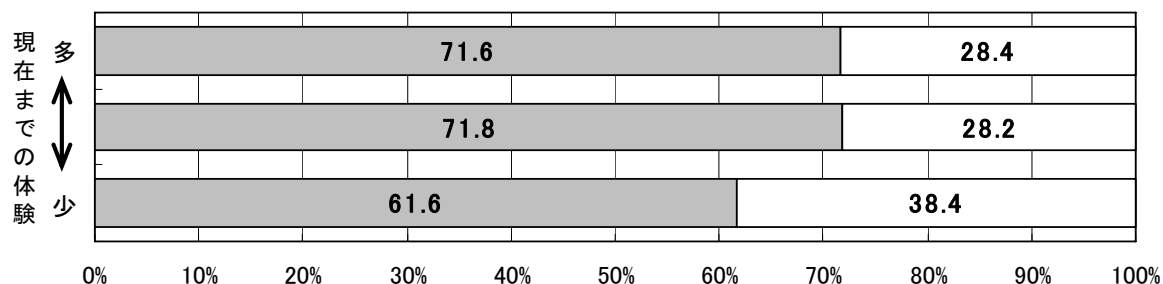


図 4-4-(7)-4

⑧現在までの体験の多寡と「大人になってからお金を稼ぐことへの意識」との関係

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

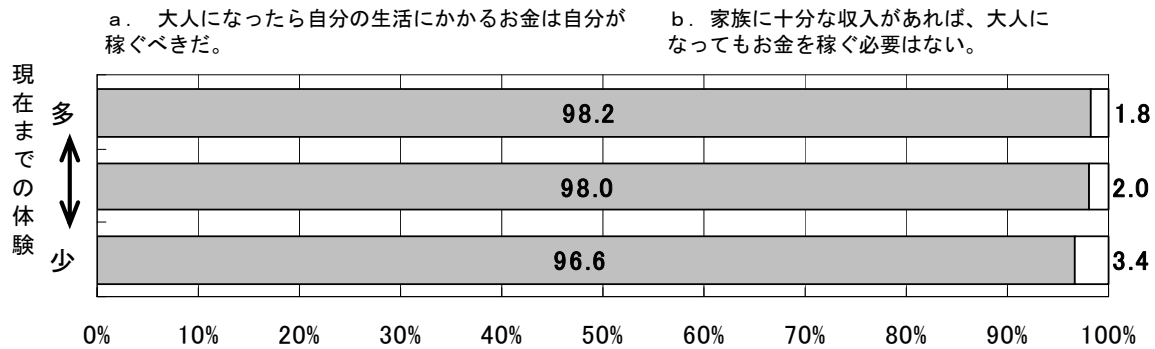


図 4-4-⑧-1

〔小学校 6 年生〕

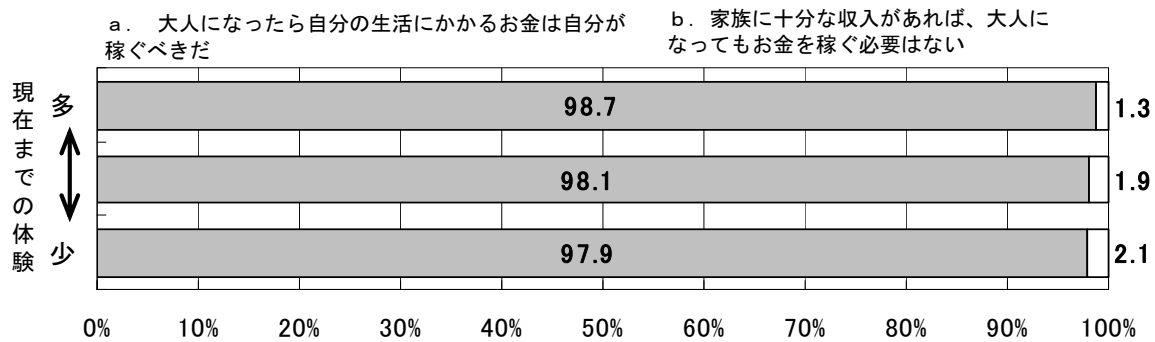


図 4-4-⑧-2

〔中学 2 年生〕

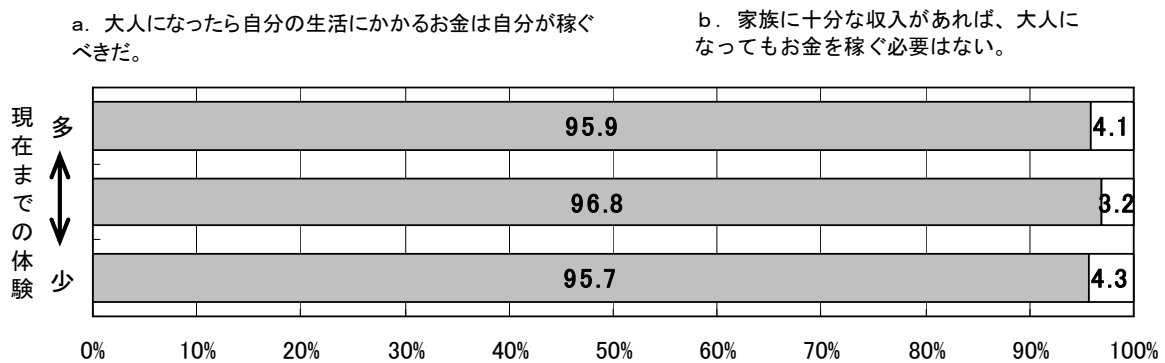


図 4-4-⑧-3

〔高校 2 年生〕

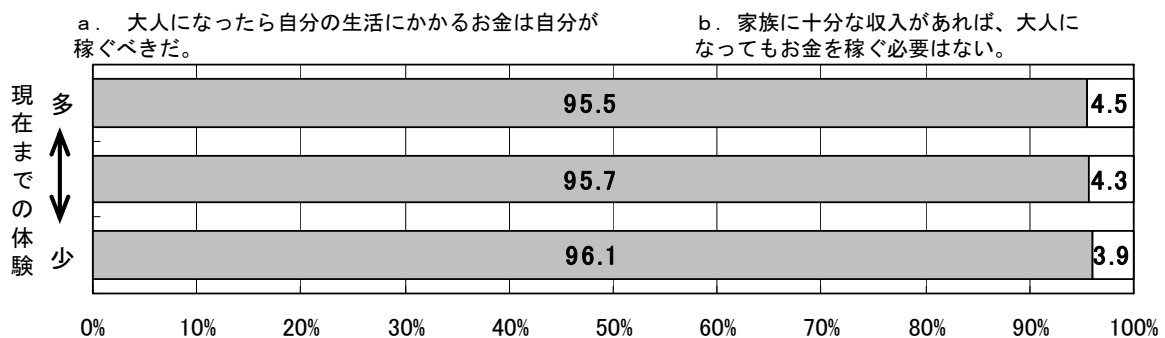


図 4-4-⑧-4

⑨現在までの体験の多寡と「家族で一緒に過ごす時間についての意識」との関係

【青少年調査】

〔小学校5年生〕

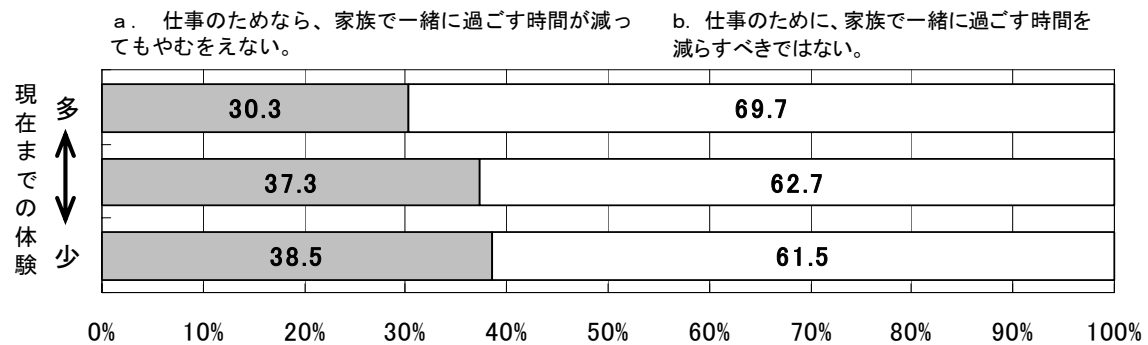


図 4-4-⑨-1

〔小学校6年生〕

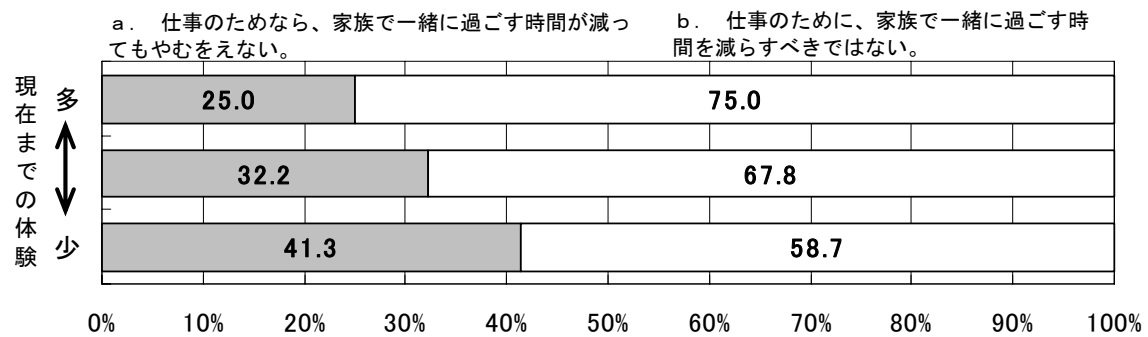


図 4-4-⑨-2

〔中学2年生〕

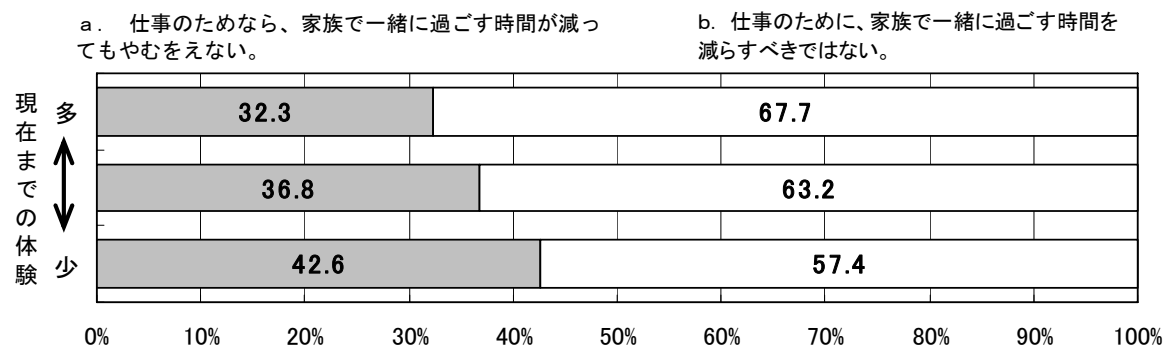


図 4-4-⑨-3

〔高校2年生〕

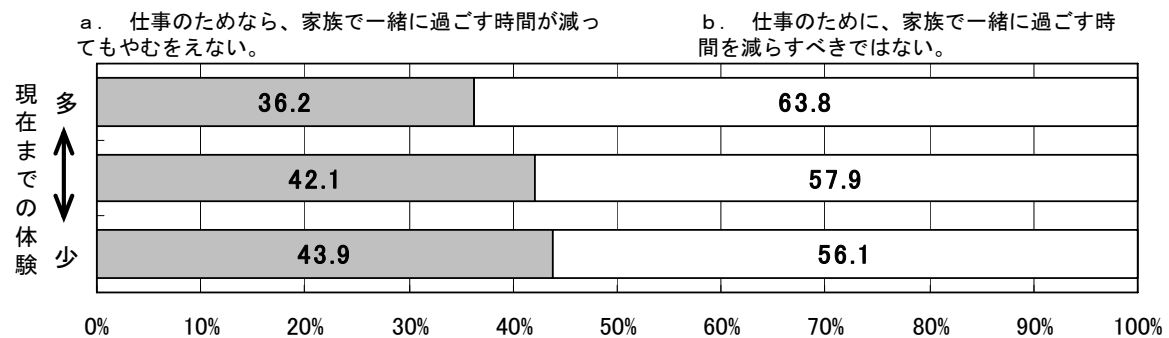


図 4-4-⑨-4

⑩現在までの体験の多寡と「生活していく国についての意識」との関係

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

- a. 今後もできるだけ日本で生活していきたい。 b. 今後、できれば日本以外の国で生活したい。

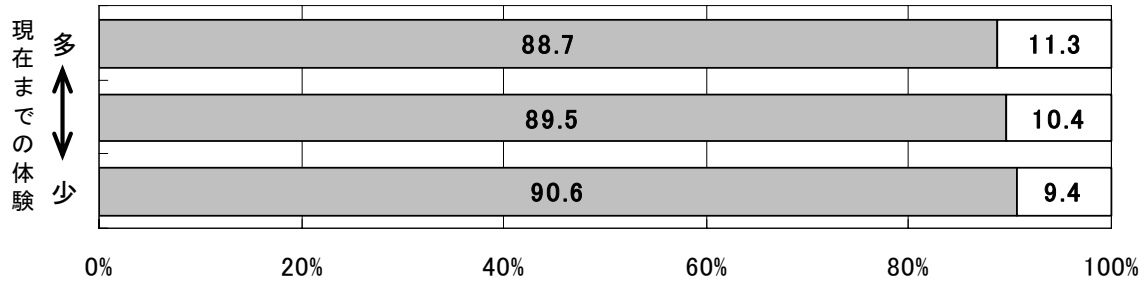


図 4-4-⑩-1

〔小学校 6 年生〕

- a. 今後もできるだけ日本で生活していきたい。 b. 今後、できれば日本以外の国で生活したい。

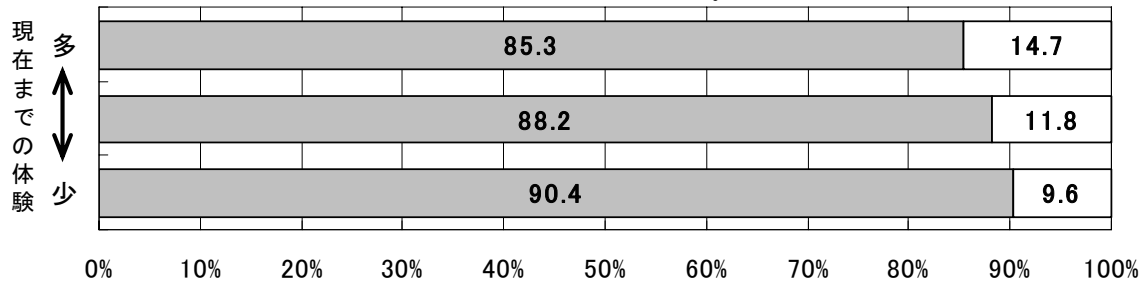


図 4-4-⑩-2

〔中学 2 年生〕

- a. 今後もできるだけ日本で生活していきたい。 b. 今後、できれば日本以外の国で生活したい。



図 4-4-⑩-3

〔高校 2 年生〕

- a. 今後もできるだけ日本で生活していきたい。 b. 今後、できれば日本以外の国で生活したい。

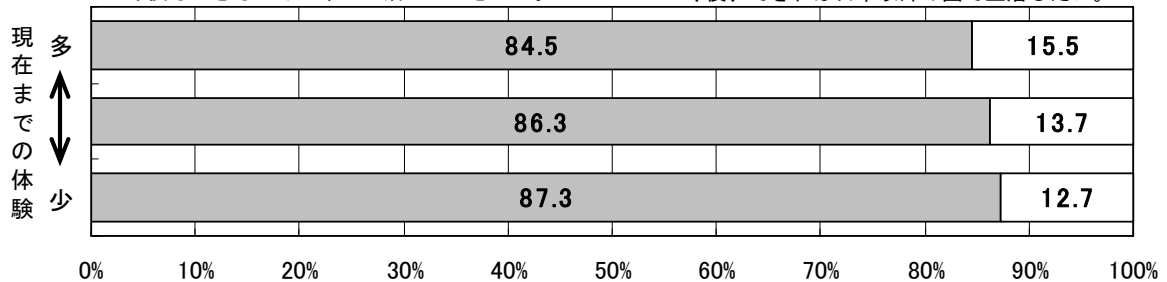


図 4-4-⑩-4

5. 現在までの体験の多寡と生活実態の関係

青少年調査の結果をもとに、現在の生活実態について設けた設問に対し、小学5年生、小学6年生、中学2年生、高校2年生が回答とした結果と現在までの体験の多寡をクロス集計した結果を示す。

【青少年調査】

現在までの体験が豊富であるほど、

- ・ 携帯電話を所持する割合が多い
- ・ 1ヶ月に読む本の冊数が多い
- ・ テレビゲームやコンピューターゲームをすることが少ない

という傾向がみられる。

体験の割合を考慮して学年間で比較すると、

- ・ 学年が上がるほど、携帯電話を所持する割合が増える、高校2年生については、体験の多寡に関係なく所持する割合が高い
- ・ 学年が上がるほど、1ヶ月に読む本の冊数が少なくなる
- ・ 小学5年生については、現在までの体験が多くなるほどインターネットを使用しており、マンガ本(マンガ雑誌含む)を読んでいる

という傾向がみられる。

① 携帯電話の所持

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

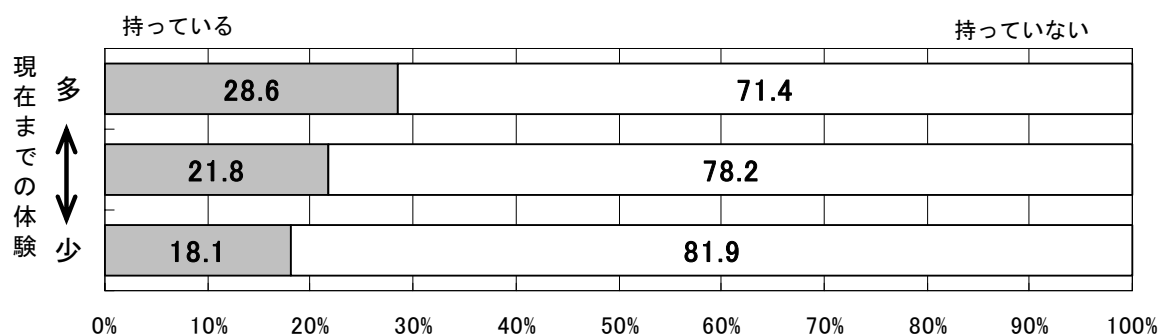


図 4-5-①-1

〔小学校 6 年生〕

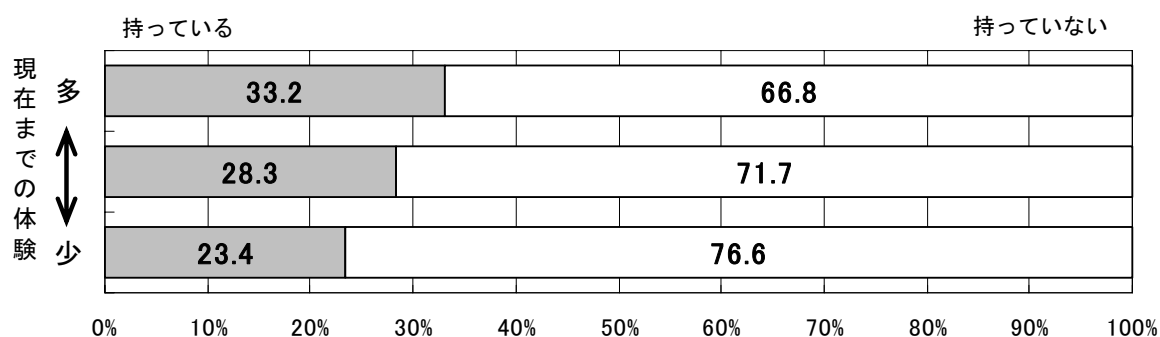


図 4-5-①-2

〔中学 2 年生〕

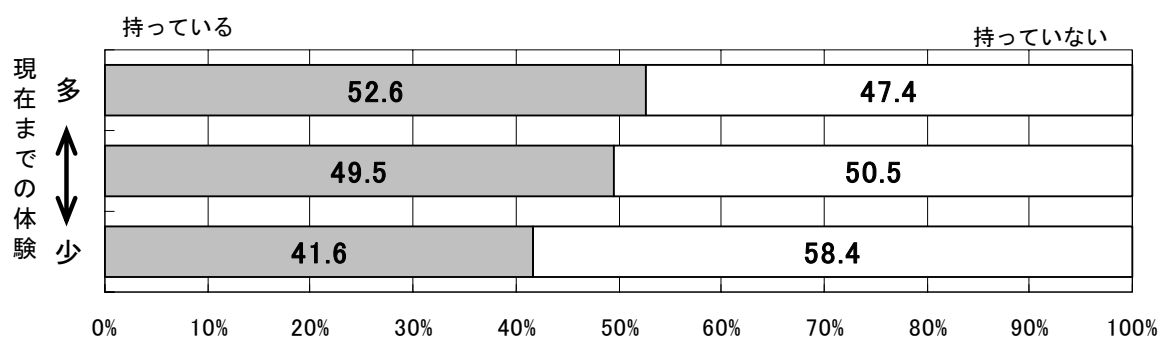


図 4-5-①-3

〔高校 2 年生〕

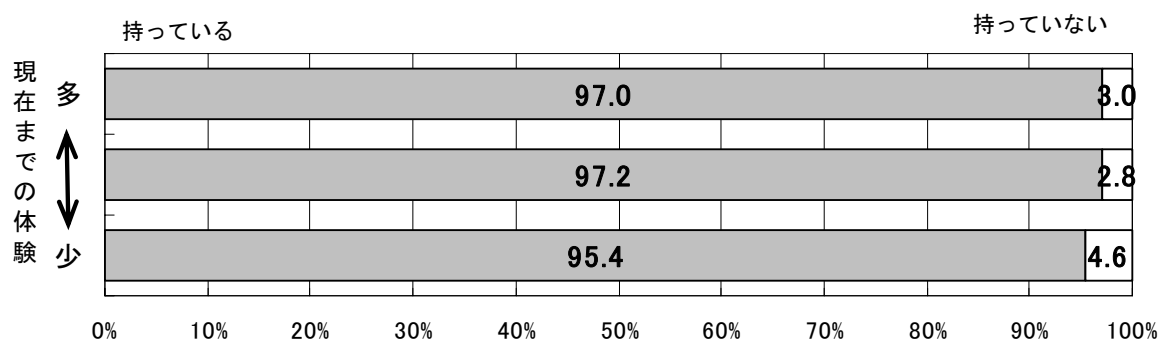
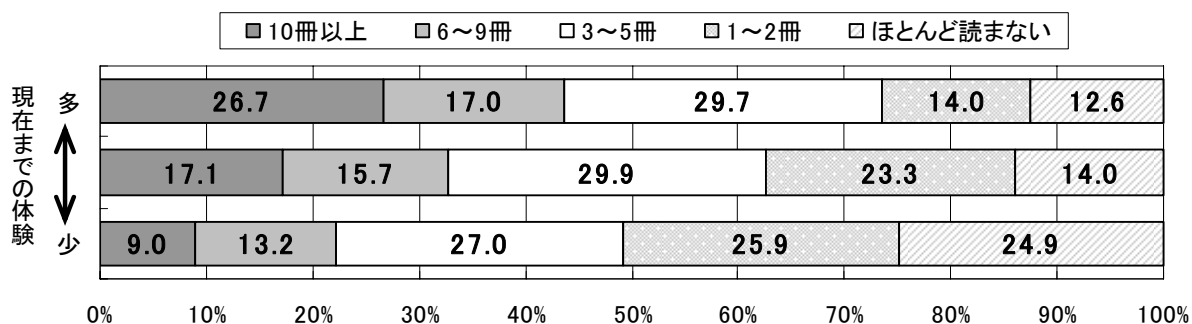


図 4-5-①-4

② 1ヶ月に読む本の冊数

【青少年調査】

[小学校5年生]



[小学校6年生]

図 4-5-②-1

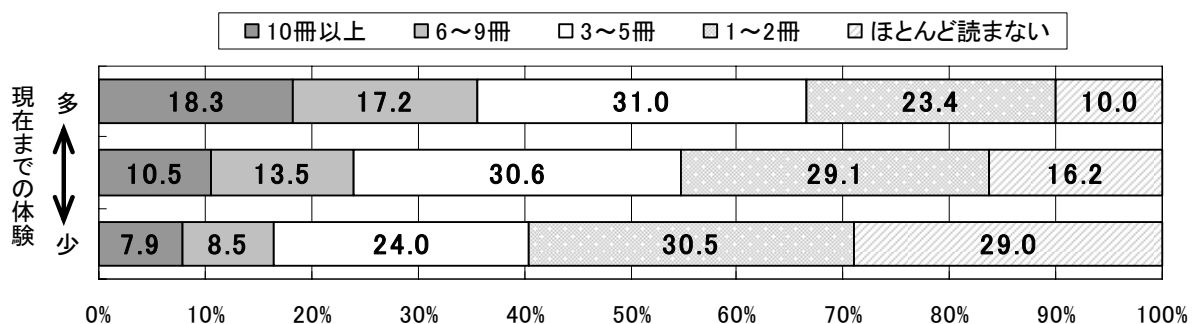


図 4-5-②-2

[中学2年生]

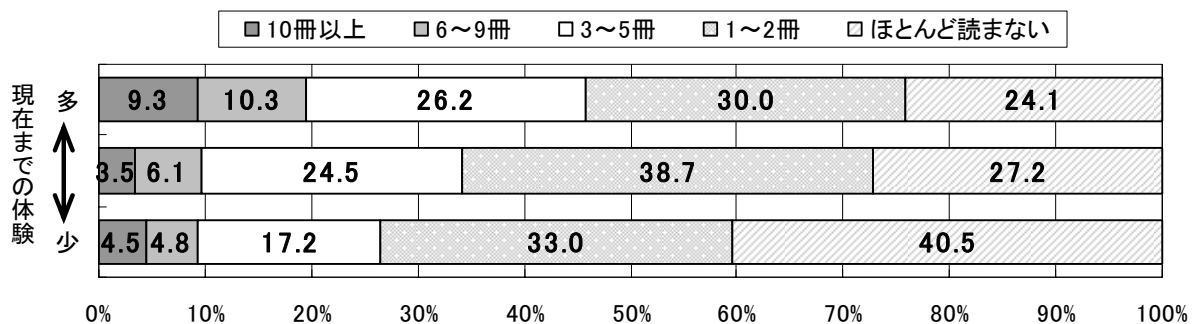


図 4-5-②-3

[高校2年生]

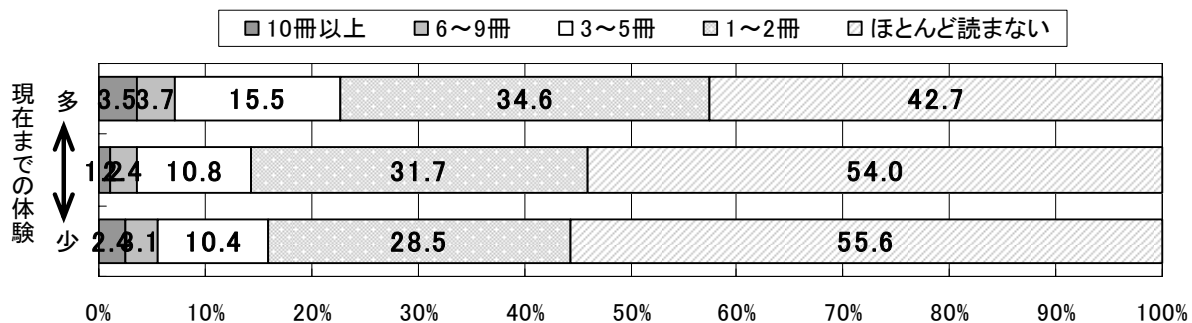


図 4-5-②-4

③ テレビゲームやコンピューターゲームをすること

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

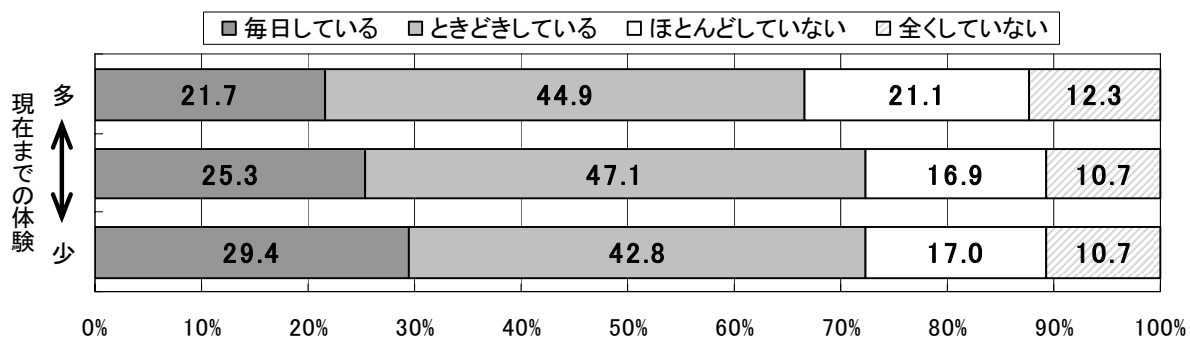


図 4-5-③-1

〔小学校 6 年生〕

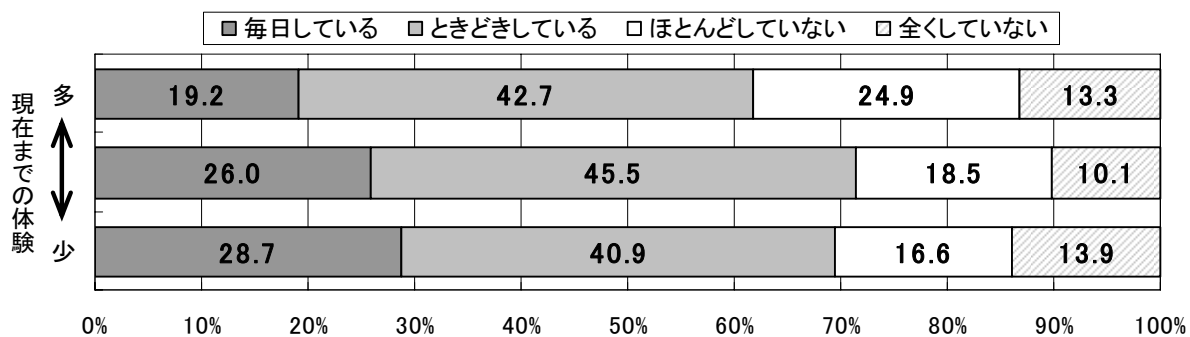


図 4-5-③-2

〔中学 2 年生〕

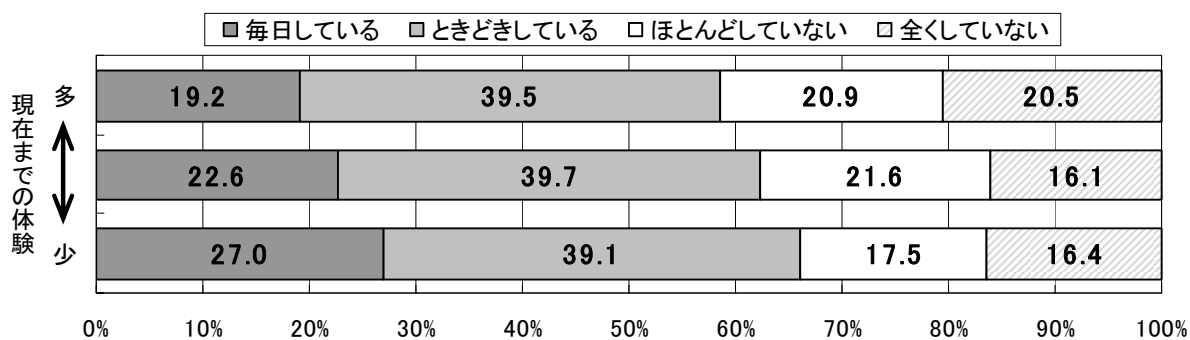


図 4-5-③-3

〔高校 2 年生〕

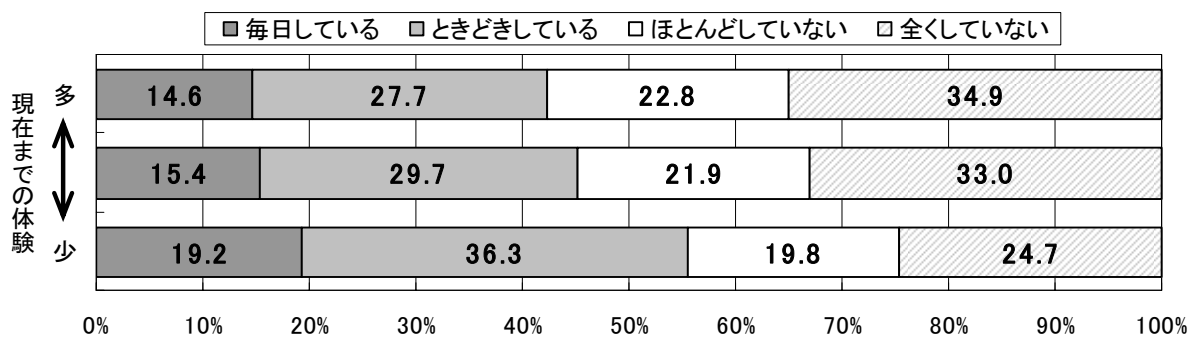


図 4-5-③-4

④ インターネットを利用すること

【青少年調査】

〔小学校 5 年生〕

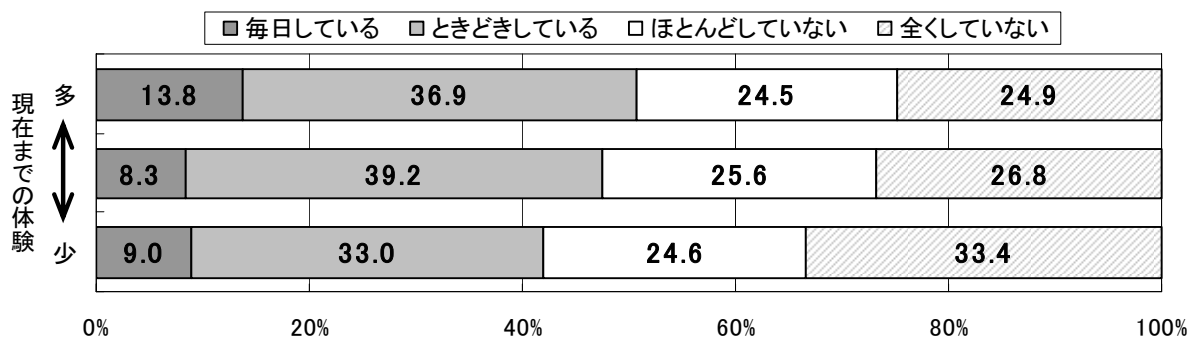


図 4-5-④-1

〔小学校 6 年生〕

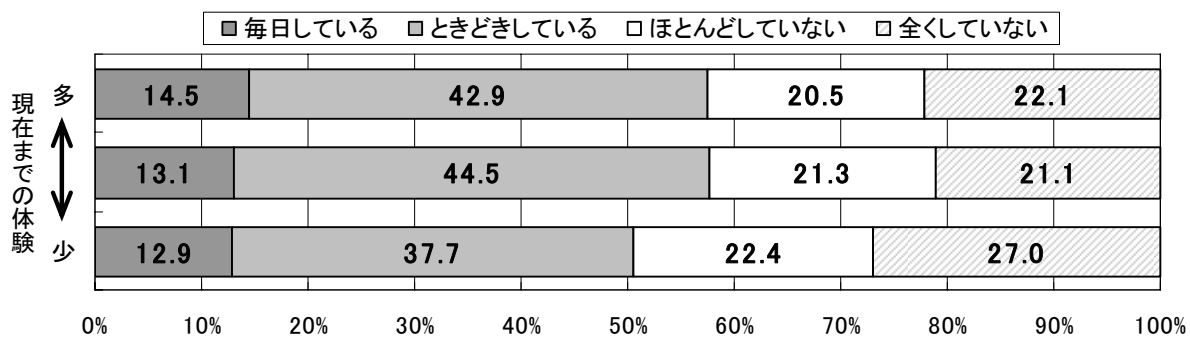


図 4-5-④-2

〔中学 2 年生〕

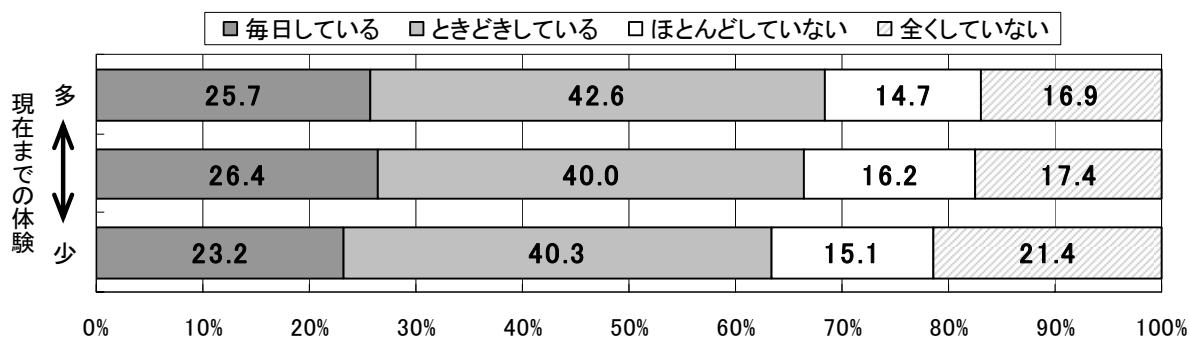


図 4-5-④-3

〔高校 2 年生〕

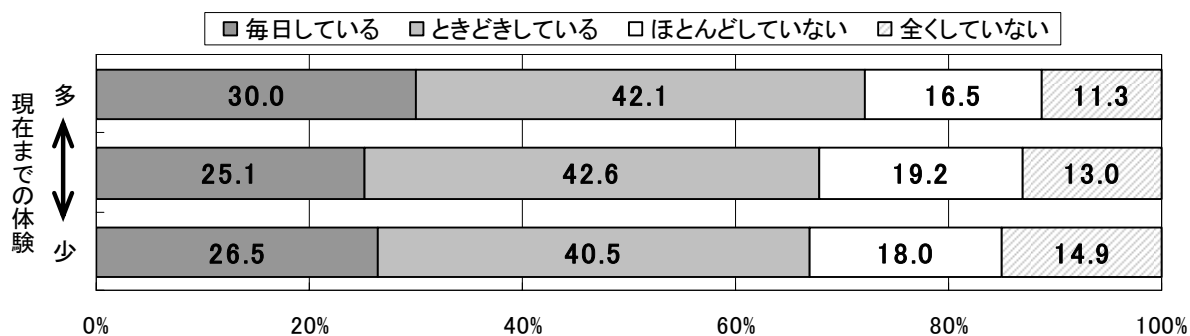


図 4-5-④-4

⑤ マンガ本(マンガ雑誌も含みます)を読むこと

【青少年調査】

[小学校 5 年生]

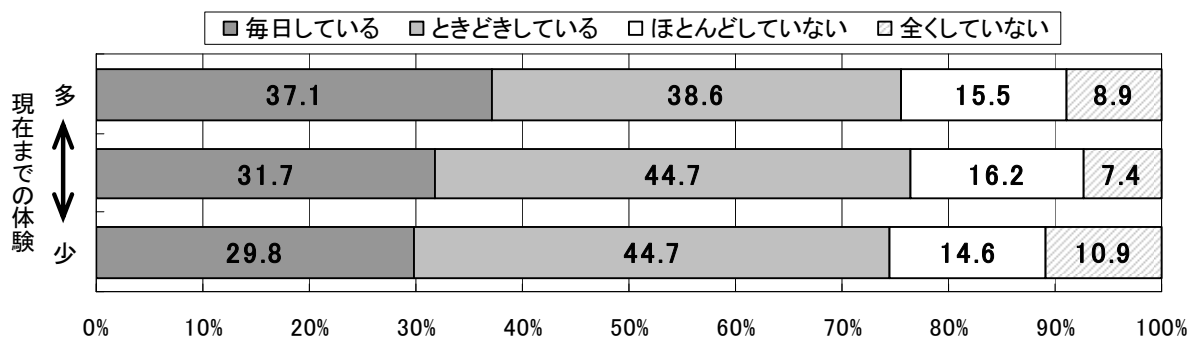


図 4-5-⑤-1

[小学校 6 年生]

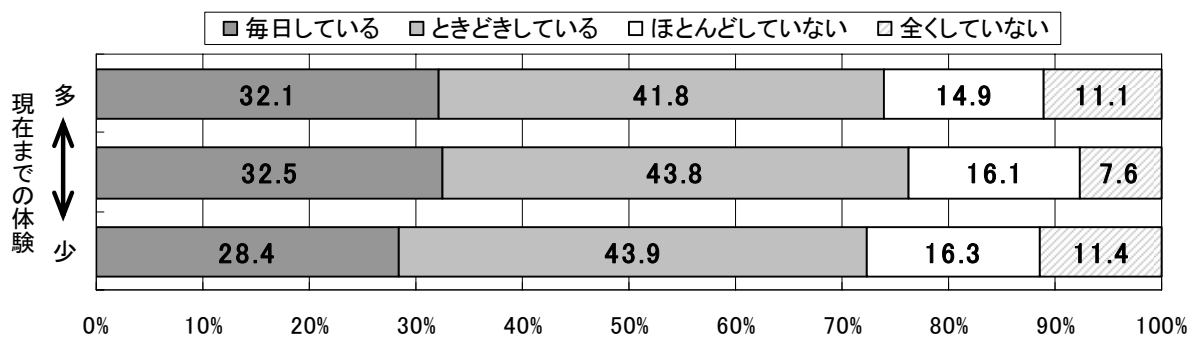


図 4-5-⑤-2

[中学 2 年生]

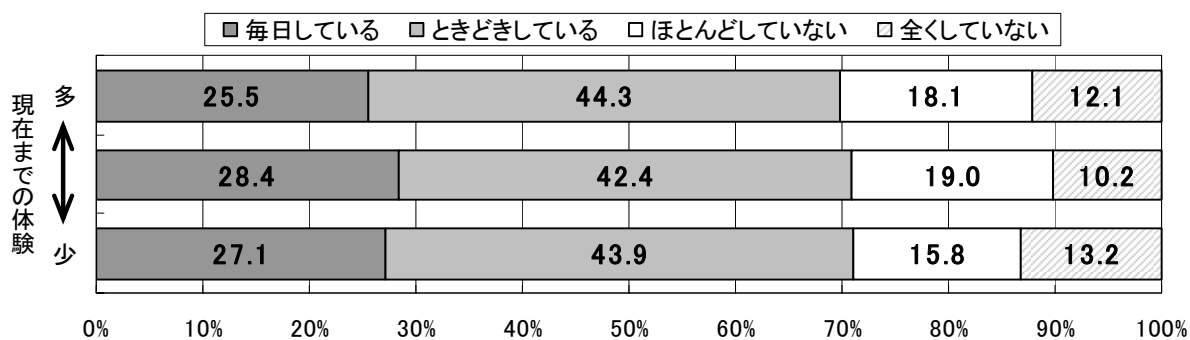


図 4-5-⑤-3

[高校 2 年生]

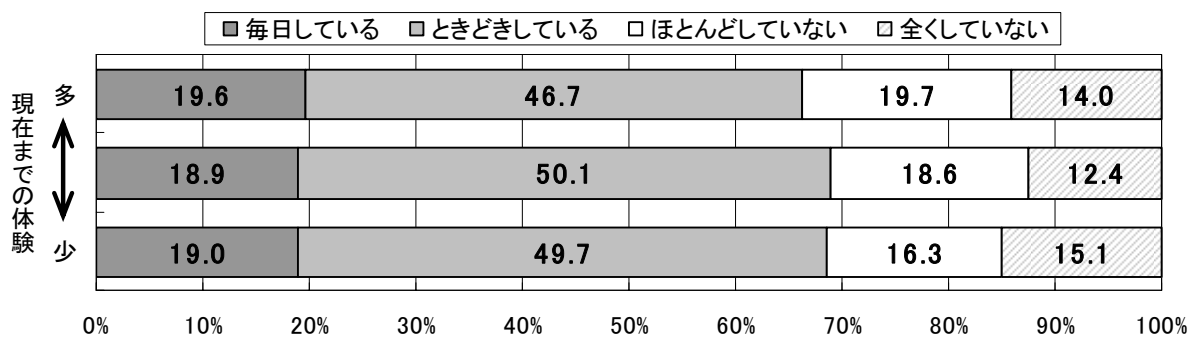


図 4-5-⑤-4

6. 現在の子どもたちの意識

青少年調査の結果を用いて、現在の子どもたちの意識に関するクロス集計の結果を示す。

現在の子どもたちは、

- ・いつも遊んでいる友人の数が多き子どもほど「学校が好きである」
- ・「あの人のようになりたい」と思う大人がいる子どもほど、「自分にはなりたい職業や、やってみたい仕事がある」

という傾向がみられる。

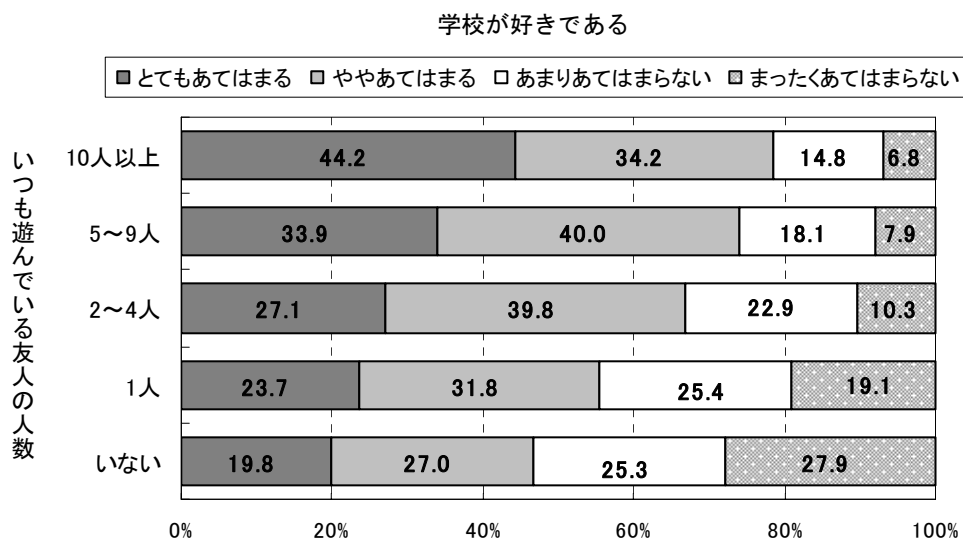


図 4-6-1. 「いつも遊んでいる友人の人数」と「学校が好きである」との関係

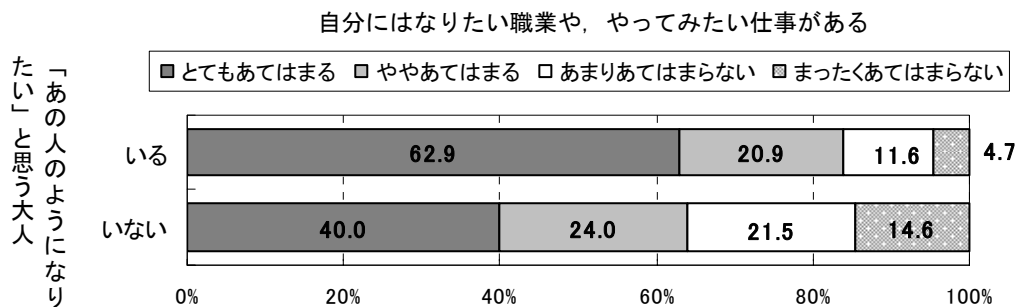


図 4-6-2. 「あの人のようになりたい」と思う大人の有無と「自分にはなりたい職業や、やってみたい仕事がある」との関係